

Vol 18

南国暮らしの会

特定非営利活動法人

2002年 会報 秋季号



平成14年10月12日

☆ 編集委員より

♪この会報は会員みんなの会報です
いい情報もみんなで共有しましょう
皆さんの南国経験や情報を是非原稿としてお寄せください
お待ちしております

窓口 小川 護雄 TEL : 044-986-9052
Eメール : mo.ogawa@mx10.ttcn.ne.jp
小沢 務 TEL : 03-3949-2436
Eメール : g-ozawa@dab.hi-ho.ne.jp
大野 隆司 TEL : 0429-82-3247
Eメール : etsuko-oono@bi.wakwak.com

♪次回「新年号」は来年1月発行です。よって原稿の締め切りは12月15日が目安です

「南国暮らしの会」からのお勧め

自己責任 * 納得の上 * 自己決定

南国で買い物をするときには、すぐ買わず、
情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、
しばらく試してみて納得してから
自分の責任において自己決定する

「南国どどいつ」

♪ 南国暮らしで、主婦業からはれてハッピーリタイアー ♪

表 紙 ギナバル山 No. 96 宮澤 英光

会報担当より

目 次 1

情報交換会講演要旨.....

○南 東 ア ジ ア 3 カ 月 会員 No. 40 平澤信 2～3

○フ ィ リ ピ ン 最 新 情 報 フィリピン政府観光局横山恭彦 4

○タイ、フィリピン、マレーシアの裏事情 マイク浅野 5

○オーストラリアにおけるサービスについて オーストラリア.ゲートウェイ社小川雅人 6

海外滞在会員からの寄稿 7～22

ロングステイ最適地探しの旅 No.96 宮澤 英光 23～28

東南アジア諸国見聞録(ベトナム) No. 40 平澤 信 29～37

マルタ島エンジョイライフ二号 No. 128 稲廷 裕 38～40

ぶらさがった人参を追いかけた80才の牝馬 No. 428 岩瀬 光子 41～46

V A N C O U V E R 滞 在 記 No. 117 龍野 宏 47～49

セ ブ 便 り No. 27 鈴木 博 50～52

マレーシアのLSビザについて No. 59 米田 隆雄 53～54

チェンマイを訪問する季節 No. 350 宮 博 55

ダバオにヘルパー養成教室新設 No. 341 平野 雅一 56

ウェールズからの便り 会友 長島 稔 57～59

掲示板 60

支部・委員会のご連絡 61～64

東南アジア 3 カ月

会員 No. 40 平澤信



講演をする平澤さん

(タイ)、ベトナム、ラオス、カンボジアを3か月旅行してきた。現地総経費54万円なので、一日平均4,800円となる。(長距離の移動は航空機使用)。宿泊費はバンコクのような大都会では1,800円位のところもあったが、ベトナム、ラオスでは680円くらいの宿も多く、平均10ドル(1,000~1,200)前後であげることができた。旅を終わっての感想は、1か所に留まって生活するのであれば、上記4か国では、月額5~7万円程度でロングステイできる感触が得られた。イギリス人の40%は海外移住を希望していると聞いた。その理由として物価が安く、気候のよい東南アジアを選ぶとのことだが、日本も物価高である事や年金額の切下げが予想される事から、海外で生活したいと言う人が今後増えてくると思う。

私も今度の旅行で、海外で住んでみたいと思ったところは沢山あった。タイのチェンライやメーサイ、ノンカーイ、ベトナムのホーチミン(サイゴン)、ハノイ、ラオスのルアンパバーン、カンボジアのプノンペン辺りは住んでみたいと思った。

言葉については、ちょっとした旅行用の日常会話ができれば、心配する必要はないと思った。堪能であったほうが楽しいとは思ふ。

医療の点では私自身、タイのチェンマイで入院を体験した。部屋は24時間付添の付くVIPルーム、個室、2人部屋、4人部屋、6人部屋などがある。VIPルームは旅行保険でも使用できるが、自分でトイレにもいけないくらいの大手術や大怪我をした人でなければ遠慮して欲しいとの事であった。私は個室を選んだ。ちょっとしたホテルより豪華で、実に居心地がよかった。私はマスターカード付帯の旅行保険を利用したので、全く問題がなかった。カードの保険を利用の場合は、カードとともに「クラブインシュアランス」という規則集も必ず持参すること。シティバンク・カードをお持ちの方は特に航空券かスカイライナーを購入し、海外渡航の意思表示をしないと保険の適用は受けられないので要注意だ。

ベトナムのVISAはバンコクのツーリストオフィスで1か月のものを取った。ベトナムのツーリスト・オフィスの人の話では1か月ビザで入国して1年間まで延長可能とのことであった。ベトナムは社会主義国だが街ではもう戦争の跡もなく、ホーチミンの人達は特に明るく、食べ物も豊富なので住んでみたいと思った。山岳民族居住地などを除けば東南アジアはどこでも日本人にとってステイは可能と言う印象を持った。戦争証跡博物館は楽しいところではないが、日本語の説明もあり、負の遺産として旅行者もみる必要を感じた。食物の味付けは淡泊で日本人の嗜好に合うと思った。ベトナムのメコンデルタ辺りの生活はTVはあるが、冷蔵庫や洗濯機はまだない生活であった。ベトナムのホテルは大体どこでも10ドル程度で天井は高く、漆喰が白く、清潔なシーツ、お湯の出るシャワーの部屋が調達できる。

ハノイは美しいがちょっと厳しそうな雰囲気がある。ホテルは8~12ドルで朝食付きのところもある。ホアロー収容所には拷問の道具などが展示され、長い戦争の面影が残る。街では天秤棒の先の鍋で天麩羅を揚げながら売り歩いている姿が興味深かった。ハノイ→サパは4泊5日のツアーに参加した(62ドル)。山岳民族の

住む村の生活は、日本では100年以上も前の生活を思わせるものという印象だった。市場では犬の肉が丸ごと売られていてショックを受けた。唯一不快だったのは、露天のような食堂で、言葉（英語）が通じない振りをして食べきれないほどの料理が出され、1,000円も取られたことだ。

ラオスVISAはベトナムVISAと一緒にバンコクで取った。社会主義国だが、官僚的な雰囲気は感じられなかった。但し、航空機や列車などに外国人料金があり、ラオス人の3倍の料金設定になっている。

私はビエンチャンからラオスの最北端の街ムアンシンまで縦断の旅をしたが、ライフ・ライン（電気・ガス・水道設備）が整っているのは全体の20パーセント程度で、場所によっては1日3時間しか電気が点かないため、夜はローソクが一本ずつ配られた。

物価は安く、高級ホテルはビエンチャンやルアンパバーン以外のところにはない。従って、宿代はムアンシンなどの場所によっては、個室でも日本円200円くらいからあり、私は5ドルのロジ風の良い部屋に泊まった。ラオスは鉄道がないため、列車に乗ってみる事ができなかった。ルアンナムターから北は観光バスも走っていないので、現地の人に混じってトラックバスに同乗した。

経済面は未発達で、タイやベトナムが優等生に見えるくらいだが、食生活は自給自足なのでとても豊かだった。ラオスは世界の最貧国のひとつと言われているお国柄なので、日本人がロングステイできる場所はビエンチャンやルアンパバーン辺りと、かなり限定されると思う。

牧歌的で、人々は素朴そのもので、旅人をだましてやろうと言った発想自体がなく、首都ビエンチャン辺りをのぞけば、どこもかしこものどかな気分で旅ができる。旅人としては楽しい国だ。ラオスはインフレがひどく、自国通貨のキップよりも米ドルの方が信用があり、どこでも通用するのでドルの小額紙幣を多く持参するのが賢明である。東南アジアの中ではラ

オス人が一番日本人に感覚が似ていると思った。

カンボジアVISAはカンボジアの空港で誰でも簡単にその場で取れる。

カンボジアは、ポルポト政権崩壊後、まだ5年しか経っていないので、プノンペンは何となく落ち着かない感じは否めないが、シェムリアップからアンコールワットは日本人観光客が多く外国にいる気がしないくらいだった。観光のメッカなので、ホテル代は比較的高く、10ドルでは良い宿はなかった。食べ物も、ホテルで食事を取るのが一般的なので割高になる。移動の足は、バイクのお尻に乗せてもらうか、タクシーになるが、シェムリアップでは遠出をしない場合は、1～3ドル程度で事足りるので、スーパーへの買物や、アンコールワットへ観光の時など、主にバイクを利用した。タクシーは1日25ドル（3,250円）と割高だ。

カンボジアに住むなら、プノンペンが良いと思った。食べ物は美味しいし、ホテルも10ドルでエア・コン、お湯のシャワーの部屋がある。

ラオスの人達に比べるとちょっと気が抜けない感がある。宿泊したプノンペンのホテルで、偶然にも長期滞在している中高年の日本人男性2人に会った。プノンペンは王宮や美術館など見るところも多いが、トールスレーン収容所跡や、キングフィールドと言ったポルポト時代の負の遺産もまた多い。市の中心と言えども舗装されていない道路が多く、乾季だったこともあり、夕方には街の向う側の景色が土色に霞んで見えた。

ガイドブックにはかなり治安が悪いので、プノンペンはお勧めできないと書いてあるが、夜遅く街を1人で出歩いたりせず、普通に生活していれば、ガイドブックに書いてあるような怖いところではなかった。しかし、カンボジアに限らず、旅人にとって、外国にいる間はわが身を守るために、それなりの気遣いは必要だと思う。（文責小川護雄）

フィリピン最新情報

フィリピン大使館, 観光省

横山恭彦

フィリピンは 93 パーセントキリスト教徒であり日本の外務省の危険情報レベル 2 は大変遺憾で多くの旅行者がフィリピンに渡航をとりやめてしまい、困った。

実態はアメリカよりずっと安全である。

リタイアメントビザは得たからかならずフィリピンに住まなければならないと言うことではなく、多くのひとは将来に住むことを考えて取る人が多い。主に台湾人、中国人、がヴィザを持っている。日本人は 800 人に上り現在も増えている。

フィリピンリタイアメントオーソリディは今後 BOI 投資委員会の下部機関として通産省の管轄に変更される。

フィリピン観光使節団が来日する。レジャー退職庁の会長も含む。

ロングステイ財団のセミナーが 9/25, 9/26 東京海上でおこなわれ福岡、大阪、東京と順次おこなわれる。9/30 は全日空ホテルで行われる。観光省のキャンペーンは 760 万人のフィリピン移住者による外国人のフィリピンへのお誘いを考えている。日本には 20 万人が住み日本人をフィリピンにつれてこようと考えている。

イベントは 9/20 よりパシフィック横浜で、9/22 にファミリーデーとして在日フィリピン人のフェスティバルとして大森ベルポートで行う。

パスポートの残存期間は入国の際 60 日+滞在期間あれば入国できるがビザ申請するには 6 ヶ月+滞在期間が必要です。

子供の入国には人身売買を防ぐため厳しく、自分の子供以外をつれて入国する際は注意が必要で、まえもって観光省に連絡してほしい。

空港で職員から入国の際ワイロを請求されるこ

とがままあるが、そういう時は名前を確認の上



講演をする横山さん

観光省に連絡をしていただきたい。これは日本人からワイロを渡す人も居り、やめてほしい。また欧米人にはチップを要求することはなく、主に日本人、韓国人に被害が多いようです。

観光省は六本木の東洋英和の近く、駅より 5 分のところにあり、大使館の中にあるのでぜひきていただきたい。

なおホームステイを望む人には相談にのりますのでお見えになっていただきたいと思います。

(文責大野隆司)



情報交換会風景



懇親会の風景

タイ、フィリピン、 マレーシアの裏事情

マイク 浅野氏

浅野氏は本当は日本人だが、アジアの中でアジア人のスタンスで働いてきたので、この名前をつけられ、東南アジア9カ国で食品、ギフトを輸出するための開発をされている。主にフィリピンのマニラを基地として動いておられるとのこと。

また、氏は東南アジア9カ国には仕事で入っているが、オフィシャルには上の人達と付き合い、オフタイムでは一般の人の中に入って付き合い合っておられるとのこと。

(現地で買い物をするとき) 旅行者に「これをいくらにしてくれる?」と言って値段を聞くな、折り合わなければ買うのを止めるように、と勧めている。旅行をする前にその程度の勉強はしていった方がいい。日本の価値観をそのまま持ってゆくのではなく、現地では少し変えた方がいい。

20世紀の価値観は、開発された国がよかった(価値があった)。

21世紀の価値観は developed country (開発された国) と undeveloped country (開発されていない国) があって、開発されていないが故にいいものが残っているとも言える。例えばラオスには特に売りが無いが、開発されていない良さがある。

私は何でもポジティブに考えてきた。そこに合って(溶け込んで)いるものは目立たない。

フィリピン人は日本人のことをハボンと言うが、日本人は遠くから見ても目立つ。異質である。私はフォーマルでもカジュアルでも現地のものの方がいい。これが現地への溶け込み方だと思っている。



講演する浅野氏

会場からの質問に答えて

1. 骨董品は正式に税関や大使館に届けば、日本に持ち帰れる。偽者も多いが、かなりギャランティーされている物もある。業者をかませせて送らせるのも一方法。
2. 東南アジアでの英語留学で、教育水準が高くて安いのはフィリピン。ロシアかイタリアでも月額40~50万円(授業料込み)でできる。しかし英語留学は英語圏、キリスト教圏が自然である。お勧めはフィリピンか香港。ジョホールに住んでシンガポールに通うなんていうのもいいでしょう。
3. 中国の漢方薬を日本に持ち帰りたい場合、薬は個人使用の2ヵ月分は持ち帰れる。

(文責加藤久子)



懇親会の風景

演題「オーストラリアに於ける 各種研修・長期滞在援助・資 産運用等のサービスについて」

オーストラリアゲートウェイ社代表

小川 雅人

メルボルンのご紹介をします。緯度は仙台とほぼ同じですが、冬でも最低温度が3℃位です。治安も良く、今は銃を持つことはできません。交通はとても便利でバスや電車、トラム(路面電車、10時~18時は市内を一周する無料のトラムがある)でどこへでも行けます。シドニーはちょっと大きすぎるような感じですが、メルボルンは端から端まで歩くことができ、ほどよい大きさだと感じます。郊外には320万人の住宅街が広がり、その中に町が点在しています。

メルボルンはパースやゴールドコーストと比較して催し物が多く、学術的、文化的なものに触れる機会も多いと言えます。ここは移民の町で、人種が多彩なため、差別的なものは殆んど感じません。日本人は6,000人ほどが住んでおり、生活をサポートする多くの団体があります。弊社で留学やビザ取得のお手伝いも致します。

住宅は7~8万円/月くらい。部屋をシェアするのもいいでしょう。契約は大体6ヶ月、短期でも3ヶ月です。

物価はとても安く、例としては、

食パン 70~80円/1本

牛乳 150円/2ℓ

牛肉 400円/Kg

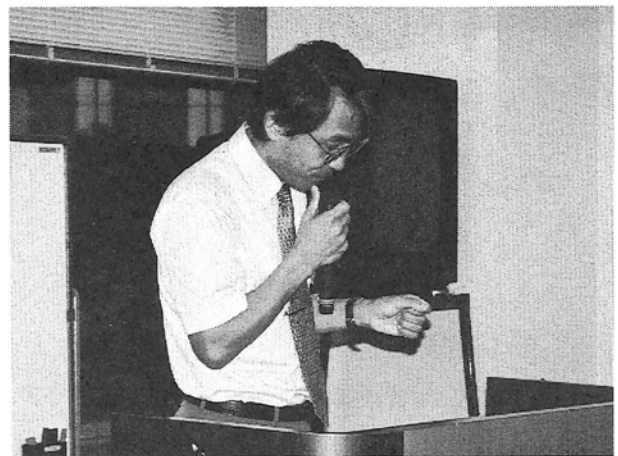
(日本で松坂牛として売られています)

チーズ 500円/Kg

電力 8.3円/KWH

ガス 21円/m³

水道 50円/m³



講演をする小川さん

食材や家賃など、生活必需品には消費税がかかりません。

車の価格は日本と同じ位、中古車は高いです(ただし車検制度なし)。

日本の食材で手に入らないのは青じそ、山椒、日本のかぼちゃ、くらいです。「ゆば」や乾燥しいたけもとても安く手に入ります。

外食産業もとても盛んで、日本食はもちろん、各国の移民による本場の料理が楽しめます。

日本語が通じる医療機関もあります。ところでメルボルンの英語は英国英語なんですよ。

ゴルフが大変安いのはご存知のとおりです。色々な体験ツアーを試されてはいかがでしょうか？

観光でお出でになっても銀行口座を開設できます。定期預金の金利は以前6.5%くらいあったのですが、世界的不況の影響もあり、3%台まで落ち込みました。現在5%くらいです。利子の48.5%が税金として徴収されますが、ビザの内容によっては無税となります。

観光ビザで家を買うことも可能のようですが、制限があります。また、1ベッドルームの物件は殆んど出ません。この国は古いものを大切に作る気持が強く、中古を買う場合、そして中古の家を修理する場合も制約があります。

我社は皆さまのどんなご相談にも応じてまいりますのでご遠慮なくご相談ください。

Eメールアドレス

mika@mail2me.com.au

海外滞在会員からの寄稿

入会案内書編集委員会 菊地 功(259)

今回、当会の「入会案内書」を改訂するに当たり、現在すでに海外長期滞在生活を実行されている会員の方々に寄稿をお願いしました。事務局からの下記の質問／お願いをして、9家族の方からお返事を頂きましたので、これらを「改訂入会案内書」のハイライトとして掲載することになっています。いずれも内容が豊富で示唆に富んでいるので、会報にも転載しようと言うことになりましたので、ここにこれらの寄稿文を報告します。ただし案内書ページ数の制約などから、一部原稿に変更を加えております。筆者の方には事後で大変申し訳ありませんが、何卒ご了解下さい。(2002.09.25)

1. 事務局からの質問／お願い

- a) 現在の場所をどのようにして選んだのですか？
- b) その地に住んでみて良かったことは？逆に不満なことは？
- c) 御同伴の方は、奥様のご意見も是非お願いします。
- d) これから海外ロングステイを考えている方へのアドバイスをどうぞ。

2. 以下の会員諸氏から寄稿をいただきました(敬称略)

- | | | | | |
|------------|--------------------|------------|-----------|-----------|
| 1) 北マリアナ連邦 | ロタ島在住 | 会員 | 山本 隆 | (No. 398) |
| 2) フィリピン | マニラ在住 | マニラ地区支部長 | 塩見祥昭・ルーシー | (No. 61) |
| 3) 同 | セブ 在住 | セブ地区支部長 | 鈴木 博 | (No. 27) |
| 4) マレーシア | クアラルンプール(KL)在住 | | | |
| | | KL地区支部長 | 末 英樹 | (No. 302) |
| 5) 同 | ペナン／ゴールドコースト(GC)在住 | | | |
| | | ペナン地区支部長 | 木村義光・まゆみ | (No. 18) |
| 6) タイ | バンコク在住 | バンコク地区支部長 | 五十嵐輝雄・泰子 | (No. 189) |
| 7) 同 | チェンマイ在住 | チェンマイ地区支部長 | 鈴木宣夫 | (No. 26) |
| 8) オーストラリア | パース滞在 | 理事 | 鈴木 剛 | (No. 315) |
| 9) 同 | パース在住 | 会員 | 奥川勝俊 | (No. 347) |

1) マリアナ諸島・ロタ島に住んで

山本 隆

南国の田舎生活

海辺の生活、自家栽培の野菜、熱帯の果物、時には海の魚介類を食卓で楽しむ。早期退職後、夫婦で住み始めて4年近く、ロタと横浜の二重生活。生活の軸足はロタにあり3ヶ月に一度の

頻度で日本に戻る生活を送っています。

ロタを選んだ理由

若い頃から夢だった1年中暖かく綺麗な海の近くで住まう事、環境最優先(良質な飲み水、普通に息が出来る澄み切った空気)、身の安全に神経を使わなくて良い場所、人口も多くななく観光で俗化しておらず、日本に近い。少しこだわった条件ですが夫婦の希望による選択でした。

不満な点（と言うより余り重視しなかった点）

生活の（高度な）便利さ。お金さえあれば何時でも欲しい物が手に入り、娯楽が豊富で、美味しい物が口に入る消費生活。豊かな自然環境と両立すればよいのですが、自然環境を重視すれば豊かな消費生活は“ないものねだり”に等しくなります。そうは言っても長期間一ヶ所の生活だけでは単調で、時には都会の空気も吸いたくなるので、生活に変化をつけるため買い物、健康チェック、所要も兼ね定期的に日本に帰る事にしている。時には第3国に足をのばす。日本に帰る度に軽い高揚感を味わうのは楽しいし、2週間もいればロタが恋しくなり、事実、毎回ロタの自然に戻ってホッとす。家のちょっとした手入れが必要な場合、技術力のあるワーカーが少ないので、ワーカーを使いつつ自ら動かねばならない事がある（これを不満ととらえるか、一つの楽しみととらえるかの問題ですが）。

ロタでの主なアクティビティ

日本と同じような普通の日常生活（NHK衛星テレビ、読書、CD等）、庭仕事は主として家内が楽しんでます（家庭菜園で野菜の栽培、パイア、サワーサップ等の熱帯果樹、ランの栽培）。

スイミング 自宅近くの透明な海で。魚や時には海亀と一緒に泳ぐのは格別。毎年ロタで行われるオープンスイムやトライアスロンのスイム部門に参加。1年中泳げる暖かい海です。

シュノーケリング

釣り 磯釣り、トローリング

インターネット ネットトレード・証券市場の状況によっては、結構長時間PCの前に座っている事がある

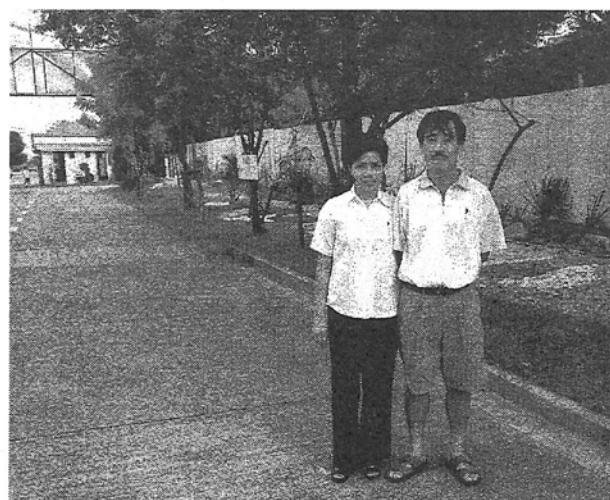
ゴルフ 退職者ビザを持っているので、カート代込みで30ドルのローカルフィーでプレイ出来る

一日のかなりの時間を戸外で体を動かし、家の中も、24時間開けっ放した窓から（網戸だけ）海風、山風が室内を通り抜けているので、きれいな飲み水と共に健康には良い環境だと思います。

2) マニラ界隈に住んで

塩見 祥昭

皆様ご無沙汰しています。4月中頃にシーフードレストランをオープンして、ばたばたしています。先ず、私がフィリピンに住む事になったのは妻がフィリピン人である事が一番大きな理由です。子供たちも1才位から5才まで年に2-3度フィリピンに連れて行きフィリピンが気に入りました。私個人としてはまさかフィリピンに住むとは考えていませんでしたが、約10年前NTTに在職していた頃、好条件の早期退職制度「49才年金受給25ヶ月退職制度」に応じフィリピンに移住する決意を固めました。フィリピンに来てからの1年はホームシックにかかり年6回位日本に帰っていましたが、現在は冠婚葬祭で帰るぐらいです。私がフィリピンに来た頃は右も左もわからず、ただ趣味のゴルフを週に3-4回していました。私の趣味といえばゴルフですが、フィリピン特にマニラ近郊（1時間以内）にすばらしいゴルフ場が10ヶ所以上あります。セブ（2ヶ所）ダバオ（2ヶ所）ネグロス（3ヶ所）バギオ、クラーク、スービックと色々と回りましたがマニラのゴルフ場が一番です。



塩見さん御夫妻

グリーンフィーもマニラの方が安いと思います。ゴルフに関しては満足しています。それと日本食材も何でも入るようになり、スーパーでも冷凍さんま、あじ開き、鮭、サバ、うなぎと刺身用以外は何でも有ります。サバ以外は日本より安いと思います。

フィリピンで行きたくない所は役所（免許所センター、市役所、等）です。書類一枚下手をすれば一日仕事になります。日本人にはただ待つということは耐えられない事です。ただコネが有るとか、袖の下を渡すと、1時間位で終わりますが日本人には腹立たしいことです。それと日本大使館も行きたくない一つです。職員は横柄でエリート意識が高く今の外務省そのものです。不満な点も多く有りますが文章にすると差し障りが有るので敢えて書きません。

最近の日本人移住者（PRA 取得者）について

私がフィリピンに来た当時は日本人の方も少なく、私の家の近くに車で10分前後の所には数名の方がおられました。現在は100人以上の日本人が住んでおります。9年前 PRA の日本人会員は50名位でしたが、現在2002年7月、810名の会員がおられ、マニラで今年の5月に PRA 日本人会員だけのクラブが発足し約70名の方が入会されました。会の主旨として、PRA の会報を日本語に翻訳したり、月一度のゴルフ大会やボランティア活動をされています。フィリピンに何故来られたかと聞いてみますと、殆んどの方は物価が安い、近い、温かい、と言う答えが帰ってきます。不安は治安と言語の問題、メードさんや運転手とのコミュニケーション等です。しかし約30%前後の方が2年以内に日本に帰られるようです。多くの方は日本人同士とのトラブルや文化の違いに対応できず、ストレスが溜まる様です。日系企業でも現地社員と日本人社員との考えの違いでうまく運営できずにいる会社が多い様です。3ヶ月に一度位のペースでフィリピン大学の教授、日本人コンサルタントを招き講演をしています。

何故うまくコミュニケーションが取れないのか考えてみますと、まず文化の違いが大きな原因

だと思えます。日本人は日本の常識で物を考え、フィリピン人はこちらの考えや生活習慣を優先します。フィリピンで生活するには先ず相手の考えを尊重する事が大事です。例えばメードさんが洗濯、掃除、その他日常の家事を、自分の思っている程度の半分でもやってくれば100%というぐらいの気持ちでいる事が大事です。徐々に教えて行けば70—80%になる事もあります。日本的常識を押しつけると、ほとんど長く続かないでしょう。

こちらの生活で気楽なのは、相手に迷惑をかけてもかけられても気にしないのがフィリピン人です。パーティー好きで夜遅くまで音楽をガンガン鳴らしますが、誰も文句は言いません。しかし夜12時までには終わることが法律で決められています。

フィリピンの現況等

現在のフィリピンは、失業率は相変わらず高いのですが、物価、経済、為替は安定して来たと思えます。汚職や治安問題はほとんど改善されていません。銀行金利も毎年少し下がり、現在5—6%位です。フィリピンに住んでいる日本人退職者の多くが金利と年金で生活しておられ、お困りの様です。

フィリピン滞在、永住者の注意点

旅行者が一番気をつけるべき事は、馴れ馴れしく日本語で話かけてくるフィリピン人が非常に危険だということです。相手をせず「NO」と大声で話す事です。その他はどこ国でも同じです。自分自身で注意する様にしてください。

私がフィリピンに来た頃、多くの日本人やフィリピンの方に特に気をつけるように言われた事は、長く住んでいる日本人と警察官が危ないということでした。私の知り合いの新聞記者(日本人)2人の話によると、日本人が殺された事件の背景には必ず日本人が絡んでいると言います。その他色々有りますが今回はこれで終わらせて頂きます。

(2002年7月29日)

塩見ルーシー

フィリピンに住んでいる理由は、勿論皆様分っているように私がフィリピン人だからです。日本には10年くらい住んでいましたが、やはり自分の生まれ育った国に帰って生活するのが一番です。フィリピンに帰って8年くらいになりましたが、最初の時は大変でした。何故かという、日本に永いこと住んでいたの、自分も日本人の感覚になっていました。例えば買い物に行って、レジに並んでも、非常に遅いのです。「仕事より、話ばかりしてお客さんを待たせて。」と、本当に何回も腹が立ちました。些細なことですが、日本では考えられないことだと思います。フィリピンに戻ってしばらくの間、いろんなことに腹が立って、いらいらして自分でも自分のことがおかしいと思っていました。それから考え方が変わって、頭の中で「ここは日本じゃない、フィリピンだよ!!」と思うようになって、毎日の生活がスムーズになりました。勿論、今でもここのシステムは変わっていません。私が言いたいことは、フィリピンに居住することを考えている人たちが日本人の感覚のまま来ると、問題が一杯、起こると言うことです。こちらでは、フィリピンの国のシステムに、文化に、習慣に合わせるしかありません。私は、このことが理解できない方がフィリピンに住むのは、まず無理だと思います。「物価が安いから何とか生活できるかな」としか考えないのは、大変な間違いだと思います。リタイア後フィリピンで生活したい方は、絶対日本に居る感覚のままでは危険です。一番大切なことは、最初の半年から一年は家を買わないで、借家住まいをして生活出来るかどうか経験して、勿論フィリピンの国のシステムや習慣のことも十分考えた上で、決めるべきだと思います。私自身の経験では、この辺のことが全く理解できていない日本人が何人もいます。何か問題があるとすぐ、「国のシステムとか、人間の習慣が悪い」という話になりました。こういった話を聞くと、「それなら何もわざわざフィリピンまで来なくてもいいのでは」と思ってしまいます。

最後にひとつお願いがあります。どこの国に居ても、そのHost CountryのHost Peopleの心と気持ちを少しだけでも大事にしてください。これが出来ればどこの国に住んでもOKだと思います。以上拙い文章で失礼しました。

<事務局より>

ルーシーさんに、この文章を書いて頂くに当り、編集委員会の「酒匂さん」と「ルーシーさん」の間でメールによるQ&Aが交わされました。以下にそのうちの幾つかを抜粋します。

Q5: 8年前にフィリピンでの生活に踏み切られた動機は何ですか。(ご主人は働き盛りで、日本では指折りの安定企業NTTにお勤めだったとのことですが?)

A5: ええ、主人はNTTで仕事をしていました、その当時は日本の景気もあまり良くなく、会社から早期退職制度の発表があり、条件はとても良かったのです。ただ46歳で退職を決めることに大変悩みました。でも今思うと大変いい決断をしたと思っています。勿論フィリピンでの生活費がとても安いことや子供のことも考えましたが、一番の決め手は私がフィリピン人だということでした。

Q6: そのときの主導権はどなたでしたか。

A6: あらゆる事を二人で考えて、フィリピンでリタイアする事に決めたのです。

Q7: 経済的な不安は無かったのですか。

A7: 当時は私自身や子供のことも主人のことがとても心配でした。フィリピンは私の生まれた国であり、私の家族もフィリピンにいるのですが、主人は日本人だし家族もそばにいないのですから。主人が孤独になったり、ホームシックにかかったり、飽きたりしてしまうのではないかと心配でした。ところが最初の年に主人はゴルフをして、リタイア生活を始めたのです。仕事、仕事だった人が仕事を辞めて、しかも異国で新しい生活を始めるのは大変なことだというのは良く分ります。習慣やしきたり

や民族が日本ととても違うのですから。

Q8：お子さんの教育には不安はありませんでしたか。

A8：まったくありませんでした。さきほど申し上げたように、子供たちはフィリピンに住むのが好きでしたから。

3) リラックスライフをセブで

鈴木 博

セブと言うとリゾート地としてよく耳にするでしょうから、どうしてもそういったイメージが先行するきらいがあるようです。もし「南国の太陽の下、ヤシの木陰でハンモックに揺られて」といった風景を想像したとすれば、ここいらではそういう環境は空港のあるマクタン島の、それもホテルの敷地の中で、ということになります。日常的にそういう環境を手に入れたいと目論むと、市街地からだいぶ遠くに行かないと、そういった自然いっぱいの南国は味わえないのが現実です。

セブ市は位置的にフィリピンのほぼ真ん中であって、フィリピンの半分を占めるビサヤ地方の中心地だし、交通の要衝として、また交易の盛んな地として経済的にも重要な位置にあります。またフィリピン第2の都会として近代化が盛んです。ですから、ここでの大多数の人の生活はリゾートとは無関係のもので、途上国としての環境ではありますが、ほぼ都会生活です。

1. どうしてセブだったの？

私が滞在先としてセブを選んだ理由は、当時知っているところといえばセブしかなかったし、セブが気に入っていたし、セブに住みたいという希望が先行していたからです。実のところは多少知っているところがあればどこでも良かったわけです。それまで何度かセブに遊びに来ているうちに、だれしもが軽く口にする「ここに住んでみたいな。」というような、単なる旅行者の気まぐれを、本気にしてしまったことが始ま

りです。そこで、その気になってセブの情報を漁りました。そしたらどこといって意に沿わないところが無かったので、最終的にもセブになった訳です（現実、住んでみると不満はいっぱい出てきましたけど・・・）。

具体的には、物価が安い、PRA（退職者特別ビザ）の制度がある、日本に近い、日本人に対する感情が良い、といった点が今でも確かに利点としてあげられると思います。



コンドミニアムの庭の鈴木さん

2. 暮らして見て来てよかったと思うこと。

何が良くてセブに暮らしているのかと言うことは、これを読んでいる方の大きな関心事でしょう。最も大きいことは「イージーでアバウト」なことです。日本のあの自分をも縛ってしまう緻密さ、それとこれでもかというほどの思いやりの網、網。そんなしがらみを抜け出した今は、この人たちともそう深く交わる必要もないので、一種の厭世気分が味わえるというところでしょうか。それに何事もアバウトに進んでいきますから、初めは日本流にびたっぴたっで行かないことにいらいらしますが、それになれるとなかなか精神的にもいいものです。これは見方を変えると、互いに余計なストレスを掛け合わない社会、ということなのかもしれません。今となってはストレスだらけの日本での生活を振り返ると、訳の分からないストレスに悩まされた過去が何だったのかと目覚めたような気分になります。それと自由の深さがぐっと増すと

感じることで。

すべてのことが自分の足で踏みださないと始まっていきません。日本のようなサービス過剰の社会ではありませんから、放っておくと期限が過ぎたり権利を無くしたりですが、しかし動くべきときに動いていると反応はストレートですし、判断の際に検討する必要がある要素は義理や社交辞令や見栄を取り除いた本来必要なものだけですから、望んだものに近い結果が得られます。自分の行く方向を一つ一つ自分で決めて行けるということは、緊張感もありますが達成感も大きいと感じます。私はこの地の市街地に住んで、今はイージーな毎日を満喫している訳ですが、始める前の心配事は何と言っても生活費のことでした。

年金を貰うまではまだちょっとあるので収入はないのですが、サラリーマンとしてもらった退職金の利息だけが頼りです。それも利息のまだこれほど悪くない時期に計算したものですから、やっていけると踏んで始めたのですが、このところの低金利にはすっかり計算する気力も失せてしまいました。今では「棺桶に入れて置いていけるわけではない。」という言葉に元気づけられて、貯金を取り崩すことに対して漠然と考えていた本能的ともいえる不安も近ごろは理に合わないと思えるようになってきましたし、むしろそうして素直に貯金を減らしていくことのほうが当然だと思えてきています。

またよく尋ねられることに、毎日何をしているんですか、とか、退屈じやないですか、とかが皆さん気になるようです。ところが以前ボランティア教師をしていたときは当然ですが、中断して無職の今でも毎日やることはいっぱいあり、自分でも不思議なくらいです。(最近引越したせいもあるんでしょうが・・・) こちらの文化と違いますかそういったものに興味を見いだすと次々と課題は尽きないと言ったところです。異文化の国にいるとまるで子供のようにそこら中が知らないことばかり、「これなに」、「どうして」とかの連発です。

朝 5 時、近所の教会の鐘に起こされて、やおら

準備をして外に散歩に出かける。一汗かいて帰って来ての朝食はやはり美味しいものです。自分がこんなに健康指向だとは思っても見ませんでした。午前中はメールのチェックをして、そのうちまぶたが重くなって来ると朝寝をむさぼったり、ときどきは夜に備えて昼寝をして、暗くなるとがぜん元気になってカラオケに出かけたり。そんなイージーで気ままな生活ですが、今確かに言えることは本当の”自由”に少しづつ近づきつつあると感じることで。

(2002 年 07 月 28 日)

4) 南国暮らしの決断プロセス：

私の場合

末 英樹

クアラルンプール(KL)に住みつき、来る 10 月で 6 年目に入ります。マレーシアの首都 KL は、人口約 220 万人 (在留邦人約 8000 人) で札幌・福岡の人口に相当する都市です。「退職後の生活にはこんなものもあるよ」の事例、私の場合のホンの一部をご紹介します。

クアラルンプールで日系企業に勤務 (2 年契約)

1987 年シンガポール旅行の際に、半日だけジョホールバル (マレーシアの最南端の都市) 行ったのが唯一のマレーシア滞在でした。そのときの印象は、ホテルでの昼食 **Buffe** の料理が口に合わない、モスクが異常に立派。その程度でした。1997 年 10 月、日系の物作りの会社に 2 年契約で来馬し、スパン空港 (現在の空港とは違う) から出た時のムツとした熱気、コリヤこんなところで務まるかいな・・・、これが正直な感想でした。真夏に背広とネクタイのどぶねずみスタイルで冷房の効いた室内から戸外に出るのと同じ感覚です。それ以前は、この国に住むようになるとは夢にも思っていませんでした。赴任時の住まいと通勤は会社手配でした。約 35 坪勿論各室エアコン付き、会社への往復は運転手つきでした。会社の中は強めの冷房、

最初は室内外の温度差に戸惑い気味でした。契約期間が2年半に延び、延長期間中に退職後の滞在方法を調べ、シルバーヘアプログラム
の存在を知り、free になって早速申請、ビザの発給取得、退職終了後も当地に居つき現在に至っております。なお、現在のビザの名称は、MALAYSIA MY SECOND HOME となっています。

クアラルンプールの生活環境

引続き住むようになったのは、住みやすい環境と個人的な事情が許したからです。気候、治安、物価、住居費、食生活の豊富さ、日本食食材も手に入る、医療、スポーツ（特にゴルフ）、インフラ、文化面そして緑の豊かな町並み等々ドレをとっても東京の我家に急いで帰る必要は無いと思いました。多民族が一緒に暮らしているのも興味深いところです。女性方には、ウィンドウショッピングが充分に楽しめる場所でもあります。唯一の欠点は近くにきれいな海が見えないこと位です。車で40分でマラッカ海峡の海岸までは行かれますが。

住居探し

2年半の会社勤めの間に3回転居し、住居探しの要領を会得出来たのは誠に幸いでした。住居探しでは、ロケーション（環境、交通の便、買い物等）・日当たり（当然北向きがベスト）・水道水の質及び量、ホットシャワーの湯量、最も重要な家賃等々が決めるための条件でした。その経験を生かし、約110平米の現住居を月RM1500（約5万円）で契約、現在に至っております。2寝室、3エアコン、全家具付き、焼き魚が料理可能な台所（これが大事）、屋内駐車スペース、共同施設としてプール、スカッシュコート、ジムがありミニショップ、クリーニング店も付帯しています。日本のテレビは、NHKの衛星放送が24H受信可能です。



末さん御夫妻

食事情

皆さんご承知の通りマレーシアは多民族国家です。また外食文化の国です。街中いたるところに、コーヒーショップと言う名の飲食店（店の中に屋台風の店が数十、夫々メニューが違う）があり、客集めにしのぎを削っています。日本人の間でも夫々ひいきの店があり、順番に食べ歩きを楽しむ事も有ります。一例として、肉骨茶（バクテー）は我々日本人の口に合う食事の一つです。店によりコダワリがあり、製法も違い当然味も違う。発祥の地といわれているのは、我家から車で約30分のKELANGという街、KELANGで一番ということは世界一、世界一を食しに行こうと去る日、仲間5人で朝7時に出発、現地で2軒ハシゴしどちらが美味か口角泡を飛ばしたりするのも楽しみの一つです。KELANGの肉骨茶は午前中のみ、早い店は朝10時には売り切れるのです。一人前200円くらいでローカル食のなかでは高い方です。以上は外食のホンノ一例です。他にも、マレー料理、インド料理、中華料理、当然和食レストランもあり、最近増えたのが韓国BBQ、等々切りがありません。我家では、7割がた自宅で食事します。食材は、殆どローカルスーパーで間に合います。生鮮品は朝市、ウエットマーケットで新鮮なものが手に入ります。和食の食材、味噌・醤油・納豆・豆腐等は日系のジャスコで入手できます。これらの店は、すべて我家から車で10分位の場所にあります。主食のお米は、カリフォルニア産米が手に入り、2.5kgで600円位「錦」という銘柄です。味は、「ささにしき」とはいき

ませんがママアです。

個人的条件

私共は、両親4名とも既に送り出し、子供は片付き、夫婦だけの生活です。これからの十数年(?)が我々夫婦に取り一番平和な時期だと思います。その足腰の丈夫な間に日本では出来ない生活を送りたいと考えました。妻は私の会社勤めの間に年に数回監査に来馬し、マレーシアに馴染んでいたのも OK でした。尤も若干日本の住環境に未練があったようです。女性の場合は、地域に自分達の世界がありますから当然です。また小さいながらも帰れる場所があることも必要条件だと思います。

妻も最初は、もしヒマを持って余すようならどうしようかとの心配が有りましたが、私の友人たちの奥様方におつきあい願ひ、現在は毎日ヒマなしの生活を送っています。こちらでの会社勤めの間に、在住の多くの方々の知己を得たこと、自分の車を入手していた事も滞在生活の決め手の一つです。マレーシアは日本と同じ左側通行、アジア地域で自分で運転できる都市の一つです。

南国で時間を持って余さない

ジャパクラブでの活動とゴルフ等の体育系、PC利用の頭の体操、そして友人達とのローカルフードレストランでのビール紹興酒を飲みながらの語り、「サンデー毎日」でもヒマは有りません。更に、クアラルンプールには日本語書籍で東南アジア第2(?)の規模を誇る書店の紀伊国屋があります。更にゴルファーの為の環境は世界中でもベスト3に入るのではないのでしょうか。年中プレー可、プレー代は安い、近間にある等々好条件そろいです。ただ、私の場合はラウンドの回数と腕前が比例しない、のが悩みの種です。日本の映画、日本からの落語、漫才、コンサート等の来馬公演、ローカルの演奏会等を楽しめるのも都会ならでのことです。これには、国際交流基金、JICA 等政府機関、日本航空、全日空等の日系企業の協力のもとに開催されるそうです。つい先日も新月会(関西大学グリークラブのOB会)のコンサートがありマレ

ーシアの方たちとの交流に、多大な成果を上げられました。

ジャパクラブ KL

各種の同好クラブが活躍しております。ホール(ピアノ、オーディオ再生装置あり)、図書室等が完備しています。私の参加しているのは、ダンス・エアロビ・男声合唱・ドリアドです。ドリアドとは Dream Adventure、KL 近くの近隣諸国を見物しに行く。ラオス・カンボジア・インド等最近では今年の2月に南タイ、次回はスリランカと予定しています。KLIA というハブ空港を利用できるからです。

南国暮らしの会

私の場合は、他地域の下調べをする必要もなく成行きで住んで居りますが、皆さんの場合は、会を通じて色々な国の生の情報を入手出来ますので、豊かなユトリある海外生活実現の為の参考になると思っております。

結論、「百聞は一見に如かず」そして「住めば都」です。

5) ペナンに住んで

木村 義光

マレーシア ペナン島を選んだ理由

私達が将来ここに住んでみたいと最初に心を躍らせたのはハワイ島でした。鯨の泳ぐ青い海、豊かな自然、さわやかな気候、どれをとっても我々を魅了させたものです。家を購入する為にハワイ島通いをしているうちに、家を買っても、ビザがなければ永くは住めない事を知ったのです。なんと迂闊でしょう。そんな事も知らずに唯ワイワイと夢を見ていたのですから。それから、アメリカの永住ビザについて調べたのですが、とても取得が困難と知りました。私達はその地に永く住む事が目的でしたから、ハワイは諦めざるをえませんでした。オーストラリアのケアンズも私どもの思い出の地です。日本のさる方のホームページを偶然に拝見して、ケアン

ズ、ゴールドコースト、シドニーのツアー旅行に参加しました。ケアンズでは、日本企業の分譲地を見てまわりました。ゴールドコーストの気候、美しい自然、これにも感動しました。ゴールドコーストのリタイヤした人達の生活の様子を見聞きして、この人たちの生活は素敵で第二の人生の安息のひとつなのだと思ったものです。私達は真剣にここに住んで見たいと思って現地の弁護士にリタイヤメントのビザ申請を、お願いし始めたとき、以前からすでに申請していて難しいと思われていたマレーシアのリタイヤビザ（シルバーヘヤービザ）が降りたようなわけです。そこで、まず南国暮らしの第一歩を物価が安いマレーシアのペナン島で、海外暮らしと英語の勉強をしようと夫婦で決めたのです。

1997年に初めてペナンにきました。ある旅行社の企画したペナン島とKLロングステイ体験ツアーに夫婦で参加したのです。このツアーですでにこちらに住んでおられた方の講演も聞いたりして、初めてのこの旅で私達はすっかりペナン島が気に入ってしまいました。それからは私達だけで何回もペナン島への旅が続いたのです。ペナン島に住みたいと考えた最大の理由は、海のある南国の島で寒くない事、治安の良さ・物価の安さ、海沿いの田舎町で赤道近くなので、炎熱気候と思っていましたら、これが、風があって意外に涼しいのです。海がすぐそばなのに、「ベタベタ」とする塩害もないし、そして台風や地震も無い事でした。それから妻の花粉症の症状がペナン島では無かったこと。そして、さらに感動したのは地元の人々のひとつつこい笑顔とやさしさでした。

ペナン島に住むようになって

ペナンに住むようになってからも日本とペナン島を行ったり来たりしていますが、兎も角日本へ帰った時の山梨の冬の冷え込みは体にこたえます。山梨に真冬に帰った時などは、体の節々の痛みまで出てきて、「ああ、早く暖かいペナン島に帰りたい」とつくづく思います。私のペナンの家はタンジョンブンガという海沿いの町にあります。丘の上から180度、海が見下ろせて

遙か彼方にマレー半島の本土が小さく見え、海上に時々船の行き交いが見渡せます。隣は森ですから、朝は鳥のさえずりと波の音で目覚めます。時折プールサイドにサルの子供が遊びにきます。

ペナン島は日本人観光客を始め、世界各国の旅行者が、安心して歩く事の出来る、数少ない町の一つでしょう。私の妻は用事で日本に帰った時など「日本に居る間に、事件に巻き込まれなければ良いけど・・・」なんて心配します。むしろペナン島より日本の方が治安的に不安を感じます。事実私達はペナン島に住んで4年になりますが、怖い目にあつた事はありません。友人など身近の人から、こそ泥位の話は聞きましたが、日本の最近のような恐ろしいほどの凄惨な事件は、ほとんどありません。大きな屋台で食事をする時、バックを抱きしめていなくて、隣の椅子に置いていても大丈夫です。



タイプーケット島の木村さん御夫妻

私達が、ペナン島で得た「おまけ」についてお話しします。私は中性脂肪値が「かなり」高いのです。中性脂肪値とは、血管中の油質の割合です。これが多くなると、血管中の血液の流れが、悪くなって、心筋梗塞、脳梗塞、嵩じれば、死、と怖い症状ですね。云うまでもなく、我々中年族の恐るべき病気で小淵元首相もこれで倒れたのです。私は日本へ帰る頃になると、気が重くなります。美味しい中華をたくさん食べたし、ビールもかなり飲んだから、中性脂肪の検査の数値がかなり上がっているだろうなあって。こ

れが、帰って来て病院で検査してみると、吃驚したことに数値が下がっているのです。それも帰って来るたびに必ず、です。

「なぜでしょう？」と先生に聞きました。先生は「痩せて帰ってくるからですよ」って。そうです、帰って来ると必ず、2～3Kグラム位、痩せているのです。痩せて、内臓に付いた脂肪まで、減るのでしょうか。そして、又又、健康に乾杯って、事になってしまうのですが。まあ、それは別として、ペナンは毎日が夏ですから、汗をしっかりとかいて毎日ゴルフで2時間歩く、そしてプールで泳いだりしているので運動量がカロリーを消化してしまうのでしょうか。

それから肩凝りも良くなりました。血行が良いのです。日本の冬などは特に、暖かいペナン島へ行く事がお勧めです。ペナンに行くくと健康になる、私が予想もしなかったペナン島で得た「おまけ」でした。

「おまけ」NO2です。ワイフは、重症の花粉症です。季節になると、鼻ずるずる、くしゃみ、と、一日中苦しそうです。成田で飛行機の機内に入る途端、それが収まり、ペナンの空港に降りた時には、もう、ケロット何も無かったようにはしゃいでいるのです。ペナン島には花粉が無いのでしょうか。花粉症の方に朗報と云うわけで、これも、ペナン島の「おまけ」でした。

ペナン島は治安が良く、医療も心配なく、物価が安い(日本の1/4程度)、言葉も英語が一般に使われている。人口も70万人あって唯のリゾートだけでなく生活の便利度は高い(日本食材も殆ど手に入ります)。ペナン島を基地に近隣の国、リゾート(タイ、インドネシア、ベトナム)などに安価で旅行が出来るなどいろいろな魅力があります。マレーシアは世界のロングステイ人気調査でも、ベスト10に選ばれています。

今、180度ペナンの海を見渡しながらのゆったりとした毎日を、私たち夫婦はペナンへ来て正解だったと、思っています。青い海、毎日のゴルフ三昧、英語の家庭教師、美味しい屋台、そしてこの島の人たちのフレンドリーな笑顔、日本で味わえなかった生活が平和に、破格に安

く味わえるこの島、私達夫婦はペナン島で毎日新鮮な体験に酔っています。

次に奥様には、御夫妻の第二のロングステイ先、ゴールドコーストについて書いて戴きました。

木村まゆみ

我が家は現在ペナンとゴールドコーストを行ったり来たりのロングステイの生活をしています。ゴールドコーストを選んだ理由ですが、1997年頃だったかな??? オーストラリアに初めて行きまして、ケアンズ・ゴールドコースト・シドニーを見てまわりました。その時に、ゴールドコーストに行った時に、「こんなに”青い海・白い砂浜”が似合う場所はない」と思いました。しかし・しかしでした。いろいろ調べたのですが、リタイアメント・ビザを取るためには650,000,000豪ドル(当時は1豪ドルは85円)も現地に預金しなければならぬことが分って、頭の中がパニックになってしまいました。経済面で無理をして、はるばるゴールドコーストまで来て、毎日「梅干」を見てご飯を食べるなんて、あまりにも寂しすぎると思い、丁度マレーシアのビザが下りたので、一旦はゴールドコーストを諦めました。

それから3年が過ぎて、まあ何とかペナンでの生活にも慣れてきましたが、「友人が魚釣りに行って大物を釣り上げた」なんて話を聞いてしまうと、主人がちょっぴり寂しそうだったので。それで6ヶ月オープンの往復チケットを手配して、ペナンで数ヶ月過ごしてから、ゴールドコーストに行きました。ブリスベンからタクシーに乗ってゴールドコーストに向かったのですが、やっぱり違うんですよお、海の色が。それとアジアとは全く違った魅力がありますねえ。それで知り合いの方が経営されているサービスアパートメントにお世話になりまして、今度は真剣にビザの事・住宅の事・医療の事・保険の事・物価・治安などを調査し始めました。ビザの件は、マレーシアと同様に政府に決められた金額を現地の金融機関に預金するか、一定の金

額以上の収入証明と、ある程度の金額を現地の金融機関に預金することが必要だとわかりました。住宅は一戸建てだと、「ドライ土地」か「ウォーターフロント」かによって値段が大きく異なります。医療は、我が家はお蔭様で大病を患っていないので詳しいことは体験しておらず、「虫刺され」とか「えび・かにアレルギー」とかだったので、サーファーズの真ん中にある「救急センター」しか知りません。でも、とっても親切でしたよ。日本語がものすごく上手なオーストラリア人が通訳もしてくれて、酒匂さん(当会副理事長)に教えていただいた保険付きのクレジットカードを提示したら、料金も支払わなくてOKでした。

物価では、ビール、ワインはメチャメチャ安いけど、日本酒、ジン、タバコなどの贅沢品?は高いです。野菜・お肉に関しては、日本に比べて破格に安いと思いました。

治安については、車ドロボー・空き巣はあるようです。話によるとウォーターフロントの家で庭にボートを止めていて盗まれた人がいたそうです。ちなみに我が家も警備会社と契約をして、セキュリティーの設備をしてあります。

日本とペナンとオーストラリアの大きな違いは交通事情でした。日本は皆様ご存知の通り、ある程度、歩行者優先ですよ。それがペナンに行くと、「歩行者優先???誰が決めたの???」みたいで車がブンブン走っている中を、人間がチョロチョロ歩くか走って道路を横断するのです。道路の真ん中の人間に気が付いて、なまじっかブレーキを踏もうものなら、後続車からクラクションの嵐が吹くのです。それがゴールドコーストに行きますと、ペナンと180度回転します。とにかく歩行者優先なのです。スーパーの駐車場でも、街中でも横断歩道に「足」のマークの看板が付いていて、そこに人間が立とうとしていたら、すぐさま車は停車しなければならないのです。「あっ」と気が付くのが遅れて、人間の前を通り過ぎようものなら、さぁ大変「大ブーイング」です。

我が家はペナンの生活も勿論満足していますが、

ゴールドコーストでの生活も楽しんでいます。ゴールドコーストの家では、主人は殆ど毎日のように朝と夕方、庭で釣りをします。キス・タイ・コチなどが釣れます。今年の1月と5月にはカニまでかかりました。残念ながら私の技術不足で「お刺身」には出来ませんが、釣れたてのお魚を食べられるなんて、本当に「至福」の時です。それとお庭には専門の庭師さんが、月2回で3250円くらいで管理してくださいますので、一年中お花が咲いています。それに週末に近所のフリーマーケットに行って好きな花を買ってきて庭に植えるのも楽しいですよ。ゴールドコーストの家で庭にいる主人の顔はとってもうれしそうです。我が家はゴールドコーストでの生活は、まだまだ日が浅いですが、十分エンジョイしていますよ。どうぞ、お近くにお見えの際は、是非お立ち寄り下さい。(2002年7月)

6) 気に入りましたバンコクステイ

五十嵐 輝雄・泰子

「定年後はどこか暖かい国でロングステイしたいね。」「そうね私はパースがいいわ」このような会話が私たち夫婦の間に出るようになったのは、夫が定年を迎える5年くらい前のことでしょうか。海外旅行のパンフレットを集めたり、海外ロングステイセミナーに参加したりして、私達でもロングステイ出来そうな国を探しはじめました。

私達は、寒さが苦手な、夫は一年中風邪を引いているのです。そのようなとき、ロングステイ財団をとおして「南の国」を知りました。3年前、夫が電話で申し込みしたことを記憶しています。日本から近く、気候は常夏で、物価が安く生活しやすい、そのころの南の国はフィリピンに焦点を当て、会報でロングステイ先の情報を掲載されていました。

パースは観光旅行だけにしました。年金と我が家の財政状況ではこの国でロングステイをする

には、少しハードルが高いことが見えていたもので、東南アジア、とくにフィリピンとタイに的を絞ってロングステイ先を考えていました。南の会に入会したのはグッドタイミングでした。大勢の人達から会報をとおして情報をいただいて、その後平成12年の秋までに、私はフィリピンへ4度の訪問をしていました。平成13年春はじめてのタイは一週間の観光旅行でした。このときのタイの印象がフィリピンとは全く異なったものに映ったことが、少なからず驚きと、期待に胸が弾む思いをいたしました。歴史と文化の違いとでも言うのでしょうか、フィリピンも大好きな国です。しかし、もう一步踏み込むことが出来ないでいたのです。

タイには私の心の中に素直に受け入れられる何かがある、むかし私たち日本人が持っていた大切なもの、今の日本では忘れられた、謙虚で慎み深い人達、両手を合わせ挨拶する仕草など、穏やかな人達には、心なごむ郷愁さえ感じさせてくれました。すっかりタイが好きになり、秋には、リタイアした夫と一緒にホテル住まいでしたがバンコクに一ヶ月滞在しました。一ヶ月のステイでしたがますますバンコクが気に入り、滞在中にアパートを探し、賃貸契約をして帰国することになりました。その無謀さに子供達や友人はびっくりしていましたが、早速今年の一月からバンコク生活を始めました。詳しくは、夫が会報2002春季号に掲載させて頂いています。

第二の人生で、海外ロングステイは、定年後の夫婦のあり方、向き合いかたを見直すいいチャンスではないでしょうか。人それぞれの価値観、生き方があると思いますが、人生は一度だけです。会員の皆様、好奇心と少々の勇気を持ってスタートしてみたいかたがでしょう。私のバンコク生活は、炊事など家事から開放され、冬の手荒れ、肌荒れもなくなり、主婦にとってタイは天国です。外食しても日本食はじめタイ料理、中華料理が大変安く美味しいのです。食事のメニューなどで頭を悩ます事もなく、ストレスも少なくなったように思います。

「行動することにより、可能性が開ける」これは冒険家、堀江謙一さんの言葉です。

「前向きに、積極的に」これは私の好きなことばです。

それでは、皆様バンコクでお会いできる日を楽しみにしています。

2002年5月 JC-TOWER Prompak Sukhumvit Bangkokにて

以上が改訂前の案内書に掲載されている「五十嵐泰子」さんの記事です。以下に今回寄稿された記事を掲載します。

私達、バンコクの生活にも少しずつ馴れて参りました。食べる事にしてもレストランで摂ったり、スーパーのテイクオフだけでなく、屋台の方にも目がいくようになりました。最近、ガイヤーン(鶏肉の炭火焼き)やムーヤーン(豚肉の炭火焼き)など火の通ったものを屋台で買って帰り、よく家で食べます。これらをカオニャオ(蒸したもち米)と一緒に食べると本当に美味しいのです。ビールは氷を入れて飲み、ソムタム(青いパパイヤのサラダ)は道具を買って毎晩家で作るようになりました。夫は「だんだんタイ人に近づいてきたね」と笑っています。現地のレストランや屋台で作るソムタムは、風味を出すため材料に沢蟹を入れていますが、私達は、そのかわり、乾燥させた小エビの剥き身を使います。大変香ばしい風味が出て美味しくいただけます。わが家のソムタムの出来あがりです。

5月24日にバンコクに戻り、8月8日まで今年2度目のバンコクステイを楽しみました。その間、ロングステイしている先輩の谷村さんに洋服仕立ての店を紹介されました。洋服生地を街の生地屋さんで購入して、BTSプラカノン駅近くのブティックでワンピースの仕立てをお願いしました。綿素材の生地と仕立て代を含めて一着800パーツ位で出来てしまうのです。綿100%の生地が、メーター50パーツ位で買えます。日本に居ては考えられない贅沢なことです。夫はクローゼットがいつ一杯になるか

気になるようですが、私は、バンコクステイの楽しみのひとつになっています。



バッチリ決まった五十嵐さん御夫妻

7月に同じアパート(JCタワー)の中で少し広い部屋に移りました。15階のスタジオタイプ44㎡から、6階の2ベッドルーム99㎡になりました。引越ししてから、レースのカーテンのオーダーや壁紙張り、家具(クローゼット、ダイニングセット、サイドボード、ベッド)など、足りない調度品をセントラルデパートで購入しました。全部で約6万バーツ、私達にとっては大きな出費でしたが本当に安いと思えました。ちなみに家賃は、8,000バーツから13,000バーツになり、少し高くなりましたが、二人で生活するには十分な広さで満足しています。

最近日本語を話せるタイ人で、個人タクシーをしているスパラさん(39歳)と知り合いになりました。スパラさんは、今年の春まで、日本で旋盤の仕事(早出、残業一手に引受け)をしていたそうです。しっかり仕事して稼いだ月収のうち、奥さんに毎月10万円(タイでは高額です)を10年間送金し続けました。奥さんはこの間しっかりと貯金していたのでしょう。バンコク郊外のヴィレッジに200坪の敷地を求め、2階建ての家、延べ60坪(4LDK)の大邸宅を完成させました。車も2台(1台はタクシーもう1台はレジャー用のワンボックスカー)購入した働き者です。私は、約束した時間の10分前には必ず玄関に車を付けてくれる、基本的な生活態度を身につけた彼の誠実な人柄が大変気に入りました。また彼は将来奥さんのため、バンコク

でイサーン(タイ東北部)料理のレストランを開くのが夢なそうです。

私達は、彼の車をチャーターして行動の範囲を広げ、タイロングステイをさらに楽しいものにして行きたいと考えています。先日は、バンコクから東方のカンボジア国境の町、アランヤプラテートまで、往復600kmの一日旅行をして来ました。この町はカンボジアのポイペットという町に隣接していて、荷車から大型トラックまで列をなして物資の交易輸送が行われているところです。また、学校に行っているとは思えない大勢の子供達が埃にまみれ国境を行き来して大変な賑わいです。この町からアンコールワットは目と鼻の先にあるのですが、悪路と交通手段が確立されていない為、ここからは難行苦行の道行きとなるそうです。鉄道も地図の上ではあるのですが国境で分断されたままです。陸路でタイ側から一番近いルートにありながらクメールの古都は、内戦の傷跡深く、いまだ遠い世界遺産です。

さて、アランヤプラテートまでの道中は、道路脇で売っている茹でトウモロコシを買って食べたり、おみやげにメロンを買ったりと、道草しながらの快適なドライブです。郊外に出るとバンコクの活気と喧騒が嘘のような世界に変身します。まばらにすれ違う車を目で追いながら、よく整備された空いている道路を時速120kmで走るタイの田舎も素晴らしいものがあります。直播き2期作の水田、パルプの原料にするユウカリの林、家畜の飼料にするという作物など、車窓から眺めていると雄大な田園風景が車のスピード感を失わせていました。

天使の都、国際都市バンコクは、煩わしい人間関係をも飲み込んで、心地よい解放感を与えてくれます。そして、めぐみ多いタイの大地は、小さな人間を暖かく包みこんでくれます。私は、このようなタイがだいすきです。車のチャーター料は、その都度話し合いで決めています。バンコクのタクシーの稼ぎが一日1000バーツ位と言われているので、私達は、時間にもよりますがたっぷり一日乗車して、彼には100

0パーツ～1500パーツを支払っています。彼も私達のバンコクステイを喜んで応援してくれています。

10月中旬、今度は西方ミャンマーに近い「戦場に架ける橋」で有名な歴史の町、カンチャナブリへの旅を予定しています。

7) チェンマイに住んで

鈴木 宣夫

1) なぜチェンマイを選んだか

会社勤めをして38年間にいろいろの国に旅行した。特にアジアを中心に勤務の都合上休暇を取りやすい冬季に多く旅行した。プライベートで年に1回、業界の関係でも年1回、合わせて毎年2～3回旅行することがあり、リタイアした際、どこかでロングステイしたい希望をずっと持っていました。

フォスターペアレントに入会して比国ミンドロ島の子供に8年間援助し、その間にミンドロ島を訪れ子供とも会い、仕事の関係でフィリピン人にも友人が出来、将来はフィリピンに滞在したい気持ちがありました。しかし何度か訪問するうちに治安に不安が感じられ、ビザ取得に5万ドル必要となり資金に余裕が無くあきらめることとなりました。



チェンマイのゴルフ場にて(左から二人目が鈴木さん)

一方以前から、英語サークルの友人と旅することが何年も続きタイを訪ねることがあり、その時チェンマイも訪問しました。今までに経験

したことの無い「治安の良さ」、「物価の安さ」を体験し、リタイア後は住んでみたい気持ちになりました。そこで今まで一度も連れて行ったことの無い家内を連れてチェンマイに来たところ、家内も気に入り、滞在することに決めました。そしていろいろの準備のために、会社を1年早く退職しました。私は3人兄弟の真ん中(長男)で、年老いた母は存命であり、家庭的な問題が無いわけではありませんが、私の我が儘を理解してくれる兄弟には本当に感謝しています。現在は観光VISAで滞在しており、90日の節目には帰国したり、ニュージーランド、オーストラリアなどの周辺国へ旅行している。チェンマイに来てからは止めたはずのゴルフを始め、プロに付いてレッスンを受けて、日々ゴルフを楽しんでいる。家内も頭に無かったゴルフレッスンを受けて、二人で楽しんでいる。

私の口癖は「日本で出来ないことをチェンマイでやろう」ということで、これからも色々トライして見ようと話している現在です。タイ語を習い、日常会話が出来事を願い、YMCAへ通っています。友人と温泉に行ったり、美味しい店があると聞けば食べ歩きをしたり、色々の祭りを楽しんでいます。

縁があつてチェンマイに来たので、何をすればタイ国の人に少しでもお役に立てるのか考えているところです。年を重ねて日本に帰るのではなく、チェンマイに骨を埋めることにしたいものと、かなわぬ夢を描いています。光陰矢のごとしの例えに有るように、限られた人生、実行あるのみです。永く住めなくても寒い時期に訪れて、おとぎの国を体験してみても如何ですか。今年の冬は渡り鳥になりませんか。

2) 暮らしてみて満足な点、不満な点など

先ず治安が良い。ここに来てから一年半が経つが、危ない目にあったことが無い。人々は親切で、物価が安い。4～5月を除けば日本より気候が良い。

不満な点は、日本人の交流が少なく永く住むには飽きが来る。早く交流の出来る場がほしい。またリタイアした人に、もう少しVISAの有効

期間を長くすることを考えてほしい。

3) その他初心者にアピールする事柄

日本では考えられないほど物価が安いので、しかも全ての物が何でもあるので、是非この機会に滞在して体験して下さい。日本人が忘れかけたものがタイでは現存しています。ある会員が「チェンマイは桃源郷」と例えていました。私も体験上同感です。

8) オーストラリア・パース

に住んで

パースの場合は、2001年、3ヶ月のロングステイを経験された会員の鈴木 剛さんと、2001年からパースに居住しておられる同じく会員の奥川勝俊さんのお二方に、パースの裏表ということで寄稿していただきました。

(事務局より)

世界で一番住んでみたい街 西オーストラリア「パース」

鈴木 剛

かつて兼高かおるさんが、財界の人から「日本も住み難くなった。兼高さんどこか住みやすい街を紹介してくださいよ。」と言われて、世界中を周り探し当てたのが「パース」。

パースロングステイ

2001年11月から2月まで100日間、パースにロングステイしました。この間地中海性気候の輝く太陽のもとで自然に浸りながら暮らしてみました。

パースを選んだ理由

旅行会社の友人からとても良いところだと聞いていました。海があり、暖かく、安全で物価が安い、人が良い、清潔、自然が豊かなどロングステイの条件をクリアーしている街。しかも時差が1時間というのは時差ぼけがなく日本との連絡の上で便利。

パースでの生活

5時半 起床

5時半から前日のNHK夜の7時のニュースを見る

6時 朝食

朝食後掃除・洗濯・散歩

8時 パソコン

インターネットで日本・ハワイ・チェンマイ・ジャカルタの南国暮らし会員や友人と連絡。もちろんパースで知合った友人ともメールをし合うようになる。最新のニュースはわかるし、しかもパースの通信料はタダに近く、使えばなしでも僅か25セント(20円弱)

9時 ゴルフ

住まいから車で5分、自転車で15分のところのゴルフ場でハーフプレー(費用は8ドル約560円)パースはゴルフアーズパラダイスと言われています。費用は安く、しかもコースの数が多いです。パースの中心から60キロ圏内で45コースあります。

12時 昼食

コースのクラブハウスか自宅で昼食コースのスタッフ全員と知合いになり、英語の勉強になった。ゴルフで使う会話を教わり、滞在中「ゴルフで使う英会話」をまとめる。

午後

友人の家を訪ねたり、町の散策、サイクリング、釣り、海水浴、クルージング、読書、昼寝など自由気ままな時間つぶし。

夕食

殆ど自炊。歩いて3分ほどのスーパーで食材を買い入れ食事

イベント情報

夏はイベントが多く、あわび採り、クリスマス、大晦日のカウントダウン、オーストラリアンデイ、遠泳大会などがある。

観光地

イルカやペンギン、あざらしを見るツアー、歴史的な街を訪ねるツアー、ワイン農園訪問ツアーなど近場のツアーはあるが、ちょっとした名所に行こうと思うと400キロ、500キロ離れており、長時間バスに乗ることになる。

100日間快適な夏のパース生活をエンジョイしましたが、費用は航空券代12万円、食費7万円、ゴルフ代6万円、住居費12万円でした。航空券を除けば諸経費を入れて30万円というところでしょうか。



後列が奥川さん御夫妻・前列右端が鈴木剛さん

差すが、それでも濡れる。この時期の散歩で不愉快なのが、犬の落し物。夏は強烈な日差しで、カラカラに乾いてしまい芝生に消えてしまうが、この時期は油断できない。

2.住居

パースは西オーストラリアの唯一無二の大都市である。人口は150万を超える。ここに住む多くの日本人は仕事をしている。人口増加に伴いパースは住宅不足です。1,2名で気軽に住める住宅が特に不足している。私は日本では豪邸と呼べそうな、4LDKの安い家に住んでいるが、庭の手入れなど保守が高くつく。建物が大きく、緑地が多いためでしょうか、ゴルフ場、釣り場に行くには東京よりは楽ですが移動距離がとても大きい。

以上

パースでの不満

奥川 勝俊

パースは、簡単に言えば、日本からの退職者が通年住む適地ではない。

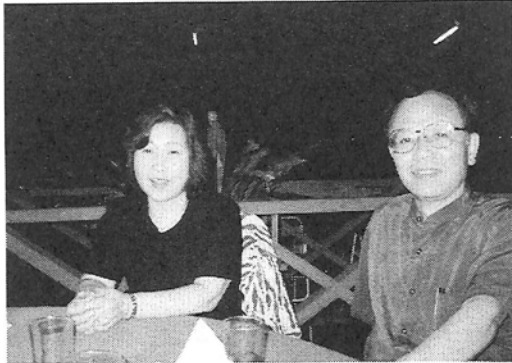
1.気候

5月の中旬から8月の中旬まで、雨季となる。この期間は雪は降らないが、日中最低気温は5度前後(2002年は1度が最低)まで下がる。パースに住む前は事前の情報として、気温は低いと知っていたが、雨は見落としてしまった。パースの7月の雨量は東京の6月の雨量と殆ど変わらないが、低温との相互作用で、外出が億劫。近くの公園に殆ど毎日1,2時間散歩に行くが、showerが来たら、大木を探し、その下で傘を

ロングステイ最適地探しの旅

長野県 会員 NO.96 宮澤 英光
幸子

この度南の会役員の方々と縁が有ってロングステイ最適地探しの旅に同道させていただきました。6月29日成田を出発。概日程はマレーシアのコタキナバル(4泊)→クアラ、バンコク経由チェンマイ(5泊)→バンコク(2泊)→クアラルンプル(1泊)→7月12日成田着と2週間で4都市の訪問の旅でした。これまでの会報で特にチェンマイに関する詳細な報告が幾編か(特に埼玉の平澤様の「東南アジア諸国見聞録など)されていますので、ここでは私の偏見と独断的感想を中心に書いてみたいと思います。



右:筆者,左:妻 幸子

さて、私は昨年定年を前に1年早くリタイアしました。それも現役時代は、状況が許せば出来るだけ早くリタイヤし、海外でのロングステイをしたいと夢見ていましたが、現実はそう甘い物ではなく、財政的な問題に直面し、やっと1年前で実行できました。私たちの居住している信州の茅野市は海拔 900 m にあり、近くには霧ヶ峰高原、蓼科高原、八ヶ岳山麓があり夏の避暑地、リゾート地として賑わっているところです。しかし、夏の爽やかさをよそに冬の寒さが大変なところでもあります。1、2月は零下10数度を越える日が続く、路面が氷りつき動きがままなりません。こんな中では猫顔負けの炬燵を抱えてホームステイするのみです。ウインタースポーツは近隣で出来ますが、若いときとは違いそうそう出掛ける気になりません。また趣味の油絵を楽しむにも寒さがその気をそぎます。なんとかこの寒い間を暖かい国で過ごせないか、また限られた時間と年金を何

倍にも生かして生きいきライフが出来ないものか。また会社生活の延長から脱皮し、違った環境の中で新しい人間関係や行動で人生の第二ステージを夫婦で創造できないか。などと思っていました。そんな思いの中インターネットで情報集めをしているうちに、最初に出会ったのがフィリピンにステイしている「南の会」創始者の竹内氏でした。“冒険ダン吉村”構想に心を動かされ、幾度かプエルトアズールを訪問し、具体化の準備のお手伝いしていました。しかし条件が整はず、この計画が宙に舞う結果になってしまいました。その後マニラ周辺、クラークのフォンタナリゾート、スービックなど体験滞在をしてみましたが一長一短があり、決め手のないまま時間だけが過ぎていました。あちこちのステイ先を時間をかけて調査ばかりしているのではなく、とにかくよりベターな地を早く見つけたいとの思いでいたところ、この度思いがけなくそのチャンスに恵まれたと言った訳です。

この旅で是非ステイ先を決めたいとの思いを胸に成田へ。最適地探しの調査団編成は副理事の宮崎さん、同じくチェンマイに大変興味をお持ちの副理事長酒匂夫妻および私どもの計5名でした。さて、待ち合わせ時間をかなり過ぎて心配していた、酒匂夫妻の顔がカウンター越しに見え先ず一安心、いざ出発。宮崎先輩の計らいを頂きチェックイン、機中の人に。

= 成田 13:30 出発、KUL 経由コタキナバル着 23:25、空港からタクシー15分でプロムナードホテル着 = (落ちついた感じで重厚感のある伝統的ホテル)

<コタキナバル雑感>

* 初日:ホテル近くのリゾート施設「ステラハーバー」見学。大変きれいな海沿いでかなり高級なリゾート施設とホテル。ここでペナン在住の加藤夫妻と偶然出会う。午後昼食を取りながら懇談。話が弾み3時間を軽くオーバーして大変有意義な時間を過ごす。特に南の会の心の通う人とのつき合いを

大切にしたいとの思いを確認しあつた。加藤さんとはチェンマイでの再会を約して日暮れよりサッカーの決勝戦をホテル前の屋台で見ながら夕食。一人180円(この安さには驚き!)で上がる。ヌードル、焼きそば、焼きめしをシェアして楽しく時間を忘れての会食。部屋に戻って近くの市場で買ったマンゴー、マンゴスチンを皆で食す。アーこれぞ南国の味。極楽ごらく!

*2日目:近くのマヌカン島へボートをチャーターして渡る。タンジュンアルツアー会社のリゾート地で海水浴客の上げる水しぶきや紺碧の海を眺めながらしばしの休養。静かで輝く白浜と海の深い青色が印象的。また栈橋下には色とりどりの熱帯魚が群がり我々を歓迎してくれた。

海の無い地にステイする事になった場合、時々訪ねたい絶好の地で有ると思った。

帰途ワイキキコンドミニアムに立ち寄ったが入居者が少ないとのこと。(600~1000万円)

また、この地でボランティアをされている漆原さんをJCTICに訪ねる。日本語指導をしてくれる人を切に要望された。来る人のために大変眺望の良いマンションを契約しているとのこと。(もちろん費用は自弁)



マヌカン島にて

*第3日: 昨夜から強い雨があり、朝も灰色に煙った曇り空であやしい中、キナバル山に向け出発。1.5時間の行程であるが途中のビューポイントでは幸いにも雲が切れ、壮大な4100mを越えるアジア1のキナバル山の山塊を見た。大きな岩が天に向かって幾つも突き出た姿は異様さを感じる。また中腹に架かる雲とのコントラストが見事と言う他なかった。ジャングル巡りや蘭園見学の後帰途についた。

途中リサスクエアとホテル隣のコンドミニアムの見学をしながら帰着。

ロケーションの良い場所で結構良質な物件が有りそうだ。価格はやや高めで4~6万円ほどの様だ。

<コナキタバルの感想>

海も山もあり手頃で住み易い環境に思えた。海に興味のある人は最適かもしれない。ただ町はやや田舎の雰囲気です。都会的な物が少なく、エンターテイメントには不足を感じると思う。私も機会があれば一度はステイしてみたいと思った。



キナバル山 (4100 M)

<いよいよチェンマイへ>

7月3日の朝9:30フライト。クアラ、バンコク経由でいよいよ本命のチェンマイへ20:25着。

空港では「南の会ご一行様」との看板を掲げての出迎えに驚かされた。先行していた加藤さんの計らいで賑やかにチェンマイ入り。

ホテルにチェックインをせず、直接チェンマイサミット会場(?)へ。参加者は次の方々でした。

ペナンの加藤夫妻、と石原さん。クアラの末夫妻。来チェン中の松尾さん。そしてチェンマイ在住の鈴木支部長夫妻、宮さん、伊沢さん(日タイ交流協会)と調査団の総勢15名の大会合となった。乾杯の後各自自己紹介——飲むほどに盛り上がり、もうそのあとはご想像の通り。

それにしても宮さんと伊沢さんのにわか漫談タイ語教室には笑わせられた。腹がよじれるとはこんな感じを言うのだろうか。

吉本より声が掛かりテレビ・ビュー間近とのうわさは——アッナイ?——残念です。



サミット参加者一同

*** チェンマイ第1日:**末さん加藤さん石原さんはゴルフへ。調査団メンバーは疲れをとるべく午前中休養し午後より市内観光に。

山頂にあるドイステープ寺院の庭より眼下に開けるチェンマイの町並みを望んだ。一瞬我が故郷信州の諏訪盆地と見間違え程の印象だ。周囲を取り囲む山並み、町並みを包む広い田園、そして何と言っても町中に緑の多いこと。この風景を見る限りなんの違和感も感じない。否故郷にいる様な錯覚を覚えた。町中もきれいでそれに寺院、僧侶の姿に親近感を覚える。日本の地方の中都市に似て田舎風とやや都会的な面を合わせ持ち落ち着いた雰囲気を感じられた。

*** 2日目:**ゴルフ組とゆっくり休憩組に分かれての1日。車で15分のゴルフ場。会員同伴で550 B。ピンターでも750 Bと安い。キャディーチップに100 Bは一寸高い。(日本人価格)

1時間のタイ古式マッサージへ。値切って100 B。しかしここでも日本人価格のチップ。チェンマイ在住の皆さんと日本食を楽しんだ後、宮さんの名案内でナイトバザールへ。しっかり日本人をした1日であった。

*** 3日目:**鈴木支部長に案内をいただき、ラム病院と宮さん伊沢さんのお宅とコンドミニアムを数件及びロングステイ用ホテルを見せてもらった。

ラム私立病院は既に紹介をされているように、日本人及び外国人を主に対象にしており、それなりのサービスをしているようだ。案内の標識や問診票などが日本語標記がされていて日本の病院にいるのと変わらない。入院設備も整っていてまた日本人ス

タッフもおりに安心に思える。既に何人もの方がお世話になったり、人間ドックの費用も安く利用された人がいるとのこと。

入院時などは看護婦の指名が出来るとか。(どこかのお店と錯覚しそう)

コンドミニアム等も物件は相当有るようで予算に応じた、条件に応じ1万円台から5万円近くまで有ること。物件探しにはそう苦労は無い模様だ。

*** 第4日:**今日も日本人の本領発揮で北方のゴールドトライアングルへ出掛ける。途中休憩を入れながら一路北上。タイ式トイレ(慣れないとなかなか使用が難しい)を体験しながら約4時間で到着。

舟にてラオス、ミャンマーとの国境を眺めラオス領の島に一時上陸。赤土色に染まったメコン川の早い流れを川辺のジャングルの静寂さを破って小舟がエンジン音を響かせて進む。悠然とした大自然の中で時が止まったような錯覚を覚えた。



ゴールドトライアングルにて

<チェンマイ雑感>

- ・既住者が言われる様に安全面での安心感が強いと感じた。
- ・こじんまりした中都市の雰囲気と緑の豊富さおよび清潔さがあり大変安心感、安堵感を感じた。
- ・消費物資やサービス料などの価格も安く、年金での生活に心配はいらないようだ。
- ・支部長の“10万円は使いでが有る”との言葉に実感がこもっていて心強さを感じた。
- ・周囲の山並みなどが故郷の風景と近似していて違和感が無い。
- ・今年の10月以降日本からチェンマイへの直行便

が就航する予定とのことで、空港からのアクセスが15分と大変便利である。

<バンコクへ>

いよいよ調査旅行も終盤に。鈴木支部長夫妻、伊沢さんの見送りを受けて出発。

11:30 バンコクに到着。バンコク支部の五十嵐夫妻が出迎えて下さりチャータの車でタワーホテルへ。

チェックイン後日本食レストラン“寿楽”にて寿司を全員で食す。今までの胃のもたれを解消。

早速五十嵐夫妻の案内でバスを利用してデパートとスーパーに出掛けることに。フジスーパー2やエンポリウムショッピングセンターの食品売場を探索。食材の豊富さと価格の安さ(日本の1/5~1/10)また売場の賑わいには驚かされた。日系企業の管理の良さも実感。探索の後五十嵐宅を訪問。タクシー3台でスクンビット通りのソイ25に有る23階建てのコンドの6階のお宅に。東北側に大きな開口部があり、市内が眺望され2ベッドルームと広いリビングで13,000B/月とのこと。部屋のリフォームやキッチンセットの設置また家具の買い増し等全てご自分で手配され、美しくまた使いやすく工夫をされていた。

ここでも楽しくまた大変興味深いお話を奥様からお聞きし、時間の過ぎるのも忘れる程でした。

本当にバンコクでのステイを楽しんでおられる様子。



五十嵐バンコク支部長宅にて

翌9日は少しゆったり過ごすこととし高名なオリエンタルホテルに電車(BTR)とシャトルボートを乗り継ぎ”お茶”をしに。心地良い空間でゆったりと贅沢な時間を過ごした。午後五時嵐ご夫妻の案内で評判の良いといわれる古式マッサージ屋”goo”へ女性300 B男性340 Bで2時間。私は身体が固いせいか気持良さより痛みが先行して悲鳴が出てしまった。妻は大変お気に入りの様子であったが。メンバー全員リフレッシュし体調を整えた後バンコクサミット会場の中華レストランへ。参加者:バンコクロングステイ会 川満さん、山本さん、バンコク支部長の五十嵐夫妻、会員の大瀬戸さん、田中夫妻(会員登録希望)、及び末ご夫妻と調査団の合計14人の大会合。

自己紹介の後情報交換で会場が賑やかに。特にバンコクロングステイ会の各理事より今後の南の会との連携やロングステイのサポートを充実して行きたい旨の話が出され、強い熱意を感じた。お二人ともタイ人と結婚され30数年居住されていて豊富な経験をお持ちで、南の会との連携強化がなされて行けば大変重要な、また頼りになる存在で有ると思う。組織化には課題が残り時間も必要と考えられるが、相互の情報交換や支援協力をしていくことが望ましく思われる。

また中国系財閥によるロングステイ用ビラの開発情報が田中さんよりされた。明日その現場見学をすることになる。10時過ぎまで話に花が咲き、楽しく有意義な一時であった。



バンコクサミットの参加者

<トピックス>

調査団のあるメンバーが大変身をとげた1日でもあ

った。それは例のタイ古式マッサージ屋で枕を並べて極楽世界で夢見ている、また悲鳴を上げていたその時、密かに五十嵐婦人を伴って美容院に向向していたご婦人がいた。和服が似合う魅力的な長いお髪をハッキリとショートにカットされ、都会的美人に大変身されたのであった。変身後の彼女に逢ったメンバーの大きな声。ワァ綺麗、十才以上は若返ったわね!!!よくお似合いだこと!!!----

今までご主人の意向で和服に合う髪型をずっとされてきたのだそうですが、子供さんからも「自分の好きなようにしたら」と強く後押しされていたこともあって一大変身をされたのであった。今までとは違った奥様の美しい姿に、ご主人はただニコニコ。コメントを皆に訊ねられてくれることしきり。本当にほほえましく幸せそうなお二人でした。

<ロングステイリゾート&ヘルスセンターの見聞>

バンコク在住の田中さんの案内で華僑財閥が開発しているロングステイリゾートに出掛けた。バンコク空港を右に見ながら車で約1時間。田園の中にピラ風施設が有った。広大な土地に区画整理された一部に戸建、連棟式建物がモデル的に建設されていた。新築中の家も2軒あり、日本人向けにステイヤーの意見を入れて改善しているとのこと。既に7~10戸がリースされている。

管理棟も整っておりインストラクター付き運動施設、レストラン、医療室、会議室他も設置されている。空港までのアクセスは30分位と大変良い。また車で20分の距離に最近出来た大規模なショッピングセンターもあり今後の開発が期待される。



広大な敷地



モデル住宅の一つ

<クアラルンプールへ>

一足先に末夫妻がクアラの自宅へ。調査団一行は1時間遅れのフライトで21時20分着。タクシー2台でセンチュリーホテルへ。街路樹が電飾された賑やかな町へ。今までの町と一寸違った雰囲気を感じた。それは目だけを出したアラブ系の人たちが大勢いたからだった。異文化の中に身を置いた実感を強く感じながら夜食を求めて町中へ。

翌11日は旅の最終日であった。末夫妻と落ち合っただけで婦人達はお土産購入のためデパートへ。男組は空港までの車の手配にトラベル会社へ。それぞれ用事を済ませて飲茶で昼食。評判のオリエンタルホテルでと出向いたのだが既に予約で満席とのこと。近くのリージェンシーホテルで席に着いた。

それぞれに好物を注文したらふく食べたのだが、一人当たり千円一寸と安く上がり大変満足、満足。

<末さんのお宅へ>

先が見えない程のスコールに見舞われながらタクシーで末宅の有るマンションへ。上階の大変見晴らしの良い素晴らしい部屋に案内され一時の休養。家賃は月1500RMとのこと、キッチンの広さや調度家具を見て納得。素晴らしい環境で住まわれていた。宮崎先輩が旅の間にたまたまメールを末さんのPCをお借りして早速チェック。貯まっているはいるはと整理に大忙し。末さんの日頃の生活スタイルをお聞きした。スポーツにボランティア活動にと大変精力的に活動され、充実した日々を送って居られる様子を伺った。長く海外で生活されている末さんの心配事の一端をお聞きした。それは長く居ればいほど年齢を重

ね帰国した時の友人の問題とのこと。遊んでくれる人のことが心配であると。たしかにそうだと思う。切実な内容であった。南の会での人とひととの繋がりを大事にして、友人をより沢山持つことが解決策の一つにはなり得るのではと思う。

末宅を辞してよいよ帰国の途に。手配のワゴン車で空港へ。屋台風レストランで好みの夕食を取った後、末夫妻のお見送りを頂きながら 23:30 搭乗。翌 12 日早朝日本へ。調査団一行無事帰着。



末宅のリビングルームにて

<終わりに>

アット言う間の2週間のような気がします。沢山のひとと出会い、語り、飲んで食べて、時には真面目に会談し？調査し？充実した旅でした。

それぞれの町でお世話になった南の会の方々と関係者に紙上を借りてあらためて厚くお礼を申し上げたいと思います。本当に有り難うございました。また、調査団の皆さんには色々のご配慮、ご心配を頂き楽しく旅をご一緒出来ましたことに心から感謝申し上げます。

それにしても今回の旅で是非最初のステイ先を決めたいと強く思っていましたところ、幸いにも事前に考えていました以上のフィット感がえられ、チェンマイに心がどうやら決まりました。これから

諸準備をして、この10月以降 3~6 ヶ月を目処にステイしたいと思っています。鈴木支部長始め在住の皆さん宜しく願いいたします。

この拙文が会報に出る頃には多分チェンマイ入りし

ていると思います。鈴木支部長を中心に私どももお手伝いして、こちらに旅をされる方のサポートが出来るよう努力するつもりですので是非お出掛け下さい。お待ち申し上げます。

メーリングリストの声

MLに登録の会員の皆様へ

この度拙い内容で恐縮ですがホームページを作ってみました。時間が有りましたらご笑覧下さい。順次充実して行きたいと思っています。皆様よりの感想や、ご意見をどしどし寄せて頂ければ幸いです。

URL:<http://hs-miya.dnsalias.net> です。

甲信越支部長 宮澤 英光 幸子

メーリングリスト・ミニ情報

80阿部です

さる9月21・22日の二日間でタイ語の集中講座を受けて来ました。良い体験でしたので、皆様にもお勧めします。

今回は、中・韓・インドネシア・タイ・ベトナム・インド・アラビア・ペルシャ語の講座で、2日間で10,500円と教材費700円でした。次回は来年3月21日あたりに開催されるそうです。

主催：

アジア・アフリカ語学院 都立三鷹高校のそば、0422-48-5515

東南アジア諸国見聞録

(その2 ベトナム)

埼玉県 会員No.40 平澤 信

VISAと旅日程等

バンコクのツーリスト・オフィスでベトナムとラオスのVISAを取得した。ベトナム1か月2,050バーツ(6,355円)、ラオス15日間750バーツ(2,325円)。急ぎの場合はいずれも3日程度で取得できるが、料金は倍近くになる。

バンコクはハブ空港になっているので、外国への足の便は良い。私の旅日程は、バンコクからホーチミンへは航空機使用。ベトナム航空片道4,280バーツ(13,268円)。1時間30分のフライト。ホーチミン→ニャチャン→ホイアン→フエ(ここまでは長距離バス使用)フエ→ハノイ(寝台車)。ベトナムの南部ホーチミン市から海岸沿いに北へ北へと旅を続け、中国国境のラオカイから更にサパーまで北上した。ベトナムの長距離バス・観光バスともホントに安く、3\$ (375円) 7\$ (875円) が普通で、長距離バスのオープンチケットでも20\$ (2,500円) ~ 30\$ (3,750円) 程度で事足りる。



左が筆者です

ホーチミン(サイゴン)はミニ・パリだ!

2月5日、“何と緑が多くて美しい街か!”これがホーチミンの第一印象であった。暑さと騒音と排気ガスのバンコクから直接入ったことが

影響していたと思う。街の中心部に巨木の並木道や緑地帯があり、足を踏み入れた途端にこの街が好きになった。あまり高い建物はないが、美しい街並みとコーヒーの香り、あちこちに見られるフランスパンの露店はパリを思わせるものがある。しかし、待てよ私はベトナムに来ているのにパリ風が気に入ったとはどう言うことだ?フランスに植民地支配されなかったら、ベトナム独自の街並みとは一体どんなものであろうか?真っ白いアオザイを着た高校生がフランスパンをかじっている風景は違和感がないのだが、野良着姿でベトナムの笠をかぶったお爺さんお婆さんが頬張っている風景は、フランスパンが美味しいので定着したと見るか、穿った見方をすればフランスに胃の腑まで占拠されたと見るか、日本も戦後急速にアメリカナイズされたのと同様、良し悪しの判断は難しい。

善良お婆さんの家

バンコクから一緒だった日本の若者2人(獣医大生のY君とH君)と宿を探しにかかった。私がのんびりとお茶している間に彼らが見つけてきてくれた宿は市の中心部にあるヴアンホア公園近くの1人1泊5\$ (625円、1か月150\$ 18,750円)のDiem thuyであった。エアコンはないが、ホットシャワー付きでツインなのでここに決めた。窓を開け扇風機で充分耐えられる暑さだ。彼らは2人1室なので6\$ (1人3\$) になったとぼやいていた。彼らとはホーチミンの街を一緒によく食べ歩きをした。初めての街なのに自分の家の庭のように歩き、美味しい店に案内してくれる。別れの晩、いろいろお世話になったお礼にベトナム料理をご馳走してあげた。3人で飲んで食べて105,000ベトナム・ドン(約890円)。経済格差による物価の安さは本当に有難い。同行の獣医さん達は、知的で礼儀正しく話題も豊富、そしてなかなか美男だったことがホーチミンをより楽しい街にしてくれたのかも知れない。ヒヒ爺さんが若い女性と一緒に居たがる心理が少しだけ分かった気がする。

ベトナム料理は一般的に薄味で、日本人には馴染みやすいと思う。タイ料理よりも砂糖が使用されていない分、私の味覚には合った。

宿の料金は、1泊8\$ (1,000円)位からエアコン・朝食付の部屋も借りられる。でも5\$宿の女性経営者が余りに親切で優しかったので5\$宿の方に決めた。宿泊中私達は「善良お婆さんの家」と呼び合うようになった。このお婆さんの善良さに、あたかも全てのベトナム人が善良であるかの如く錯覚を起こしてしまい、後々食事で、乗り物で結構ひどい目にも会ってしまった。添乗員をしている旅のプロのMさんに「ベトナムは良い人ばかりで本当に楽しい」とメールを入れたら、“悪人は悪人面していないから気を付けて”のメールによるアドバイスが親の意見のように後で効いてきた。狡すっからい誤魔化され方をすると、あの戦争で大国アメリカに勝った国だもの、我々ヤワな日本人が勝てる訳はない。と思うことにした。

ベトナム戦争といえば、我々の世代はまだ記憶に新しいのだが、街の中にその悲惨な面影を見ることはない。古い建物に銃撃戦の跡でも残っていると思ったのだが、「戦争証跡博物館」以外にそれらを見る事はなかった。しかし、物乞いをする若い身体障害者を異常に多く見るにつけ、ベトナム戦争の「枯葉剤」の影響ではないかと平常心ではいられないものを感じる。

ベトナムは社会主義国なので、障害者など恵まれない人々には優しい国なのかと思ったが、物乞いの多さは他の東南アジア諸国の中でも多いような気がした。誠に私の認識不足というものであった。よその国の文化にケチをつける気はないし、軽々しく口にしてはいけない言葉だがあえて言いたい。決して貧しい国ではないのに、障害者に物乞いさせると言う発想自体がおぞましい。政治の貧困だ！

ベトナム戦争が残したもの

ホーチミン市はそれほど大きな都市ではないので、市内の名所・旧跡は2~3日あれば歩いて

回れる。沢山ある名所・旧跡の中で印象に残った場所は「戦争証跡博物館」の枯葉剤によるホルマリン漬けの奇形双生児や、切り落としたベトナム人の生首を持ち上げて談笑しているアメリカ兵の姿、実戦で使われたという爆弾や戦車などベトナムの戦争記録は怒りと涙なくして語れないものがある。全身総毛立つ思いだ。しかし、これは全人類の“負の遺産”として誰もが見る必要があると思う。

また、「統一会堂（旧ベトナムの大統領官邸（ゴ・ジンジェム））」の巨大な建物は100以上の部屋を有する大統領一家の豪華な生活ぶりが伺えるのだが、地下室は全体が暗い灰色一色に塗られていて、戦時中は極秘の軍事施設になっていたという。暗号解読室や機械室、大統領司令室など当時のままに保存されている。残忍な物を直接見たわけではないが、1人でこの部屋にはいられない不気味さを感じる。やはり戦争なしにこの国は語れない。

クチ・トンネルとメコン・デルタ

観光バスに乗ってクチ・トンネル（日帰り）へ出かけた。総勢12人。私の他に日本の若い女性1人も一緒であった。ホーチミンからバスで約2時間（60キロ）。バスが着いた所は白樺の木の茂ったのどかな田舎風の景色で、ここで激戦が繰り広げられたなどと誰が信じられようか。しかし、しばらく歩くと、実戦で使用されたアメリカ軍の戦車がそのまま放置されているなど生々しい。このトンネル意外と狭い。私達は体が小さいので難なく通れたが、アメリカ人の若い女性は巨大なヒップが引っ掛かって、出る事も引き返すことも出来ず悲鳴をあげていた。ガイド曰く“あなたはナイス・ボディなのでトンネルの女神に引きとめられたのだ”と訳の分からない説明をしてくれた。蟻の巣のように張り巡らされたクチ・トンネルは一見に値する。これではアメリカが勝てる訳がないと誰しもが思う。ただし、延べ300万人の犠牲を出したベトナムに

対し、アメリカ兵は 58,000 人の犠牲者と聞く。ベトナムは余りにも大きな犠牲を払ったではないか！



クチ・トンネルと筆者

外国人混合部隊でメコン・デルタへ2泊3日の旅

これが本当に川か？と思うほどメコンの河口は雄大だ。向う岸が見えない。その河口で毎日水上マーケットが繰り広げられる。このマーケットは卸が専門で、スイカだけ商っている船、生きた豚だけを積んでいるもの、野菜・果物だけ、花だけ…。と数百に及ぶ船団が黄河を行き交う様子は壮観の一言である。ここまで来ると観光客は極少数で、私達の船3艘の他2艘しか見かけなかった。逆に観光客が船団の人達から珍しそうに眺められてしまった。キーキーと鳴き暴れる豚を手際よく水上で船から船へ渡している様子など旅に出なければ見ることの出来ない心に残る風情だ。

この混合部隊、カナダ人3人、イギリス人2人、オーストラリア人1人、アメリカ人2人、イタリア人2人、そして日本人の私の総勢11名。ベトナム・ガイドが話す英語を私は殆ど理解できなかった。イギリス人をして“ベトナム英語は難しい”と言わせた発音、私如きに分かるはずがない。大いに困っていたらカナダ人とイギリス人が通訳を買って出てくれた。車座になってガイドの話真剣に聞き取っては私に教えてくれるのである。恐縮の極みであった。言葉の意味を皆で検討し合っているうちに、すっかり気分がほぐれて、混合部隊はあたかも古く

からの友人同士のように和気あいあいとなった。人さまの親切を袖にするつもりはないが、私のつたない語学力も国際交流に役立つではないか。語学力に自信のない方々安心召されよ！みな親切よ。けど私が流暢な英語を話していたら果たしてどんな扱いを受けたか興味あるところだ。



もてて困った筆者

日本語を話すエリート

旅の途中の大型渡し舟の中でイギリスの大学で言語学を教えていたと言う教授先生と出会った。彼女は日本の京都大学に2年間の留学経験があり、トツトツとしているが、正しい日本語を話す方で、私をみるなり、「日本の方ですね？」と声をかけてきた。彼女は60歳を過ぎてからの留学なので、世界で2番目に難しい日本語をマスターすることが出来ず心残りだった。と日本での思い出話に夢中であつた。彼女の話によれば、イギリスやドイツでは、日本語を学ぶ資質としてIQ（知能指数）130以上なければ入学が許可されないと言っていたが、本当であろうか？因みに一番難しいのはアラビア語だそう。かの先生と話している間、周りの視線が気になった。先生曰く“私達が日本語を話しているの、皆に羨望の眼差しで見られている”と難しい日本語を披露して私を驚かせた。極東の国、日本はいつの間にか醜いアヒルの子から白鳥になったのであろうか？

湿っぽいイタリア人

それにしても同行のイタリア人の新婚さんら

しき2人は殆ど英語を話せなかった。イタリア人イコール陽気と私達は思い込んでいるが、この2人随分湿っぽかった。食事の時も2人だけ皆と少し離れて、食べ物を隠すようにして食べていた。高価な水炊き風の鍋を頼んだものの、食べ方が判らず困っていたので、ポン酢の作り方を教えてあげたら、翌日から私を見るとニツと眼で笑うようになった。私と同じ日本製のカメラを持っていたこともお互いに親しみが持てたように思う。因みに彼はギリシャ彫刻を思わせる美しい顔立ちの青年だったが、あの湿っぽさだけが残念だった。こんなイタリア人に会ったのは始めてで、対応に気を遣ってしまった。

テレビが先か冷蔵庫か？

メコン・デルタからの帰り、美しい緑色の絨毯を敷き詰めたような田んぼの続く田舎町を通り、そこに住む人々の生活の様子を見せてもらった。テレビはあるが、冷蔵庫は未だ持っていない生活が一般的だった。質素ではあるが、食べ物が充分にあるせいかな平和でのどかな生活に見えた。“日本ではどちらが先に普及したか？”とカナダ人に聞かれたが、どちらが先だったかどうしても思い出せなかった。多分日本でもテレビが先だったかも？

メコン・デルタの旅から帰った私を待っていてくれた者がいた。善良おばさんちの飼い猫で、私の声を聞くなり駆け寄ってきて、部屋までついて来た。この夜、日本から持ってきた期限切れすれすれのスルメを肴に猫さんと2人で楽しい宴を催した。滞在中泣き声を全く聞かない猫だったが、この時は可愛い声で何度も泣いた。日本のスルメが余りにも美味しかったのか、私との別れを惜しんだのかは分からない。

もう少しホーチミンに滞在したかったが、ベトナムは旧正月(テト)に入ると10日間くらいはその場に足止めをされると聞いて、急遽ニャチャンへ旅立つことにした。

ホーチミンは物価も安く活気があり好きな街だ。気の合う友とロングスティをしてみたい。

海の町ニャチャンへ

2月11日、ベトナム中が大騒ぎになる旧正月(テト)のため、寝台列車の手配がつかず、ニャチャンまで長距離バスで行くことになった。所要10時間とガイドブックには書いてあるが、実際には途中で客を集めたり、届けたり、この国独特のシステムにかなりのロス・タイムがあり、ニャチャンに着いたのは夜7時頃になってしまった。これから宿探しはシンドイと思っていたら、ツーリスト・オフィスの女性がバスに乗り込んできて、“今、旧正月でホテルの空きがないと思うので、皆さんに良いホテルをご紹介します”とまるでこの人に付いて行かないと今夜は宿無しになるかの印象を持ってしまった。ところが、彼女の紹介してくれるホテルは1泊25\$ (3,125円)とベトナムにあっては随分高いことを言う。「謀られたか？」と思ったが、誰もOKしない。だんだん値段の安いホテルに連れて行って、15\$ (1,875円)くらいの宿から2人連れの人達がOKを出し始めた。私は10\$ (1,250円)の部屋でOKした。風邪気味であったので、エア・コンはいらないと言ったら、8\$ (1,000円)に値引きしてくれた。天井が高く、部屋の壁が真っ白く塗られ、風呂やトイレも清潔に保たれていてこの値段は有難い。この宿に限らず、ベトナムではどんな安い宿でもこの水準は保たれているのが嬉しい。バスで同行の諸氏達、8\$と言っても未だOKしないアメリカ人らしき人達が5~6人残っていた。既に1時間近くこうやって宿探しに付き合ってくれている。意外と気長で優しい国民性を持った人達だと思った。

面白みに欠ける日本人？

海に近い10\$宿にイスラエル人とユーゴスラビア人ご夫妻と共に泊まることになった。

晩ご飯を共にしながら彼らの生活振りについての話を聞き、私もロングスティ地を求めて旅をしていることを話した。彼らは母国には住ま

わず、物価が安く、アジアの中では一番エキサイティングで面白い北京（中国）に住んでいるとの事であった。なぜ日本ではないのか？と思っただけなのに、私の心を見透かしたように、“日本は知的で、親切で、近代的で、清潔で…”と知っている限りの賞賛の言葉が述べられた。ではなぜ？と聴こうとしたら、“子供から大人まで意外性がなく面白みに欠ける。何故だろう？サアどうする日本経済…？”と矢継ぎ早にエコノミストも顔負けに日本経済の現状を分析して見せて、意見を求められ本当に疲れた。でも英語の勉強方々結構楽しませてもらった。彼らご夫妻はこうして世界中を旅しているらしく、あらゆる国の事情に精通している。そして遅しい。『国を挙げて何千年もの流浪の歴史を持つ民だもの遅しいのは当然だ！』と思ったが、言葉にはしなかった。しかし、丁寧な英語指導もあり、許容量の大きさが伺える御仁達であった。

ニャチャンはベトナム有数の海辺のリゾート地で、6kmにわたる美しい浜辺が自慢なのだが、折悪しく風邪気味だったうえ、かなりの強風が連日吹き荒れていて、海辺でのんびりと言う訳には行かなかった。気まぐれに市内のニャチャン大聖堂（1930年建築のゴシック様式の教会でベトナムでは最大の物らしい）、ヤロンソン寺（1889年創建の中国風寺）と名所・旧跡めぐりをして見たが、**かかりつけの神様を持たない私**には心ときめくものではなかった。海の他にはこれと言った見所もないので、予定を1日切り上げて4泊5日でニャチャンを旅立つことにした。体調不良が影響しているかも知れないが、観光地特有の人擦れした物売りや、あの騒々しさ、私はこの街をあまり好きにはなれなかった。

ホイアンへ（日本人ゆかりの地）

2月15日ニャチャン発朝6時。ホイアンまで12～13時間の長旅となる（バス代10\$（1,250円））。朝に弱い私は、ぼんやりとバスを待っていた。そこへ、日本人らしき男性がサンダル履きで、ザック1つ背負って入って来た。「ちょっ

とスーパーへお買物」と言った格好である。挨拶を交わすうちに、何と彼も「南の会」の会員で、田野瀬氏と分かった。ホイアンまでの長旅をご一緒させていただく。バスで移動中、田野瀬氏の旅三昧について伺った。若かりし日、氏の人生を変えるほどの旅遍歴には、唯々畏敬の念で賜った。「南の会」にもこんな豪傑がいる事に改めて敬意を表したい。私など長旅と言うだけで、かなり肩に力が入っていたと思う。

トイレはどこ？

長時間のバス旅なので、水分を控え、なるべくトイレに行かないように気を遣った。何故ならこのバス4時間近くノンストップで突っ走るらしい。2時間ほど走ったところで、アメリカ人の70歳半ば過ぎくらいの紳士がトイレのためバスを停めてくれた。しかし、何もない道端だったため、男性はまだしも、女性は本当に困った！だが、東欧系のうら若い女性がティッシュ・ペーパー片手に猛スピードで草むらへと消えていった。誠にイサギ良い風景であった。この後も、前述のアメリカ人が頻繁にトイレ・ストップを掛けてくれる事が分かったので、私達は途中から安心して“あの爺さんがまたバスを停めてくれるよ”とビールやジュースを口にした。トイレの近いアメリカ人に感謝！

ノスタルジックな日本橋

夕方ホイアン到着は19時30分、珍しく雨が降っていたが、例によってバスがホテルを探し廻ってくれるので、バスに乗ったまま、この日も宿探しが始まった。ホイアンは何故か高い宿が満室で、10\$（1,250円）の宿から始まった。立派なロビーにエア・コンもバスタブも付いて、日本庭園を持つ清潔な宿であったのでここに決めた。

翌日、田野瀬氏とガイドブック片手にホイアン観光に出かけた。街全体がノスタルジックな感じのする雰囲気のある街だ。古い建物や、寺院などが良く保存されていて、宿泊することも

できるようになっている。この街は、かつて(16～17世紀頃)日本人が1,000人以上も住んでいたと、ガイドブックには書いてある。そして、日本人が架けたと言われる来遠橋(屋根付の橋)、通称「日本橋」が観光名所の1つになっている。橋は保存状態が悪く、汚れていて、下を流れる川もメタンガスが噴出している。観光で持っている街なのだから、もっと橋の美観を考えたらどうかと思ったが、そんなこと気にしないのが、ホイアン流らしい。汚い橋も川も夜ともなれば堤燈に火が灯り、ムード溢れる夜景に変身する。



ホイアンの日本橋

厚化粧の老婆を見る思いなので要注意！ホイアンの人達は、日本人に良い印象を持っているらしく、みな親切であった。路地裏を1人で歩いていると、何度も何度も「こんにちは！味の素！」と家の中から声をかけられて苦笑してしまった。アメリカの友人が、日本に来て間もない頃「ジス・イズ・ア・ペン」と日本の子供達に囁し立てられ“私はペンなんかじゃありません”と、泣きそうになって訴えたことを思い出した。私の場合は、多分、親愛の情の現れと思ったので、“味の素”になりきって、その都度“アイヤー”と返事を返してあげた。趣があり、観光地のわりに物価も安く、食べ物も美味で住み易そうだが、小さな街なので、長期滞在となると少し退屈するかも知れない。でも忘れ得ぬ思い出の街だ。

古都フエへ

2月15日ホイアンからフエ迄バスで4時間30

分。料金は3\$ (375円) 途中、中国の桂林を思わせる洞窟の見学なども入っていて中々楽しい旅であった。午後1時30分にはフエに到着。

フエは、街全体が「世界遺産」になっていて、王宮文化を中心に栄えた都市と言うだけに、街全体が颯爽とした雰囲気を持っている。清潔で、美しい街なので、長期滞在可能という印象を持った。ただし、自炊する場合、日用品を売るスーパーのような店が少なく、あっても品薄な感じなので、市場まで買出しに行かなければならない。市場まで行けば、生鮮食品、日用品等豊富な品が安く揃っている。

フエの日本人宿

フエでは良いホテルで骨休め、と思っていたが、また又バス停に客引きが出ていて、「ホテルのスタッフが日本語を上手に話せる宿」と言うので、興味半分で行ってみた。ホテルの名前は「ビンジュオン・ホテル」宿泊客のほぼ9割が日本人で、さながら「日本人宿」の感がある。このホテルに間違えて来てしまった外国人は居心地悪そうに逃げるように自室へ消えていく。この宿は1人1泊2\$ (270円) のドミトリー(雑居部屋) から、15\$ (2,025) の中級ホテル並みの料金の部屋まで揃っている。私は滞在中、ドミトリー以外の全室に宿泊してみた。特に15\$の部屋は広く、バスタブ、エアコン、TVは勿論のこと、広い結構なバルコニーまで付いていて快適であった。

オーナーのスンさんは日本に留学経験を持ち、巧みな日本語を話す30歳の聡明な若者であった。ただし、この宿、日本人バックパッカーが多く、談話室で夜毎、明け方近くまで酒盛りをして大騒ぎするので、談話室に近い人達は眠れない。オーナーのスンさんも困り果てていたが、お客なので注意できないと言っていた。男の子が小汚い格好でタオルを「夜鷹(昔、夜路傍で客を引く売春婦の意)」のように被り、男女入り混じってビールをラップ飲みしている格好は、どうひいき目に見ても醜悪としか言いようがな

い。わざわざこういう珍奇な格好しなくとも充分醜いと言われている我ら日本人なのだから…。

「西洋人は大勢集まってもこうはならない。」とスンさんがこっそり耳打ちしてくれた。私はスンさんに言いました。「貴方が経営者として躍進できるかどうかは、彼らの心を傷つけずにキチッと注意できるか否かに掛かっていると思う。ドミートリーのお客を5人泊めるより、10\$のお客1人を泊める方が、遥かにホテルにとってはメリットがあるのではないか？慈善事業でバックパッカー専門の宿にしてホテルの格を落したいなら今のままで良いでしょう」と結構余計な口出しをしてしまった。しかしながら、日本人客に目を向けた彼の発想は正しく、他のホテルでは空室が多いのに、ここだけは連日満室であった。良い経験であったが、「日本人宿」的な所を私はあまり好きになれない。

フエのツーリスト・オフィスで働く若い女性をガイドに、市内観光や美味しい料理の店へ良く出かけた。彼女には仕事としてお願いしたのだが、「ハノイまでの列車の切符を買って頂いたのでお金は要らない」という。ではどの位チップを上げたらよいか？日本円で1,000円前後と考えると、10\$ (1,350円) を渡した。彼女は目をまん丸くして驚いた。何と彼女の月給は20\$ (2,700円) であった。月給の半分も貰ったら目が丸くなる訳だ。事もあろうに清貧の私が札ピラ切ってしまった。彼女の勤務時間は朝7時30分から、日によって、夜9時まで(1週間に3~4日)の勤務と聞いた。社会主義国では「仕事は楽しいこと」と言う考え方なので、彼女が特別悪い扱いと言う事ではないらしい。でも勤勉で、識字率90パーセントのこの国の10年後は見違えるほど発展しているような気がする。

首都ハノイへ

ホーチミンから乗りたいと思っていて果たせなかった寝台車によりやくフエから乗れることになった。2月24日、ハノイまで13時間の旅。ソフトシートの上段料金は(下段は満員で取れ

なかった)、夕食付きで23\$ (3,082円)。待ち遠しくて発車予定の1時間近く前にフエ駅に向いた。ところが、この列車ホーチミンから直通のため、特別に事故があった訳でもないのに、遅れ遅れて更に2時間近く待った。待つことが少しも気にならないお国柄のようだ。しかし、入ってきた列車に乗ってみて驚いた。列車の窓枠には囚人を運ぶ護送車のような鉄格子がはめ込まれている。おまけに、ベッドの上段へ上がる人用の梯子が付いていない。これはあんまりだ！障害を持つ人や、高齢者に優しくない列車だ。料金が高いのでベトナムではバスが一般的な乗り物で列車は贅沢な乗り物のようだ。フエの女性の月給が20\$ (2,700円) である事と比較すれば1か月分の給与でも足りないわけだから、確かに贅沢なことに違いない。

このボックスの相方は、ハノイ大学の女子学生、フエからのおっさん、アメリカの青年。そして私の4人。楽しみにしていたデナーは、普通のベトナム料理のお弁当箱1つだけだった。私でさえも少し物足りないくらいのお弁当だったが2m10cmの巨体を持つアメリカ青年はこれで足りるのか心配してしまった。これに比べるとタイの列車は良かったと思わず値踏みしてしまった。しかも、この列車、各自のベッドにカーテンが付いていないので、お互いに着替えをする時にとっても困った。ベトナムのおっさんは、物珍しそうにキョロキョロしていたが、アメリカの青年は目のやり場に困った様子で地図を見始めた。しかし、地図を見ていない証拠に広げた地図は逆さまであった。奇妙な事にこのオンボロ列車で結構良く眠れた。翌朝5時頃ハノイ着。こんなに早い時間なのに、タクシーやバイクの運転手はお客の争奪戦をしている。特に日本人は御し易らしく、蠅がたかるように何人もの運転手に囲まれる。いつもの事ながらウンザリする。列車で一緒だったアメリカ人の2mさんが追っ払ってくれなかったら大声で怒鳴っているところであった。

泣く子も黙るハノイ・ヒルトン

ハノイはホーチミンに比べると静かな落ち着いた感じがする街だ。かなり北上したので、朝晩は涼しい。長旅にもかかわらず、興奮状態であろうか、全く疲れを感じない。翌日から精力的に市内観光や、ぶらぶら歩きをして廻った。疲れたときは、市の中心部にあるホアンキエム湖のほとりのベンチでお茶しながら休む。緑が多く何とも言えず心が和むひと時だ。この日、夕方までに少し時間があつたので、「ホアロー収容所」へ行って見ようとバイクに乗り行先を告げると、“ハーイ、ハノイ・ヒルトンね”と運転手が上手い冗談を言った。折悪しく、曇り空の夕暮れとあつてハノイ・ヒルトンの思い出は、唯々恐ろしかったの一言に尽きる。実際に捕虜を収容した施設で、鎖で繋がれた人々の実物大の人形がとてもリアルで生々しい。ギロチンを始め、いろんな拷問の道具もそのまま保存されている。戦争とは、これほど残忍な事を人間にさせてしまう。この収容所の記憶は今も胸に重くのしかかって脳裏を離れない。ここを見学するなら、せめて快晴の日の昼間をお勧めする。

こんな恐ろしい所ばかりでなく、街を歩いているだけで、楽しい物も沢山見つけた。ベトナム笠を被ったおばさんが、街の中を天秤棒担いで急ぎ足で歩いていた。天秤棒の先には何と「天ぷら」鍋で天ぷらを揚げながら歩いている。あまりの器用さとユーモラスさに感心して写真を撮らせて欲しいと言ったら、“こんな汚い格好しているからお願い！写真は撮らないで”と断られた。だから残念な事にこの写真はない。

厳めしいホーチミン廟と質素なお家

旅行者として観光している分には、社会主義国の官僚的な嫌な面を殆ど感じる事はなかった。だが、ホーチミン廟へ入る時だけは違った。荷物の全てを取り上げたうえ、ボディ・チェックまでするという念の入れように驚いた。廟の中で、ポケットに手を入れて歩いていた北欧の若者が、ポケットから手を出して歩くように注意

をされていた。急に涼しいところへ入ったので眼鏡が曇ったため立ち止まった私も注意されてしまった。ホーチミン廟の厳めしい雰囲気とは裏腹に、彼の住まいの方は、これが国家の最高権力者の家かと目を疑うほど質素なものであつた。4畳半とか6畳間のような部屋ばかりで、家具なども粗末ではないが、決して豪華なものではなかつた。長い戦争で全ての民が貧しい時に、「共に手を携えて復興に頑張ろう」と言うメッセージが観光客の我々にも見て取れる。ベトナムの人々が「ホーおじさん」と呼んで親しんだ意味が分つた。人の上に立つ者は自らを厳しく律する事ができなければ人々からの尊敬はあり得ない。生前の彼の生活態度からして、あの立派過ぎる「廟」は彼の本意ではないと思つた。

この街の大教会の近くで4年間も商売をしている日本人のTさんご夫妻に団体でない日本人は珍しいと呼び止められた。一緒にご飯を食べたり、事務所で茶をご馳走になりながら、ハノイの住み心地について伺つた。かなり良い部屋に住んでいるようであつたが、90㎡くらいで、3,995,000ベトナム・ドン(約34,000円)程度が日本人の一般的な住まいとのことであつた。勿論上限はいくらでもある。なお、かなりの数の日本人が住んでいて、公のものではないが、「日本人会」のようなものもあり結構楽しく生活しているが、一番の悩みは「ベトナム人と共に仕事をする事(使うの意味)」と言つていた。

山岳民族の住むサパーへ

宿泊しているホテルのフロントでトレッキングの申し込みをして、2月27日、中国国境に近いラオカイから山岳民族の住むサパーへ出かけた。ハノイから寝台車に乗り7時間でラオカイへ。更にバスで2時間かけてサパーへ到着。

この旅4泊5日の総費用63\$ (7,875円) 外国人旅行者の値段。ベトナム人はサパーへ旅行など決してしないとのこと。

このトレッキングの同行者はドイツのハノーバ在住のHご夫妻(共に47歳)。最初から馬が

合うと言うのか、お互いに気さくに話すことが出来た。サパーは高原の街。小さい街ながら大きな市（場）が立つことから、観光客も多く、結構活気に溢れている。ヨーロッパ風の建物が多く、夕暮れの街並みは特に美しい。宿泊施設も多く、レストランあり、カメラ屋あり、旅行者は何不自由なく暮らせるようになっている。

到着の翌日は、足馴らし方々、街の市場を見に行った。新鮮な野菜や果物と共に、市場で大変な物を見てしまった。噂には聞いていたが犬の肉が売られていた。しかも毛を筆られただけの丸ごとで…。食習慣なのだから…。とか鳥・豚・牛は良くて何故犬は駄目か？と自分の気持ちを整理して見るが、家で飼っているペットの哀願するような顔を連想して気持ちが沈んでしまう。これが旅をする良さだ！習慣や規則が違うから面白いのだ！と思っでは見るが、切ない気持ちが晴れる事はなかった。

翌日から本格的なトレッキング三昧が始まる。モン族の住むカットカット村に始まり、サパーの山岳地帯を歩き、ラオチャイ、ターバン、ギングチャタイ等小さな村々を回ってみた。雄大な山々の蔭にひっそりと暮らす村人の生活は豊かとは言いがたいが、見渡す限りの棚田（ライス・テラス）・畑・畜産と言った生活手段を持っているので、タイのメーホーソンで見たパダウン族（首長族）の「見世物的な生活」を見たときのような物悲しさはない。素足でお尻丸出しの元気な子供。家畜の豚や牛が丸々しているのを見るとホッとす。放牧なので道端や田んぼ、



美しいライステラス

家の周りとどこにでもいて家族の一員と言った感じがする。子豚は特に愛らしい。山道を登ったり下ったり、田んぼの畦道を歩いたり、靴を脱いで小川を渡ったりして小一時間歩くと次の集落に辿り着く。見渡す限りの山また山の全てが棚田（ライス・テラス）でのその美しさは夢の世界をさまよった感じで、とても文章では表現できない。澄んだ空気と綺麗な水は本当に美味しく感じられた。冷たくクリーンな空気です喉を痛めないかと心配したが、全くの徒労であった。当初、ドイツ人の2人は私の足の疲れを気遣ってくれたが、旅が進むにつれ私はだんだん元気になり、彼ら2人はガイドから遅れ始めた。“若い衆頑張れ！”と声援を送ったら、“私等はあなたの倍近い体重を運んでいるから仕方がない。骨の太さは貴方の倍はないから…”と負け惜しみを言っていた。このご夫婦マラリアの予防注射をしている上に、毎日予防薬も呑み塗り薬を塗ると言う念のいれよう。にもかかわらず、風呂上がりに塗り薬が取れたところを蚊に刺されたと大騒ぎをしていた。いかにもドイツ的で面白い人達であった。

この山岳部に住む人達の生活は、日本では多分、明治初期まで遡る事になると思う。どんなに空気が澄んでいて、水が綺麗でも文明の洗礼を受けた人達は、ここに3日も住めないのではないだろうか？

マルタ島エンジョイライフ二号

ゴゾ島バス紀行の続き

福岡県在住

会員 No. 128 稲庭 豁

ブルーグロット(青の洞窟)海上遊覧の続き…。僅か15分か20分、それとも30分か？ボクに取って時間の観念はフツ飛んだ。

淡暗い洞窟にボートが侵入すれば、膚に快い涼風がやんわりとボディーを包む。その爽快さ。海上の波は静まり、動から静への転換。神秘的扇を開く童の様なあやしき胸の鼓動。光の反射による海底の色彩美とその純度、透明な輝き。一端ボートが穴から出れば、エメラルドグリーンの外海の波騒ぎ。遠慮なく波しぶきがボート上のお客さんを襲う。濡れたら大事と、カメラを被って握り締める。…しばしオトギの国の誘いで、もう一寸と、物足りなさを銘銘顔に乗せ、カメラの仕上がりや如何と地上に降り立った事でした。

ウオッチ、12時25分(度々時計に眼をやったので此の表現使用)、バス乗車。マルタ島の3分の1程のゴゾ島。15分も乗れば直ぐ降りる。中央通り、ストリートに違いない。住人がフダン着で行き更う石畳道。少し歩いて小広場に出た。いきなり天を付く大聖堂にお目見得した。20段ばかりの石段の高台にデンと両軸を波状に広げて、尖塔に例の十字架。その下に等身大のキリスト像が壁に嵌め込まれ、辺りを睥睨している、のでは無くて、やんわりと慈愛のほほ笑みを投げかけている。…とボクはそう思った。階段上の両サイドに砲筒が据え置かれ、この妙な取り合わせ「大砲とキリスト」、嘗ての昔、海賊や異民族の侵略に、凄惨な戦い、と号音、と恐怖に聖者に救いを求めた島民達の敬虔な祈りを想い浮べた事だった。

ガイドの姉さんの説明はボクには不通。どう言うものか、日本と違って手引書やカタログ案内

書等一際無い、渡されもしない。ボクは持参した本をリュックサックから取り出し、説明の僅かな時間に前以て折込んだ頁を拡げてすばやく読む。此処はヴィクトリアがその町名。ラバトとも呼ばれ六千人の人口。目の前の聖堂は1693年大地震で倒壊し、1697年から1771年の74年に渡って再建されたもの。マルタ島イムティーンナの大聖堂と同じく、マルタの建築家ロレンツォ・ガファの手になるようだ。

次に歩いた先は、石の建屋がそそり立った壁の間の狭い石畳通路。人ひとりやっとの道巾。その建屋の主か外部からか、わりとめかした中年婦人達が、土産物や珍奇な食物を強引に買わせようと、口々に叫んで握った品物を手渡そうとする。ツアー客は誰一人無視、ボディーを曲げてずんずん先へ行く。

パッと展望が開けた。メインである大城塞、チタデルの登場だ。巾1,5米程の城壁の上を一列縦隊に登って行く。頂点に近付けば急に動きが止った。360度の俯瞰図パノラマ。渺茫たる海原。白い船がゴマ粒程にポツンポツンと。焼け立つ様な陽差しは、湧き立つ風によって中和され、「オウ！ワンダフル！」の声が其処彼処で連発される。同時に、銘々先を争う様に、シャッターをてんでの方向で切り始める。如何にも島景色らしい黄土色の拓野の丘。石の群落。一方、眼を転ずれば谷間に斑模様のグリーンの群生。それを森と見るには余りも貧しい。

海辺りに石の積木細工と見紛う建屋の集合体。立っている側の外壁の傍、盛り上がった土壌に枯草の叢が続き、この叢中に点々と名も知らぬ赤い花片が興を沿えている。戦歴に明け暮れたであろうその歴史の重さを、可憐の花は語りかけて呉れる。シャッターに気を取られ、ボクは不覚にも時間の取り過ぎに気付いたが、その時にはもう遅かった。付近に誰も居無い。

すわ大変とカメラ片手に城壁を韋駄天に駆け登り駆け降りた。はぐれ鳥になれば天下の一大事。心臓が早鐘を打つ。観賞の欲望は一挙にフツ飛んだ。無機質で色彩のとぼしい黄土色の廃墟、大城塞チタデル。

雄大であるだけに、もっとボクは詳細に見物し

たかったが、時間は僅か30分。トラブルに身を
やつし、パックツアーの物足り無さをつくづく
嘔み締めた事だった。城を降り立った一寸先に
小広場が在り、沢山の人がたむろしていた。
其処はホロを被った出店が軒を連ね、生活用品、
衣料、生鮮食品が並んでいる。ゴゾ島唯一の土
曜市に違いない。場所が場所だけに、ガイド嬢
は人集めに苦勞している。まるで修学旅行の教
師の様。セールに飛び込むオバチャン宜しく、
ツーリスト達は人込み掻き分け突き進む。
それでも何とか誘導して、道路のサイドに寄せ
た50メートル先の駐車バスに全員が揃ったの
は相当時間が経った後だった。

ウオッチ、13時35分。10分乗車、そして下
車。海岸を傍らに控え、ゴゾ島一番の避暑地リ
ゾートに違いない。深く入り込んだ入江の景勝
地だ。ホテルやレストランが密集し、ビーチは
狭いが岩棚や岩礁が周辺を囲み、子供連れのフ
ァミリーには恰好な遊び場だ。ボクの調べでは
シュレンディと云う所らしい。多勢の人出と海
水浴客が嬉々とたわむれている。
海岸寄りに陽除けを広げて椅子を並べて、席は
すべて満席で空気が無い。ランチの真っ最中、
そんな時間帯だった。直ぐ側の道路上では、可
憐な少女が身振り宜しく歌っている。コスチュ
ームも素晴らしい。オランダの女の子の衣装に
似て中々色彩豊かだ。小ぢやかな女の子の傍らに
大人の奏者が3人。その堂々とした演奏振りも、
寄せ集めの素人とは思えない。世話役だろう中
年のオバさんが、愛嬌たっぷり竹籠を持って見
物客の前を行き来する。
ボクはその美しい声と節回しの良さに聴きほれ
て、手近に在った椅子に腰を据え、一時の野外
ショーに美空ヒバリの神童振りを重ね合わせて、
快い感動に浸った事だった。

ウオッチ、13時10分。14時半とランチタイ
ムは充分に取ってある。海辺りの開いた椅子を
見付け、ややこしい料理は止めにしてハンバー
グに似たケーキとミルクを注文した。軽いラン
チを済ませてから、近くの岩礁を散歩する事に

した。正面の崖に柵を施した登り口が見える。
先ず其処に向った。景色を観る楽しみに、階段
状に削られた凹地を踏んで登って行く。台上は
剪立った崖。下の入江の水は、薄気味悪い程の
エメラルドの深いグリーン。陽差しは強烈、見
晴らす海洋は渺茫と広。空は雲一つ無い蒼空。
大海原の果てにミクロン程の船一艘、思わず両
手を広げ深呼吸する。景色を充分堪能したので
戻る事にする。岩棚を一步一步跨いで、溝の隙
間や岩窪に、珍魚や海藻類は見当たらないかと
眼を皿にして搜したが、結果はゼロだった。
狭い砂浜にベンチを置いたレストランの小道を
進んで、西側の逍遥に時間を潰す事に決めた。
やはり黄土色の岩張りの台上だ。正面の丘上の
景色も良かったが、こちらの方は較べられない
程のロケーションだ。海にストーンと直角に削ら
れて切り立った崖は7、8米は有ろう。
下を見下ろすには勇気が居る。恐る恐る近付い
て腹這いで観察した。大地を真二つに両断した
底の隘路に、奔流が怒涛の勢いで流れている。
大自然の凄い営み、海水の浸蝕作用の膨大な力。
何千年もかかって造り上げた自然の芸術。ボク
はしばしの感嘆に陶醉した。

入江の頃合いの場所に人工を加え、プールに
見立てた海水浴場が在る。ハイスクールの男女
らしい5人連れがはしゃぎながら飛び込みを繰
返している。褐色の膚は水をはじき、健康な躍
動美を遺憾なく発揮している様を見ていると、
ボクも仲間に入って泳ぎたくなる。
女性の方は、ビキニに包まれた豊満な肉体をさ
らけ出し、全く天衣無縫だ。女体の魅力と大自
然の魅力、果たしてどちらに軍配をあげるだろ
うか？ボクは不埒なそんな事を考えた。

ウオッチ、14時20分。集合時間が近付いた。
バスに戻る。しばし待たされて、50分に発車し
た。またも15分で下車。歩いてゆるい傾斜の坂
を下れば、道の両サイドはサボテンの連なり、
赤い実をこんもりと付けている。ボクは興味に
かられ、人の行き過ぎを見越して、それをもぎ
とって見た。途端にトゲの総攻撃、悪さの報復
で、そのトゲ抜きは帰る迄続いた事だった。

赤茶けた乾き切った歩道をしばらく歩かせられ丘の上に出た。巨石が累々と積み重ねられ横たわっている。

「ウェア、イズデス？ ウオット、ドウユウネイムイズ、ヘヤー？」恥をかき捨てとばかりに、ガイド嬢に近付いてジャパン英語を並べてみた。一寸、面食らった彼女はバックからマットを取り出し、広げて見せ指で差す。文字を辿って、「シヤラ」か？と問えばどうも違う。「シヤイラ」とピシャッと決めつけた。

(ははん此処がシヤイラと云うとこか) と、ボクは会話が通じた事が天に登る様に嬉しかった。其処では判らなかつたが、帰って本で調べてジイガンティエヤの神殿遺跡だったのか、と一人納得したものだった。紀元前三千六百年頃のもの。人の2, 3倍も有ろうかと思われる其処だけ人工を加えた直体の門石が、両サイドに直立して人口を形成している。鳥居の如く横に据えた巨大な岩も有るが、ほとんどは山から掘り出した原石の俣で、荒削りな物体である。

途方も無い程の数の岩石が佇立し、威容と云うよりも異様な雰囲気をかもし出している。数もさる事ながら、何十屯もする様なこんな巨大な岩を、何処からどんな方法でこんな高い台地に運んで来たものか？

其の偉力と高度な技術。エジプトのスフィンクスやピラミッドの高度な文明と裏腹に、此んな小さな孤島、島国ゴゾに、期くや歴史の遺産を築き上げた古代人のたゆまざる努力と智慧に、恐懼感激頭の下る思いであった。

ツーリスト達はガイド嬢の説明に耳を傾け、夫々の想像に浸っていたが、ボクは一人離れ、巨石を一つ一つ手に触り、遠い昔に想いを馳せ、原人の凄さをつくづく味わって行った事だった。

丘を降ってバスに乗る。ウオッチ、15時37分。17分でゴゾの玄関、乗船地、イムジャール港に到着した。行きの船の乗込みと待機は大分時間を取ったが、帰りは順調、何等トラブル無く、順次チケットを渡してカーフェリーに乗船した。旅は終わった。後は船が連れて行く。一人旅のつつが無さに感謝し、興奮に火照ったボディを船室の席に埋めた。

風に当たろうとデッキに出る。地中海の酷しい太陽の直射、絵具を溶かし込んだ様な、すこぶる付きのエメラルドグリーンの海の色、蒼い空。スクリュウの奔放が海面を裁断して、長い白い帯を続ける。望郷の思いが頭をかすめる。怒りっぽいホームステイのママさんの頭が浮かぶ。(今晚のデナーは何じゃろか?)ボクは直ぐそんな現実に返る。

凡そ三十分でマルタの埠頭、チュルクウアに着いた。広場にチャーターバスや赤いミニバスが幾台も待っている。さて、何れに乗るやら皆目判らない。ボクのツーリストのメンバーは揃って下船した訳では無い。各国ばらばらだ。安心が一気に不安となった。これで二度目の心痛だ。泣きたい思いとはそんな状況を差す。

一台一台バスの窓を覗き込んで、ボクのグループは何処に有りやと探し廻る。その不審な態度に一早く朝のドライバーが気が付いた。

ボクは相手の顔を良く覚えていない。髭面とジャパンが効を奏したのだろう。「ゲット、トウ」と腕を引いて呉れた。日は暮れて路頭に迷う老鬮けた小羊。心細い老人の一人旅、又も神はボクを見捨て無かつた。

最後の乗客ボクは3, 4回振子の様に頭を下げて、恐縮の身をちぢ込めて赤いミニバスに乗り込んだ。以外に皆さん「グッド」を連発して、非難の様子はかけらも無い。救われた喜びが胸に充満した。

ウオッチ、17時7分、乗車。元来たコース、荒野や石まだらの丘の畠をフルスピードで後にし、40分で街中に出た。見なれたビルや海岸通りの船船の舳、外灯の薄ぼんやりの輝き、行きかうカーの繁雑さ、人の往来。スリーマの出發地点が近付いたのだ。乗客は次々と合図を送って、止るバスから降りて行った。

ウオッチ、17時52分。18時帰宅に未だ間がある。あれ程火照った陽差しも夕闇と共に消え失せ、海風が快よくほほをよぎった。

ぶら下がった人參を追い

かけた80才の牝馬

東京都在住 会員 No. 428 岩瀬光子

【姉と二人でオーストラリアへ飛ぶ】

話は少し遡りますが、多くの皆様は、1999年から2000年にかけての「コンピューター-2000年問題:Y2K」をご記憶のことと思います。“アナログ人間”を自認し、むしろそれを妙な“誇り”にしていた自分が、何故180度転換してしまったのか？先ずその辺の事情からお話し申し上げます。

皆様ご存知のごとく、日本では、当時私達は“Y2K”に関しての情報は十分とは言えず、解っていることは、日本は先進諸外国に較べて、コンピューターの重要な“システムの修正”に、遅れをとっていたという事で、“年末から正月にかけて若し電気などが止ったら、寒さに弱い老人達は瞬く間に肺炎となり、アチコチで葬式だらけ”という構図が浮かんだものです。

その頃、私の若き友人、TY氏（在米のジャーナリスト）が、度々ファクスでアメリカでのY2K問題についての対応状況をしらせてくれました。例えば「アメリカでは既に1995年頃より、先ず金融関係から“修正”に着手している。その後96年には徐々に拡がりはじめ、97年2月には連邦政府は68億ドル以上もかけて、各省庁にY2Kに関する全機関の調査を命じている。更に98年2月にクリントン大統領は“2000年転換委員会”をつくり、インターネットでドンドン情報公開し、この問題に積極的に取り組んでいる。また企業同志が互いに助け合うための“情報公開法”、という法律まで作った。日本の小淵内閣は、まだ半分眠っているけれど・・・」とか、「アメリカでY2Kに備えて売れているものは、貯水用の50リットル入りバケツ、各種乾電池、

水、灯油、ガソリンや自家用発電機などなど。」

姉(当会会員—小川政子)と私はY2Kの話をする度に心細くなり、“この年末から春にかけて、暖かいところに避難したいわね。何処がいいか探しましょうよ。”などと本気になりかけた頃、メルボルン近郊のまち、Williamstownにいる姉の三男の小川雅人が、99年のクリスマスの翌日結婚式を挙げることになり、私達が式に参列するための航空券を送ってくれました。私達は“なんというタイミングの良さ！”と彼に感謝し、夏のオーストラリアに三ヶ月滞在する事になったのです。私達は甥の新婚生活を邪魔しないように、余分な世話をかけないようにと、彼等の家から離れた所に居を構え、なるべく彼等の世話を受けないように暮らそうよ、と決めたのです。

【6歳児とパソコン】

1980年創立の“日本スリランカ友の会”で、よく会の仕事を手伝って下さった伸子さんは上智大学を出てから1年間会社勤めをした後、インドはガンジス河の上流で、午前中は世界中から集まったヨガ信奉者達と集中講義をうけ、午後は大きく流れる河沿いの岩の上で、カレーが一食分入る鉄製の盆だけを横に置き、行者や受講者達とひたすら修行に専念する、という生活を半年間続けてきた方です。彼女は一見弱そうに見える“大和撫子”、でも弱そうに見えるだけ中身は強く、人を引き付ける何かを持っている不思議なお嬢さんでした。伸子さんはその後縁あって、スリランカ人のコンピューター技師と結婚し、メルボルンに移住しました。

私は十数年前、伸子さんのご招待で、メルボルン近郊KEWに住む彼等の小綺麗なアパートに、3週間泊まらせて戴いた事があります。彼女のご主人、コリータさんは、コンピューター関係の責任者として、大手生命保険会社にお勤めでした。私は或る日、所用のためMelbourne中心部にある彼の事務所へ行ったことがあります。

コリータさんは大きいマネージャー室に一人いて、秘書と数名の白人技師達を使って仕事をしていました。彼は有色人種で背も高い方ではないけれど、白人社会にあって実力を認められたのでしょうか、彼等の指導者になっていました。日本はオーストラリアを見習い、人種差別などせずもう少し謙虚になれないものかしら？との時思いました。

その後、彼等はエリカという女の子に恵まれ、私が99年12月にエリカに逢った時、彼女はもう6歳になっていました。

年は明けて2000年の1月半ば、私は伸子さんのお招きお受け、数年前に買ったというRingwoodにある美しいお宅にお邪魔した時のことです。食堂で、久しぶりの伸子さんと夢中で積る話をしていたときの事でした。エリカは淋しくなったのか、小さな手で私の手をひっぱり、“エリカの部屋”に私を連れ込みました。

と、そこには最新式のPCとその周辺機器が、ズラリ並んでいるではないですか！彼女は小さい“デジカメ”を手にして、突然私をパチリ。コチョコチョと作業していたのを感じて眺めていたら、ナント、瞬く間に画面一杯の“私の変な笑い顔”が写しだされてギョギョ！！そこで私は大いに驚き、ただ彼女の手元を呆れて見ている間に“変な笑い顔”の写真が出来上がったのです。

エリカちゃんのお蔭で“時の流れ”をマザマザと実感、そして“これから社会と何らかの連携を保ってゆきたいのなら、このまま眠ってはおれぬワイ！”と、思わず小鼻を膨らませて椅子から立ち上がりました。

たった6歳児なのに、よくぞこれだけの仕事を、淀みも無くスイスイと成し遂げたエリカは凄い！偉い！と私は、ただ大きく溜息をしながらひたすら感心するばかり。そしてこの感動が、私の“誇り高きアナログ人間”からの“卒業”、となったのです。

純粋培養された同種の親からの子供よりも、混血児は優秀である、また、混血児はハーフではなくダブルである、なぜなら、両親から二つの違う良いものを貰っているから、とよく耳にします。エリカはととても利口だけど、6歳児だからこそ、手順も素早く覚えられるのでしょうか。そして父親のコリータさんの影響も大きいとは思いますが、然し、それにしてもです、ここで私は改めて新時代の息吹を現実の問題として、強く強く実感しました。彼女に触発されなければ、私は海外旅行も以前の様に、スイスイと行けなくなった老体をぼやきながら、ショボツイタ眼で本を読み、聴力の落ちた耳で遠慮しながら少しボリュームを上げて音楽を聴いたり・・・の俚ならぬ生活を続けていたことでしょう。

でも今は違います。目の前に人参がぶら下がってあれば、私の様な駄馬でもスピードは遅くとも走りますよ。

エリカちゃんに触発されたのは良いけれど、パソコンは、大根や南瓜を買うのとは訳がちがいます。お勤めしていればボーナスで、という手もあるけれど、私は年金生活者。それにパソコンを買ったとしても2Kのアパートでは、それを置く一畳分のスペースすらありません。時間をかけて、先ずは身辺整理からはじめなくちゃ・・・ということになります。現実には厳しいけれど、このチャレンジ精神だけは枯らすことなく持ち続け、環境が整備した時には、必ず実行しよう、私の人生にも一つの世界が広がり、これからがまた面白くなりそう・・・との期待を込めて、心の奥深く誓ったのです。それは、あと二ヶ月で「77歳の春」を迎えようとしている時でした。

{メルボルン近郊都市 Williamstown に滞在三ヶ月}

この町はメルボルンから電車で30分ほどの所にあり、海沿いの落ち着いた町です。私達の宿は、英語が抜群の甥のお嫁さんが手配してくれました。3ヶ月で五回転居しましたが、それ

等はどれも一つの組織に入っており、そこでコントロールされていた様です。ですから1泊だけで翌日は転居、という事もありましたが、だいたい2週間ずつ、最後の家には約一ヵ月半住むことができました。家賃は均一料金で一週間光熱費込みで500オーストラリアドル(当時一ドル76円)。暖房、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機、寝具類から台所用品一切、コーヒー、紅茶、調味料一式、テレビなど日常生活に必要な設備は揃っていました。外国には皆様ご存知の如く、この種の施設(コンドミニアムや貸家、又はBアンドB)が整っていて、スーツケースひとつの旅人にとっては“親切なシステム”、といつも感心しています。それから、食料品の安さは驚くばかり!少し仲良しになったパン屋のおじさんに“2000年7月から消費税がかかるようになるよ”といわれ、“オヤ、それは大変ね。”と同情したら“いや、暮らす分には大した事はないよ。肉や野菜とかメリケン粉や米といった原材料は無税らしいからね”とノンビリムードでした。今までの政府の実績が住民の言葉でわかりました。

【オーストラリアとカナダは福祉先進国】

バンクーバーでも、同じく食料の原材料には税金はついていませんでした。私の“50年来の親友”カニー(中国系カナダ人)のご主人シリル(ポルトガル系カナダ人)から、ある日バンクーバーのあるBritish Columbia州での“年金生活者の生活実態”、について話をうかがった事があります。彼の話によると、「宝石類とか高級自動車等にかかる税金はずっと高額になるけど、年金生活者は普通の生活をするだけなら、主な食物は無税だし、医療の面で心配することもなく、老人に対してのサービスもいろいろあるので、カナダの老人達は安心して暮らせて幸せだとおもう。私達がホンコンから移住する時、娘のいるアメリカにしようか、カナダにしようかと迷ったけど、カナダを選んだのは正解だった。カナダ政府は日本政府にくらべると貧乏で、国連への拠出金は少ないけれど、政府が貧乏な

分だけ国民は豊かなのですよ」とおっしゃったのを思い出しました。なお、彼は現在85歳。この2年来心臓がわるくて寝たきりですが、州政府としては一家に二人の病人を出さぬ為のシステムが出来ており、(看護者保護のため)、一ヶ月104時間介護士かヘルパーが派遣され、看護婦は週に一回来るそうです。先日カニーに電話した時、“今夜はヘレンの家でマージャンするので、今丁度でかけるとこだったの。今夜は10時から朝の8時まで介護士がいてくれるので、一ヶ月振りの遊びよ。明日の朝は8時から12時までにはマリアンが来てくれるので、ゆっくり出来るわ。ストレスはぜんぜんたまらないから心配しないでね”と言っていました。このマリアンさんは近所の仲良しの奥さんで、一時間10ドル(1カナダドルは80円位)で時に応じてヘルプしてくれるそうです。お互いが利口だと、この様な関係がうまれるのでしょうか。

私達の周りには、病人よりも看護人の方が先に参ってしまうケースよくあります。せめてカナダの半分位でも行政のシステムを“庶民に親切”、へ切り変えてくれれば、日本からの難民?も少しは減るのではないかしら・・・と、電話を切ってから、一人で「ゴマメの歯ぎしり」をしました。

私達のいたWilliamstownに、珍しく日本人がおりました。彼女の名前は歌子さん。ご主人はドイツ系オーストラリア人で35年この土地に住んでおり、二人の息子さんはそれぞれに独立。今は花鳥風月を楽しむご身分となりました。ところが一年まえ、彼女は肺炎となり、生まれて初めて3週間入院したそうです。彼女は病院での経験を次のように話してくれました。“入院中は清潔で綺麗なホテルに泊まっていたみたいで、スゴク楽しかった!また入院したいわ。ホントヨ。この国では、赤ちゃんから老人まで一人ひとりにMEDICARE-CARDが渡されて、そのカードがあれば医療費は無料。助かるわ。”と。

【農業、殺虫剤や添加物などの規制が厳しいオ

ーオーストラリア}

オーストラリアは移民国。土地は広大で地下資源は豊富、農業も牧畜も盛ん。ですから特殊な物を除けば十分自給自足できる大変に恵まれた国です。これは5,6年前の話です。ブリスベーンの友人から、次のような話を聞いた事を思い出しました。

「この国の行政は、一番の基本を“国民の健康維持”に置いている。従って輸入食品への規制は驚くほど厳しい。多くの食品添加物が入っている物を、大切な国民には食べさせられない、との明確なポリシーを堅持。当然、自国に対しても農薬、殺虫剤や各種添加物への規制も大変厳しいので、外観は悪くても安心して何でも食べられる私達は、とても幸せよ！」と。

三ヶ月近くのメルボルン滞在を終えた2000年三月、私達は帰国の途中、初秋のシドニーに立ち寄りました。私達の泊まったホテルは歓楽街キングスクロス（六本木と歌舞伎町を混ぜ合わせたみたいな街）にあり、われわれ老女二人は、昼間のキングスクロスを大いに楽しんだものです。たとえば、イタリア移民のピザパリの店に入った途端、“hello, beautiful ladies!”と言われ、思わずのぞけて辺りを見回せば、客はだれもいない。それで気をよくした私達は、昼食代わりに一切れ50セント(38円)のパイを二つ買い、ニコニコしながらホテルに持ち帰り、パクパクと美味しくいただきました。老女の“仕合わせ”ナンテこんなもの・・・の様です。

このホテルの地下にコールズという大きいスーパーがあります。ここの野菜売り場でキャベツ・・・それは表側の大きな葉が一杯ついたままで、今畑から切り取ったばかりのをドサドサと無造作においた・・・という感じのシロモノでした。その中で私は一匹の大きな青虫を見つけました。余りに立派なのでこれは事によると、プラスチック製の“安全印”のモデルでは

ないか？と疑い、顔を近づけました。と、そのとき、ニョロッと動いたのです。モデルのような青虫に私が見惚れている間、買い物客はドンドン買い物を済ませ、スタスタと歩いています。この青虫が若し日本のスーパーで見つかったら、どうなるでしょうか？こちらの客は変に驚いている私を見ても、青虫には頓着しない・・・何かこの国と、日本の行政の違いを、一匹の虫が私に教えてくれた様に思えました」。

{いよいよパソコン入手のチャンスがやってきた!}

長年私が住んでいた住宅公社アパートが立て替えとになり、転居する事になりました。私は昨年暮れ、幸い都営アパートに転居出来、広くなったお蔭でパソコン入手に必要な“スペース”というバリアは解決しました。転居までに、時間的余裕があったので、区で募集していた“中高年向けパソコン教室”に応募し、パソコンというシロモノに触る事になりました。それは2001年7月下旬で毎日ジリジリの日差しを受け、クラクラしながら通い続けて五日間、15時間の授業を目出度く(?)修了しました。

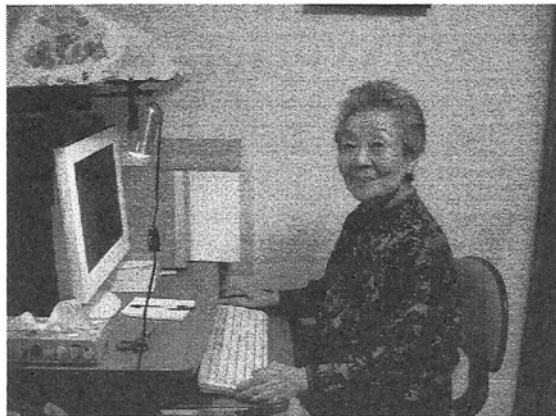
転居する前、当会理事の宮崎哲郎氏にお電話申し上げた事があります。その折、話題がパソコンの話となり、いろいろとご相談申し上げた所、“いい人を紹介しましょうか？パソコンの事なら何でもやってくれますよ”と助け舟を出して下さいました。“私が世話になったSKさんに頼みましょう。彼の家はあなたの引越先に近いので、引き受けてくれると思います。彼は身障者や老人のパソコンの面倒も積極的に引き受けているきっぷのいい人ですから。”との事で、私は早速お願いしました。

宮崎氏から紹介いただいたSK先生はキビキビとした明るい青年で、彼は私の転居先へ、引っ越し前に機械の搬入、設定や手続き等のすべてをして下さいました。引越し疲れのため病氣ばかりしていた私でしたが、その間、SK先生

は時々来宅され、少しずつ教えて下さいました。老人の記憶力は若者に較べれば当然劣化しています。でも何度も同じ事を質問する私を、先生は辛抱強く教え続けてくれました。このような良いコーチを紹介して下さいました宮崎氏には感謝、感謝です。

{いよいよ本番：原稿の執筆開始}

「50才や60才で“今更パソコンなんて・・・”と言う方も会員の中においでの様です。その方々にとって高齢の岩瀬さんがパソコンを始めたというのは、良い刺激になると思いますので、岩瀬さんのパソコンでの”フントウぶり“を会報に書いてみませんか？これは宮崎さんのご提案です。」という電話を会報担当理事の小川護雄氏から頂きました。私の泣き笑いが少しでもお役に立てば、と浅はかにも気軽に引き受けてしまいました。当時はまだワードの何たるかも、原稿の保存方法すらも知らない頃だったのです。



パソコンを操る筆者

まず原稿のサイズの立ち上げは小川氏からの電話でのご指示で出来上がり。次はパソコンと一緒に撮った写真200万画素のものをパソコンで送るように・・・といわれてもチンプンカンプン！いよいよキーボードにむかって叩いては消し、叩いては消す作業をはじめて4時間後、ヤット原稿用紙2枚仕上がりました。“原稿なのだから当然自動的に保管される筈”と思い込み、画面を閉じて夕食の準備にとりかかったのです。

翌日画面を開けた所、そこは空っぽ！でした。私は保存方法を知らなかったのです。“あの悪

戦苦闘の4時間は一体・・・？”と私は悲嘆にくれ、アメリカから帰国中の友人、ジャーナリストのTY氏に電話をして訴えました。彼はジーンと聞いてくれましたが一言、「岩瀬さん、パソコン教室でワードを勉強したらどうですか？」と。

TY氏のアドバイスを私は「天の声」と受けとめ、早速近所の学校に入学手続きをしました。ワードの基礎コースは週一回2時間、4週間で修了です。6月一杯若い人たちと肩を並べての授業は、久しぶりの快い緊張感があり、とても良い刺激を受け、サアヤろう！やるのだ！やらねばならぬ！の態勢と相成ったのです。

パソコンのパの字も知らない自分が、SK先生のお蔭でEメールの発信ができ、インターネットを楽しめるようになり、いまはワードの基礎も覚えました。巨大なITの世界から見れば、生まれたてのヒヨコの私ですが、少しずつでも大きくなって保育園に入りたい、との希望に今燃えている所です。

{パソコンのウイルスが侵入！}

4月のある夜、メールを打っていた時のことでした。突然、画面全体が血の色となり、中央には大きい白い字で「あなたのコンピューターはW32KLEZ.Hのウイルスにかかりました」と出たのです。ギョッとした私は為す術もなく、“明日コーチに電話して指示を仰ごう。此の俵にして置いても、まさか爆発はしないでしょうからネ。”などと自分に言い聞かせて、パソコンはオンにしたままその夜は寝ました。内心穏やかではなかったけど・・・。

次の侵入は6月はじめでした。この日パソコンをオンにして、受信メールをチェックした時、突然画面に大きな枠が現れ、赤い太い帯には「警告！」とあり、「あなたの受信した“エデンの園”はウイルスに感染しています。指示通りにクリックして下さい。」と書いてあったので、その通りにクリックしてから受信メールを開きましたら、ナ、ナント、同じメッセージが3通も並

んでいるのです。こうなっては私の手には負えません。亦コーチにご足労を、とすることになりました。

{終わりに私の老婆心から一言・・・}

人間は(生き物は)加齢と共に眼はかすみ、耳は遠くなり脚も弱くなる。そして社会との関係も薄らぎ、孤独に陥りやすくなりがちです。そこでパソコンの出番となります。私はインターネットで各社の新聞が読めるようになってから、新聞の購読を止めました。新聞紙と重たい折込み広告のゴミ処理は、老人にとってまさに難行苦行の大仕事です。それに新聞の字は小さくて読み難い。長い間読んでいると涙が出て頭が痛くなってくるのです。パソコンは字を大きくすれば、新聞読むのが申し訳ない位楽になります。隅々まで隈なく読めて興味はつきません。また、一つの記事も新聞社によっては取り扱いが異なったりして、その違いを見るのもこれまた興味有り、です。パソコンのお蔭で自分の世界がもう一つ増えました。

以前は想像もできなかった事ですが、典型的アナログ人間の自分が、何時の間にかこの様に変ってしまいました。先日覗いた「南国暮らしの会」のホームページは凄、凄！宝がビッシリです。この原稿を小川護雄氏に送ったあと、ゆっくりホームページに入りこみ、散歩しながら宝物探しをする事に致します。

当会会員の中で、今までの私のようなアナログさんがおられましたら、チョットダケ奮い立ってお仲間になりませんか？ご一緒に洋々たる未来を覗きましょうよ。その時にヒョットすると、私の“泣き笑い”が少しお役に立つかもしれません。

おわり

メーリングリスト・ミニ情報

体調不良では以下の単語は必要でした

下痢: diarrhea 下痢止め: antidiarrheal
下痢を繰り返す: have recurrent attacks of diarrhea 便秘: constipation 便秘してる: be constipated 吐き気: nausea 吐く: vomit
便: stool 便通: bowel movements
(大野)

メーリングリスト・ミニ情報

ペナンの石原です。(495番)マレーシアの銀行金利ですが、現在3.5-4%程度です。定期預金の預け期間によって金利が変わります。現時点は1年物が金利が一番良く、それより短くても、長くても金利は低くなります。また、現在の金利は歴史的に最も低い方でして、4-5年前には9%を越えた時期もありました。私は、10年以上此方に住み、事業もして来ましたが、今まで銀行の倒産はありません。銀行の再編成はやはり此方でも進められています。マレーシアの強みの一つは政府が権限を掌握していて必要な政策がタイミング良く、効率的に出せる点だと思います。

N018の木村です

ペナン島の銀行の定期預金金利は3%から4%です。一年ものが利率が一番良くて、4%です。それ以内の期間も以上も利率は悪くなります。一定以上の額になると、銀行によってはスペシャル金利として4.1%にする所もあります。信頼度は聞くところによると、政府が銀行統合などを進めて潰さない方針と言われます。

私は預金はペナン島のマレーシア人の友人の多くが預金しているところ(彼等は銀行の安定度に研究熱心)を利用しています。

おっしゃるとおり、オーストラリアの銀行の定期預金金利は現在一年ものは5%です。スペシャル金利は5.3%です。オーストラリア人は投資にも熱心で銀行預金にあわせて投資信託なども利用して、利回りを良く資金運用しているようです。

クアラルンプールのSUEです。

私の場合は、RHB BANKの「My1」口座です。手元の資料によると2002年4月16日から有効の金利で

残高 RM2万まで(約64万円)・・・2.75%
5万まで(約160万円)・・・2.85%
10万まで(約320万円)・・・2.90%
50万まで・・・・・・・・・・3.0%
50万以上・・・・・・・・・・3.15%

注 但し最初のRM2000には金利はつきません。

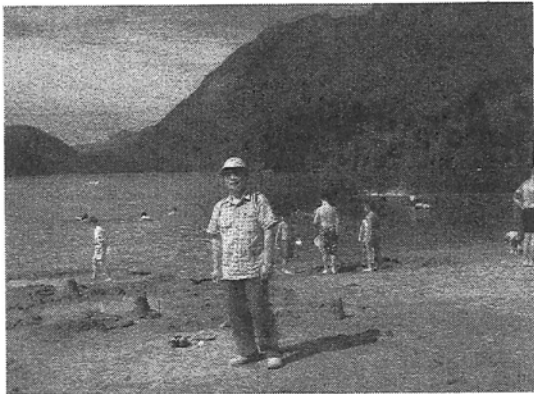
VANCOUVER滞在記

会員No.117 龍野 宏

今年の夏は日本の暑さを避けて涼しい所で過ごしたいと思い、予てよりの候補地であるVancouverに長期滞在することにした。

Vancouverは6年前妻と1週間滞在したことがあるが、今回は私一人で2~3ヶ月じっくりと滞在し、出来ればその間いろいろ体験したいと思っていた。

7月1日成田を出発したが航空券はH.I.S.で購入したAIR CANADAの3ヶ月OPENで159,000円だった。



筆者(近くの湖にて)

ホームステイ

先ず今回の滞在は長期になるのでホームステイをすることにした。私は「ワールドステイクラブ」にも所属しているので、会員でVictoriaに住んでいる方にホームステイ先を探して貰うことにした。

ホストファミリーは日本人のご夫妻で2年前に移住してきたばかりの人だ。ホームステイ費用は1ヶ月C\$700(約63,000円)で3食付きだが土、日は朝食のみとなる。私が宿泊した部屋は12畳位の広さで専用のバス、トイレ、クローゼットが付いていた。

私の他にワーキングホリデーで来ている若い日本の女性が宿泊していた。

Coquitlamという町

ホームステイ先はVancouverの市内より東に30kmにあるCoquitlamという町で人口11

万人の静かな町だ。森と湖があり環境は抜群だが市内より高い位置にあり、朝はかなり冷え込む。日中でも日が出ないと涼しいくらいだ。尤もカナダ人はそれでもTシャツと短パンで平気だ。私が滞在した間で暑いと感じたのはほんの数日間であった。

ここは中国人が圧倒的に多い町だ。商店でも中国語の看板が目につき中国系のスーパーマーケット、銀行もあり中国語が堂々とまかり通っている。日本人は少数で400所帯程度が住んでいるに過ぎず、日本人に出会ったことは無かった。

ここでも日本レストランは人気なようでありここに「JAPANESE RESTAURANT」や「SUSHI BAR」の看板が目につく。尤も経営者は中国人や韓国人が多く、日本人の従業員は殆ど見かけなかった。

パソコン

今回ノート型パソコンを持参したので早速接続してみた。部屋に電話のコンセントがあったので助かった。カナダの電源コンセントと電話のコンセントは日本と同じで全く問題ない。電圧は110Vなのでそのままでも使えるが、変圧器を使用したほうが無難だろう。私はNIFTYを使っているので、NIFTYのローミングサービスを利用して接続する事にした。

アクセスポイントがVancouverに有るので電話代は基本料のみで済む。ただしNIFTYには別途1分10円の料金が掛かる。

日本で接続テストをして来たので問題なく繋がったが、ローミングサービスを利用する場合は必ず日本で接続テストをする事をお勧めする。

帰国時パソコンを手荷物で機内に持ち込もうとしたところ、X線検査で引っかかりここでパソコンを起動できるかと聞かれた。今回バッテリーは持参せず且つACコードは預けた荷物の中にあるので、ここでは起動できないと説明した。しかし認めて貰えずパソコンも預けて呉れと言われ、再度チェックインカウンターに行き手続きをして事なきを得た。なお成田出国→カナダ入国時は全く問題なか

った。

市バス

CoquitlamからVancouverのダウンタウンに行くには市バスで50分は掛かる。

料金は平日はC\$4.00 (360円)だが土曜日、日曜日はC\$2.00 (180円)となる。

65歳以上はシニア割引になり平日はC\$3.00 (270円)、土曜日、日曜日はC\$1.50 (135円)になる。乗るときは前から乗り料金を入れるが、お釣りは出ないので常に小銭のコインを用意する必要がある。料金を入れると運転手がTRANSFER TICKETを呉れるのでそのTICKETで乗車した時から90分以内なら他の路線のバスにも乗ることが出来る。降りる時は車内にある紐を引っ張って運転手に知らせるが、車内アナウンスが無いので注意が必要だ。尤も降りたい場所を運転手に知らせておけば、近くに来たら運転手が教えてくれる。車内にいろいろ規則が書いてあるが違反者には最高でC\$500.00 (45,000円)の罰金が科せられる。

アクティビティ

今回長期に滞在するのでいろいろ体験出来ればと思いついてきた。近くにコミュニティーセンターが有るが、夏休みなのか期待した程の物は無かった。英語クラスがあるが移民や難民を対象としており期間も1年間で内容もかなり厳しいとのことであった。

手軽に遊べるのは室内プールだ。料金はC\$4.75 (430円)でジャグジー、サウナ、波の出るプールがあった。プールでは横にして転がした方が早いようなビヤ樽級の人々がインストラクターに従って懸命に水中体操をしていた。近くの公園にはテニスコートがあり、何時でも無料で出来るのでワーキングホリデーで来ている女性と一緒によくテニスを楽しんだ。

宿泊状況

Vancouverのホームステイは3食付きで月C\$700 (63,000円)、貸部屋は月C\$350~\$500 (31,500円~45,000円)程度が相場だ。市内

のコンドミニアムは月C\$1,000

(9万円)程度だ。これらの情報は現地の新聞や日本人向けの情報誌で見ることが出来る。尚、Coquitlam近辺の中古住宅は土地が300坪で3BED ROOMの標準的な家で3千万~4千万円程度だ。

物 価

今回は3食付きのホームステイなので買い物もあまりしなかった。従って品物の値段も限られているが、分かった範囲でお知らせする。

先ずBC州では品物にはGST (連邦税)が7%とPST (BC州税)が7.5%と実に14.5%の税金が掛かる。ホストファミリーの方も物価は決して安くはないですよと嘆いていた。しかしながらレストランでの食事にはGST 7%のみ、基本的な食品は無税となっている。

ステーキ用サーモン	1切れ	\$3.12 (280円)
マンゴスチン	4個	\$2.79 (250円)
ビール	1本	\$2.00 (180円)
握り寿司	1個	\$1.00~\$2.00 (90円~180円)

レストランでの食事	\$20.00~\$30.00 (1,800円~2,700円)
-----------	---------------------------------

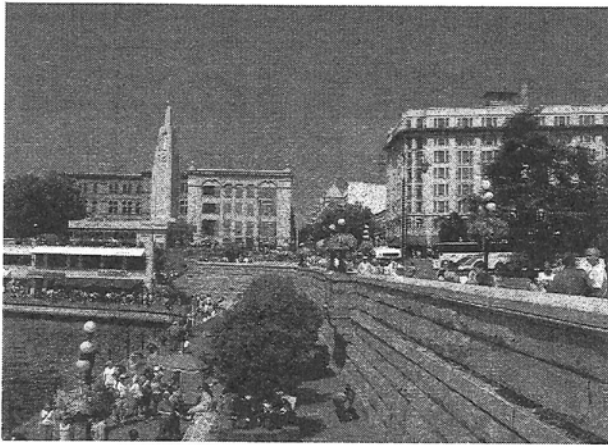
鱒	1匹	\$4.00 (360円)
ロブスター	1ポンド	\$11.88 (1,070円)
蟹	1ポンド	\$3.99 (360円)
牡蠣	1個	\$0.58 (52円)

なお参考までVancouver市民の平均年収は統計によると\$42,000 (378万円)となっている。彼らは2つや3つのアルバイトをするのは当たり前になっているとのことだ。

VICTORIA観光

7月21日から3泊4日でVictoriaに行ってきた。Victoriaに行くにはVancouverからフェリーに乗るが、Pacific Couch Linesと言うバスに乗るとVancouver市内からVictoria市内まで直通で行けるので便利だ。料金は片道\$29.50 (2,655円)。

宿はワールドステイクラブ会員でVictoriaでB&Bを営んでいるMrs.Naoの所に泊まった。



美しいVictoriaの町

1泊 \$65 (5,850円) であった。同じワールドステイクラブの会員で、ご夫妻で3ヶ月の予定で滞在されている方がいた。近くのカナダ人のお宅にホームステイしながら語学学校に通っていて、とても楽しいと話されていた。

Victoriaはとても美しくて魅力的な街で観光客で溢れていた。こじんまりした街なので殆ど歩いて観光することが出来る。パブに入りAleと言うビールを飲んだ。Lagarとは違ったタイプのビールでなかなか美味しかった。

Mrs.NaoにVictoriaの宿泊状況について聞いた。(月額)

コンドミニウム (家具付き) \$1,500 (135,000円)

貸し部屋 専用で \$600 (54,000円)
 シェアード \$350~\$400
 (31,500円~36,000円)

ホームステイ 3食付きで \$700 (63,000円)

B&B \$65.00~\$70.00
 (5,850円~6,300円)

オフシーズン (10月中旬~5月) にはキッチンが付いているホテルが\$1,500 (135,000円) になる所もあるとの事であった。

今回は2~3ヶ月生活者の視点で滞在するつもりであった。しかし特に何もする事も無く過ごしているとやはり退屈してくる。結局8月5日に帰国することになり1ヶ月と5日間滞在した事となった。長期に滞在するにはやはりそれなりの目標を持って望む事が肝要であると反省した次第である。

メーリングリスト・ミニ情報

マレーシアの退職者ビザが変更になりました。名前は「MALAYSIA MY SECOND HOME」で、従来のビザとの変更点を下記します。

シルバーヘアープログラムとの変更点

1. Finance の定期預金は1年間解約できない。あわせて毎月の収入 (日本での) が RM7,000 (または 10,000) 必要、以前はOR、現在はANDに変更になっていました。「日本の年金の支給額はこんなに無い」と係官に聞いたところ未満でもOKとの返事。
2. Insurance と Medical Report 両方必要。次ページ EXTENSION の場合と同じだと思います。
3. スポンサーについては必要無いとの情報が有ったが、現実には必要のようです。
4. 結果が判明するまでの日にちが14労働日から30労働日に変更になっています。

今回私の聞いた範囲です。実際の申請時に上記の通りであるかはわかりません。

友人達に聞いた範囲では、申請人により、担当官により色々有るようです。

マレーシアらしいということでしょう。

KL在住 末

メーリングリスト・ミニ情報

505 の榎本靖夫です。キャンピングカーでの旅行とのことですが、私共も夫婦で、5年前前2回に分けて2年間で、オーストラリア大陸を2回に分けキャンピングカーを借りて旅行しました。1回目はパースから時計回りでエクスマウス→ブルーム→ダーウィン→アリススプリング→アデレード→アルバーニ→パースで40日間、2回目はケアンズ→大陸を横断してダーウィン→アリススプリング→アデレードメルボルン→シドニー→ブリスベン→ケアンズでこれも40日ほどで、大変忙しい旅でした。

同じレンタカー会社から2人のりでトヨタのランクルでした。鈴木さんと同じく2人の間では危機的な会話もあり、今では思い出すたびに反省と、良い思い出となっています。(家内のことは分かりませんが。) さて利用した、利用したレンタカー会社は、ドイツに本社がある WWW.BRITZ.COM です。一度ホームページを開いて研究してください。機間は半周で、60日間くらいあったほうがゆっくりとした旅でお勧め出来ます。

セブ便り

セブ在住 会員 No. 27 鈴木 博

「命の次に大事なもの」海外旅行先で

海外旅行では、心浮き浮き、それに周囲には興味津々、やること見ることイッパイで細かなことに注意がちよっとおろそかに…。我が会員は海外に行く機会がこれからますます増えるでしょう。

でもこれだけは忘れないで下さい。命の次に大切なものは、お金、クレジットカードもそうですが、何と言っても「パスポート」です。日本では比較的簡単に手に入るから、そんなに重大なものと認識しづらいでしょうが、一旦日本の国境を越えると、正に海外では命の次に重大なものなんです。もし所持で何かの事故に遭遇したなら、日本人を保護する義務がある外務省ですが、その救済の手の対象外になってしまいます。助けを求める前に身元を何とか証明することが必要になりますけど何もないという事態です。無国籍者になってしまうのかもしれない。少なくとも南の会会員は国際派を自任する方から、それを目指す方たちですからこんなことは常識ですが、身近にちよっとした事例がありましたので何かの参考になればと紹介したいと思います。

「あら、パスポートどこだったかしら？」と気がついたのは、街を見物している時だった。時は金曜日。夕方、ホテルに帰って荷物をひっくり返してくまなく探してみただけどやっぱりない。たぶん、ベッドの上に毛布に紛れて放置してしまったのだろうという薄い記憶である。

そこで、ツアー会社に電話してこれこれしかじか。翌日、担当者に来てもらって、ホテルのガード責任者による調査をしてもらって、軽い調書を作る。でも、ツアー会社の担当者は浮かない顔。「今日は土曜日ですからねー。警察の担当部署も市役所ももちろん大使館も閉まっていますから、予定の飛行機には無理ですね。まあ、やるだけやってみましょう。」

でも結果は心配どおり。日曜日の便には当然間に合わない。ツアー会社の担当者はつい最近やはり同様の案件を扱ったばかりで、てきぱきでしたけど、やはり曜日には勝てない。しょうがないからこの日は帰って一時休戦。

月曜日再度同じコースをたどり、3手に別れて書類作成に奔走。どうやらその夕方に超特急で、仮のパスポートを手にすることができた。

ひとえにツアー会社のマネージャーと通訳をかってでくれた日系人会の事務所の尽力のおかげだ。言葉の通じない国では、こういった災厄には何と言っても現地の習慣やら進み方を知っている人とのつながりが大切だ。

無くさないようにするには、第一にはホテルの受け付けにあるセフティボックスに預けることです。できれば封筒に入れてフタをして、糊づけて、フタにチェックを入れておけば最高でしょう。セフティボックスが完璧かと言うとそれは言い切れませんが、責任を相手にとらせることができますから、自分で無くすよりはずっと後が楽です。それにセフティボックスに入れておいてそれでも盗まれたという事態は非常に稀なのではないかと思えます。

次に部屋にセフティボックスがあるときには一応の安心ができると思えます。しかし部屋のもとは非常に簡単な構造なのでその気になれば開けられそうなものですからちよっと心配です。次には大きめのスーツケースでしっかりした鍵付きのものでしたらその中に入れて必ず鍵をしておけば、これもスーツケースごと盗んでいくというのも考えにくいですから、手軽で安全度が高い方法だろうと思えます。

それらに反して、自分が一番信用できるとばかり、いつも持ち歩くのは最悪です。よっぽど治安が混乱している国でもないかぎり、街を見物するのにパスポートを見せろと言われることはないでしょうし、まず大抵の場合はコピーで用が足りすから、持って歩くことに必要性はないし、反対に南国ではTシャツ姿ですから、内ポケットもないですし、バックの中で他のものと混じっていつ紛失となるかわかりません。

日本人のパスポートはブラックビジネスの世界では百万の値がつくと言われますから、不用意に赤い手帳をちらつかせて犯罪者を興奮させないよう気をつけたいものです。

「日記から拾った日常」

★ 歳だからということ

いつまでも若くありたいと思うと、ついつい人に歳を言うときにサバ読んだり口を濁したりしていた。ふと思った。いつまでも自分の歳を若く見られたいという観念に捕らわれては、ほんとの自分の人生が手に入らないのではないかと。他人に自分の評価をしてもらうことに寄り掛かっていることから抜け出せないのではないかと。年齢はあくまでも目安に過ぎないのである。例えば45歳だとどうして若くて60さいだとどうして若くないのだろう。

そもそも若いってなんだろう。

★ あっちもこっちも可哀想

「その1」 日本に行っていたエンターテイナーが見初められて日本人と結婚した。でも彼氏はお坊ちゃんていわゆるだめ人間。酒を飲んで殴る、麻薬を打っては蹴るで、おとなしい彼女はじっと我慢だったけど、あるときとうとう抵抗を表した。暴力を警察に通報したのである。

そうなると彼氏の方は観光ビザで来比している身だから、イミグレーションのブラックリストに載ってしまう。もう比国に入れなくなる。

そこですったもんだの末どうやら訴えを取り下げたのだけど、日本の親が載りだしてきて、無知な彼女に弁護士を差し向けてむりやり離婚の承諾書にサインさせてしまった。そのメモにある条件は「離婚を承諾しないと養育費を渡さない。」というものだから、あきらかに矛盾している。法的に言ったらでたらめだ。そんな条件で話をつけようとする親もかなりの非倫理的だ。でも彼女には養育費が必要だから、貰えるなら承諾してしまった。

その後も前夫は足しげく幾ばくかの養育費を持って比国に通ってきて、ビザを延長して当然のように彼女の部屋に滞在していくのである。

日本の親にとってはちょうどうまい具合に妻から愛人としての立場に納めて、法的に縛られない身分を息子に得させて満足していると思うけど、彼女にとってはいつ養育費が来なくなるのかという心配にいつも追いかけてられて、心の平安を得る日はないのだろう。

つい最近、彼女が久しぶりに浮き浮きした声で電話をよこした。「日本に行きます。」と言う。複雑な状況なので初めはなんのことだか分からなかったけど、彼女の子供が日本のパスポートを持っているからその保護者として比較的易しくビザが貰えるということで、手続きの相談に領事館に行ってきたというのである。出口が見つかからないかと思っていたのに領事館も意外と日本国籍者には暖かいんだなと知りました。

数日して書類を全部そろえたけど前夫の戸籍関係書類の発行日が古く、新しいものをそろえれば受け付けると言われたのでと相談にやって来た。聞くところでは日本は今どこの役所でも戸籍関係の書類が貰えるサービスが始まったところであまりにもタイミングも良い。

それに私のところには日本からのお客さんがひっきりなしだから、お願いしてみようとなった。結果はどうなるのか未だ分からないから楽観は禁物だけど、日本国籍の者を入国拒否できないのは法治国家の日本では常識だ。

私と私のお願いを快く引き受けてくれた方との連携で、とにかく苦痛に悩んでいる比人を救おうとしたことが小さいことながらまともに歩き出して欲しいと願っている。その3歳の子供

は何も知らずに明るくて屈託がないけど、親の背負った苦勞を知るのはいつのことだろうか。

「その2」 学費を援助している子の家に遊びに行ったら、小さい子が二人いた。どうもよその子が遊びに来ているふうには見えない。孫には早すぎるしと聞いたら、訳ありの子でこの家で育てているのです、と言う。大きいほうの子は向かいの家の子で奥さんに逃げられた上に父親が夜の仕事で世話ができないのでほとんど居着いているんだそうです。小さいほうの子は、日本の男性と比人女性との子でしたが、婚姻のための渡航の手続きを申請してビザ発給を待っているうちにそれが長引いて、性急な日本人とのやり取りの中でこじれて、つつい母親は心細くなっていたんだそうです。ところがそういった心理状況のところに現われた甘言を弄する男とねんごろになって蒸発してしまったと言うのです。今では居所もわからないんだそうですからこの子の世話をする人はだれもいなくなってしまったわけです。今はその家の子供然として、あどけなく育っています。

この家だって決してゆとりがあるわけでもないのに、放って置けないからと苦しい中で赤の他人を自分の子のように面倒を見ている。

こんな境界線があいまいとした社会も居心地がいいのかもしれないけど、せめて日本人の父親が、法律とかの七面倒臭いことは抜きにしても、肉親としての気持ちから多少でも仕送りをしてくれたなら、金銭的にも無理が無くなるし、子供の気持ちの中にも父親への憎悪を減じることが出来るだろうと思うのだけれど。

この子も来年からは小学校です。今、この父親に手紙を出そうと考えています。

★「セブの地べたを歩き回る」

早起きしすぎた朝や退屈な夕べに時々、街中をペタペタと歩きまわる。歩道に店を並べている果物売りや手製のお菓子売り、新聞売りにたばこ売りや歩道が彼らの仕事場だ。オフィスから出てきた女の子がビニール袋に入れてもらって買って行く。あれこれ露店を覗いているとピサヤ語で声がかかる。客の事情などはお構いなしでこっちがもう既に他のお菓子を持っていてもこれが美味しいから買いなさいと言ってくる。咽が渴いたらヤシの実売りを探す。荷車に青いヤシの実を積んでゆっくりとそこら売り歩いている。「オサ」(1つ)と言うと良さそうなのを選んで山刀のようなナタを慣れた手つきで振り上げてストーンストーンと切り口を開けてストローを差し込んで15ペソだ。東京で物珍しくて飲んだあの奇妙な味とは、まったく別物だ。ごくごく咽が鳴っている。よそ者でなくなっ

たような気分になる。

疲れたら適当に方向だけを頼りにジブニーに乗ってみる。濃い排ガスの風だが気持ちいい。現金を持っていないとそれが外見にも見えるのかちっとも怖い目にも会わないし、ジーパンにサンダル履きで口を閉じているとちょっと見は現地人そのものですから、まず相手からはビサヤ語で話しかけられるのが落ちだ。「ワラ、マカサボット」(わからない)という、まじまじと顔を見てからニヤツとしてたどたどしい英語の単語を並べてくる。普段動き回っているときには見えなかったセブの表情が見えてくる。

★ 物売りの声

毎日、日が高くなると鐘や音楽を鳴らしてアイスクリーム屋がやって来る。早朝には道具箱を脇に抱えた靴磨き屋がやって来るが頼まれるのを見たことはない。これで収入になるのかなといつも不思議だ。たまには新聞紙集めがやってくる。それもビニールの買い物袋を持ってだから設備投資は0である。あとは花屋が頭の上に鉢植えや切り花を乗っけて来ることもある。それぞれがいい声で呼びかけていくのは日本の昔の情緒にも似ている。

★「ボランティアは自己満足だ。」の二つの意味

1. 相手から得るものを期待しない。自分で納得するものだ。これだけのことをしてやっているんだから、相応の感謝が欲しいと思うのも人の常だけれど、ものによっては息の長いものや、相手からよく理解を得られにくいものなど、相手から思ったほどの感謝がない場合や、こっちの過剰な期待のわりに反応が小さいとかといったことがよくあるから、自分の意識や期待をあまり押し付けることがないようにしないと堪えきれなくなる。

いつか結果が出ることを胸に、地道にじっと待っていないと無理。

2. 自分が思っているほど意義の大きいものではないこともある。相手に役にたっているかは、案外自分の汗には比例しないし、あまり意気込んで、自分のやっていることを過大視すると、結果の小ささに鬱を覚えることがある。

かといって自分のしていることがもしかして無意味なのかも知れないと考えることは辛いから、ある程度は自分で自分を褒めてやらなければならない。現実には、こっちが考えているほど役に立つものではない場合の方が多いかも知れない。相手の側には別の世界があって、こっちが期待するような結果にはならない。

ときには相手の側に好ましくない影響を与えることがないとも言えない。

★ 安くて助かる美味しい店

「レッドリボン」というセブにしては洒落た軽食とケーキの店がある。道路を隔てた向かいがセブでは有名なセブドクターズの病院とカレッジだから、この店の客筋も白い制服を着た若い品の良い学生たちで賑わっている。セブのレストランの料理は概して盛りがいいのだけれど、ここは上品に少なめで、おまけに味自慢のケーキがセットになっている。一般のケーキはやはり強烈な甘さだけれど、ここのはぐっと甘さ控えめである。さすが医学生の集まる店ならではの。それでいて安い！6～80ペソで軽い食事とデザートが摂れるとあつては嬉しいことである。

★ 日本食はたまにしか

日本食レストランは何でこうも高いんだろう。日本人はこんなところに来ても見えっ張りなのかも。中華レストランに行くと200ペソぐらいで余って帰りには包んでもらうようだけれど、日本食レストランだとすぐその倍にもなってしまう。

★ 日本の食料自給率を思う

野菜 Japanese Cucumber と名打って細身のキュウリが置いてある。これはきっと日本向けのものなのだろう。こんなところにも日本の食料自給率が15%という恐るべき数字が実感させられる。

★ これこそがほんとの就職難

先日新聞にセブ地域の就職状況が載った。ビサヤ大学は昨年の新卒者の就職率が52%だそう。日本でもそうですよという人もいたがここは次元が違うのである。若者たちが正規の就職を嫌ってフリーターになったり、食いぶちを繋ぐだけの稼ぎだけを得ればよしと、あまり型にはまって働きたがらない日本の若者とは違って、セブでは何でも良いから働かなくてはいけなくて決心して探しても仕事の絶対数が足りないのです。

こんな状況にあるセブの若者に「夢は何ですか。」と聞いても帰ってくるのは「できれば・・・」付きなのである。

セブ/スズキ

マレーシアのLSビザについて

(Malaysia My Second Home Program の具体的内容)

東京都町田市在住 No. 59 米田隆雄

今年初めに、マレーシア政府は、海外からマレーシアにより容易に移住乃至長期滞在ができるようにするため、従来の「シルバーヘア・プログラム」を「マレーシア・マイセカンドホーム・プログラム」に変更しました。南の会の最近の会報にもこの変更についての記事が寄稿されていましたが、では具体的にどのような変わったのか、実際にはどのような手続きをすればよいのか、今一つはつきりしませんでした。

そこで、7月に東京・渋谷にあるマレーシア大使館領事部に行き、尋ねたところ、新しいプログラムは発表されたばかりで具体的な内容は判らないので、クアラルンプールの本省に行ってくれとの返事もらいました。

8月にたまたま、マレーシアに仕事で出張する機会がありましたので、クアラルンプールにあるマレーシアの Immigration Office に行き、担当官と直接会い、詳しく話しを聞いて参りましたので、その報告をしたいと思います。

- 1) このプログラムは退職者だけを対象にしているのではなく、年齢に制限はない。学童を含む扶養家族、メイドさんも連れてきてよい(そのためか、窓口には中国系の家族が申請に来ている人が多かった。西洋人も見られた)。
- 2) マレーシア国内の銀行に次の額の定期預金をし、その銀行の statement(残高証明)を提出すること。この預金は、このプ

ログラムで取得したビザを使用している期間中は引き出してはならない。なお、マレーシアの銀行に口座を開くためにはパスポートと就業ビザの提出を求められますが(現地東京三菱銀行も同じ返事であった)、退職後に行く私達には就業ビザなどないので、シティーバンクを使うより手はないかなと思います(どなたか良いアイデアお持ちの方はいらっしゃいませんか)。シティーバンクですと、日本のシティーバンクの紹介状を持参すれば、開設してくれます(実際、私自身この方法で開設しました)。

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 一人の場合 | 100,000 リンギット以上
(約300万円) |
| 夫婦の場合 | 150,000 リンギット以上
(約450万円) |

或いは、毎月の収入が次の額以上であることを証明する英文文書を提出すること。

この収入は、給与、年金、金利、ロイヤルテイ、その他でもよい。日本で得る給与である場合は、雇用者から英文給与証明を出してもらおう。

- | | |
|-------|-------------------------|
| 一人の場合 | 7,000 リンギット
(約21万円) |
| 夫婦の場合 | 10,000 リンギット
(約30万円) |

- 3) マレーシアで有効な医療保険に加入していることを証する書類。マレーシアで医療保険を購入すれば簡単(東京海上火災など日本系保険会社でも売っている。内容にもよるが、ビザを取る目的のためには最も安いので年15,000円ぐらい)。或いは、日本で会社の組合保険とか、国民健康保険に入っていれば、それで、マレーシア滞在中の医療費用もカバーされる(海外での医療費領収書を出せば払い戻ししてもらえます)趣旨の英文の文書を提出してもよいという返事ももらいました。

提出する書類をまとめてみますと

4) マレーシャの病院・診療所に行き、健康診断を受け、診断書を提出する（この書式は Immigration Office からくれる）。東京海上の紹介による現地人医師の診療所で尋ねたところ、2-3時間の血液・尿・レントゲン検査等を行なった上で、書いてくれるとのこと（費用 200 リンギット、約 6,000 円）。これについても、日本で人間ドックのような健康診断を受けていれば、それを英文に訳し提出してもよいとのこと。

5) スポンサー（保証人）

新しいプログラムでは、マレーシャ国籍を持った人のスポンサーが不要になったと書いてありますが、担当官に確かめたところ、「必要である。見つけるのが難しいのであれば、Immigration Office の承認を受けた会社に頼めばよい」ということでした（そう言えば、窓口申請に来ている人達には、そのような手続きを助ける会社の社員らしき女性が同伴していました）。しかし、費用もかかるし、書いてあることと整合性が無く合点がいかないので、食い下がったところ、必ずしも、現地人スポンサーは必要ではないということに落ち着きました。

要は、申請者が信頼性のある人物であれば、スポンサーは必ずしも必要ではないということのようです。申請に行った時に、担当官に、現地人スポンサーになってくれるような知人はいないことを言い、誠実な印象を与えるようにすればこの要件は必ずしも課されないように思いました。

6) 申請書類が全部揃ったら、指定の納税所（一覧表をくれる）に行き、ボンド（保証金）を 100 リンギット（約 3,000 円）支払い、申請書フォームに支払いしたことを証する印鑑を押印してもらい、その後、書類一式を Immigration Office に持参提出する。

- 1) 申請者からのレター（ビザを申請したい旨を書いたレター）。
- 2) 一人につき 2 通の申請書フォーム IMM. 12（Immigration Office で購入）。
- 3) 一人につき 2 枚のパスポートサイズの写真
- 4) パスポートのコピー
- 5) 夫婦で申請する場合は、結婚証明書（謄本を現地日本大使館に持参すれば作ってくれるとのこと）か、又は、謄本を英文に訳し、日本の公正役場でサインしてもらい提出する。
- 6) 現地銀行の預金残高証明
- 7) 医療保険証書のコピー。健康診断書。

書類の提出先は、クアラルンプールの Immigration Office 4 階の 14 番の窓口（Malaysia My Second Home と書いてある）です。30 日以内に審査結果は出るそうです。許可されれば、5 年有効の数次ビザ（何回でも出入りできるビザ）が取得でき、これは、更に 5 年更新可能であり、更新手数料としては、毎年 90 リンギット（約 2,700 円）支払うとのこと。

Immigration Office には、結局二回足を運んで確認をしましたので、大筋では間違いのないと思いますが、混雑を極める Immigration Office で働く役人さん達は、非常に対応がスローであり（そのため混雑する）アバウト的なところがあるので、人によっては若干違ったことをいう可能性もありそうです。そういう場合は、こちらの事情と主張を充分説明し、交渉により、こちらに有利なように持っていったらよいように思いました（その余地がありそうな感触を得ました）。

以上

チェンマイを訪問する季節

チェンマイ在住 会員 No. 350 宮 博

◆チェンマイ旅行の最適時期は？◆

以前サラリーマン時代、北は北海道、南は九州まで転勤し、色々な場所で四季を過ごしてきました。その中で1年をいつ、どこで過ごすのが身体や生活にとって理想だろうか、漠然と考えをめぐらしていました。

札幌時代、当地出身の先輩が退職後、6～8月は住まいの東京から札幌に移り住み、ゴルフを楽しんでおられました。

他のある方は「夏は北海道、冬は沖縄や宮崎がいいよ」と、言っていました。北海道の夏は梅雨がなく涼しいし、沖縄や宮崎は台風がなく温暖だ、ということだと思います。

その当時の私は40代前半の働き盛りで、海外旅行やハッピーリタイアメントなどは夢の夢、子供の進学問題、住宅ローンやら、ただただ目の前の仕事と資金繰りで、それどころではない

時代でした。

なる程普段は東京、避暑は北海道、避寒は沖縄、宮崎と、国内だけを見ればいいアイデアだなあと思ったものでした。

その後念願であった早期リタイアが実現し、昨年6月のマレーシア、タイ旅行をきっかけにして、昨年11月から10ヶ月間のチェンマイのロングステイ(LS)を続けてきたわけですが、「南の会」のLSの地としては日増しに人気が高まっているようです。

そこで1年以上滞在を経験した者として、「チェンマイにいつ来た方がいいのでしょうか？」というテーマで情報の提供を考えてみました。

もしご参考になれば幸いです。

季節を文章にするのは難しいので、下記のような一覧表にしました。季節はこれからの10月からとしました。

(追記) 日本に帰国後、厚生労働省の全国高齢者名簿(長寿番付)を見る機会がありました。

上位10人の住所を見ると一人静岡県を除いて皆兵庫県以西でした。「暖かい土地」が秘訣、長寿の北限は静岡県までのようですね。

月	季節		平均気温		どちらがいい？	理由(あくまでも東京と比較した個人的意見です)
	東京	チェンマイ	東京	チェンマイ		
10	秋	乾季	17.6	26.5	日本	まだ暖かいし、晴れの日も多くスポーツの秋
11	〃	〃	12.6	24.4	そろそろチェンマイ	中旬以降になると日も短くなり、寒くなってくる
12	冬	〃	7.9	21.7	完全チェンマイ	平均気温を見ても、東京の6月と同じですが、どちらかという初秋の感じがします。朝晩涼しいが、日中は残暑の頃のようなようです
1	〃	〃	5.2	21.4	〃	
2	〃	〃 暑期	5.6	23.6	〃	
3	春	〃	8.5	26.5	そろそろ日本	序々に暑くなる。花粉症の方はチェンマイで
4	〃	〃	14.1	28.9	完全日本	桜を見たいのが日本人
5	〃	〃 雨季	18.6	28.7	〃	初夏のにおい、日本は チェンマイは真夏 ベストシーズン
6	夏	〃	21.7	28.0	〃 どちらでもよい	梅雨好きの方は日本ですね どちらでも いいでしょう
7	〃	〃	25.2	27.7	梅雨明け 完全チェンマイ	梅雨明けの日本は猛暑 チェンマイは朝晩 涼しい
8	〃	〃	27.1	27.3	〃	
9	秋	〃	23.2	27.2	日本	中旬以降は日本…この気候がチェンマイの11 ～2月ぐらいか

ダバオにヘルパー養成

教室新設

ダバオ在住 No. 341 平野雅一

ダバオ郊外のトリルという地域では1994年から将来の日本向けヘルパーのリーダーを養成しています。その一環として、今年年初より日本にある老人ホームでフィリピンからの体験学習生を受け入れていただいています。

3ヶ月間の体験学習終了後、体験学習生に対する評価表を提出していただいているのだが、その総合評価は5段階で「4」や「5」を頂くケースが大半である。外国人だから多少のその評価基準にお気使いいただいているのかもしれないが、養成している側からすればうれしい限りである。（実はその体験学習生の中には当会員の長内さんの教え子もいます。）

今フィリピン国内ではヘルパー（フィリピンではケアギバーという）として日本に働きにいけるという話題で盛り上がっています。その噂を利用して日本語教室やケアギバー養成教室があちらこちらで新設されています。

確かに日本は高齢化の問題を抱えています。2025年には要介護者が525万人にも膨れ上がってしまいます。でも、その担い手がいないのが日本の実状です。だからと言って、すぐにでもケアギバーとして日本に働きにいけると信じてしまうのはフィリピン人の特性である。

噂を信じて、日本語教室やケアギバー養成教室に集まった生徒たちは、1年後か2年後に、授業料だけを吸い取られたことに気付くのでしよう。

ただし、数年後にはヘルパーに対して就労ビザが認められる可能性が十分あるのも事実です。その時期に前後して、ジャパゆき派遣業の様なエージェンシーが多く参入してくることは誰でも想像がつかます。しかし、介護業界ではジャパゆき派遣業のシステムは通用しない。お金のためだけに働けるほどあまい業種ではない。そ

して、数年後「やっぱり外国人は日本の高齢者介護はできない」というレッテルをはられてしまう時期が必ず来ます。私たちも、その他同類と見られてしまう危険性があるかもしれません。

そんな状況の中、今年8月に私の事務所のあるドミトリーの場所を活用してヘルパー養成の「ダバオ教室」を開設しました。

法的な障害があり、看護婦・助産婦限定の口コミだけによる募集となりました。面接に来た25名に対して強調していったことは以下のとおりです。

1. この教室で学んでも日本にいけるチャンスがあるわけではない。
2. 私たちは日本での就労斡旋業者ではない。
3. もし、将来就労ビザが認められて日本に働きにいけるチャンスがきても、給料の満額を得られるわけではなく、給料の1部はあなた方が住んでいる周辺の貧困集落へのNGO活動資金に使うことになる。
4. 日本語・介護技術・日本のマナーを習得すること。
5. NGO活動に積極的に参加し、体験を通じて奉仕の心を養うこと。
6. 日常生活では相手の欲していることを見抜き、手助けできる力を身に付けること。

授業料がタダとはいえ、以上のような条件であっても、初回の授業には25人中20人もの生徒が集まった。

このうち何人が挫折し、何人が残り、日本の高齢者を助けに行くのであろうか？ 彼らが（彼女ら）が日本のお年寄りを助けている姿とフィリピンでNGO活動している姿を想像すると自然に胸の鼓動が高鳴ってしまいます。

このプロジェクトに参加なさる方はいらっしゃいませんか？お金は要りません。行動していただける方が必要です。

現段階でそんなに実現性は高くはありません。しかし、夢を追い続ける過程の中に必ず感動があるはずです。

ダバオ在住 生きがい研究所所長 平野雅一

ウェールズからの便り

会友 長島 稔

◆ 子供たちに囲まれて◆

こちらに来て 4 ヶ月が経ちました。私達が通う学校の夏休み休暇も終わり、新学年が始まり、ピカピカの新生が入ってきました。

私達はイギリスのウェールズ地方の小さな田舎町に来ています。私はその町の小さな小学校に、妻はこれに隣接する幼児学校(5歳から7歳まで)で教え始めました。私達はボランティアで子供たちに日本を紹介するというのをこの学校で1年間やっています。日本の紹介といっても何から手をつけていいか戸惑いますが、まずは日本語の「おはよう・こんにちは」や「数字の1から10まで」、折り紙などから教え始めて、今までにこいのぼり、紙芝居、童謡、七夕祭りなど楽しみながら日本のことを学べる授業になるよう骨を折っています。七夕祭りではこの地には自生していない竹を苦労して確保し、すべてのクラスで笹飾りを作りました。紙で作った果物や野菜、切り紙細工などをかざります。願い事が叶うと聞いて、みんな熱心に短冊に書いて吊りました。こちらの子供たちはどんな願い事をするのだろうと、私達は興味津々でした。生徒が話しかけてくる言葉が早くて分からず、休憩中にお茶やお菓子を食べながら先生達がワイワイ話している内容はチンプンカンプンです。教室で教えるときもカタコトの英語ですが、慣れてくると何とかやっていけるものです。それでも生徒から質問が来ると、聞き取れないことが多く、担任の先生が解説してくれます。そんな授業でも私が行くとみんな大喜びです。時間中もみんなとても熱心です。全クラスを回るので1つのクラスには週に1~2度しかいけません。自分のクラスにいつ来てくれるのかと何度も聞かれて困ることしばしばです。

◆ 駆け落ち夫婦のような借家住まい◆

当初ホームステイのつもりでしたが、受け入れ先が決まらず、借家住まいとなりました。家具つきの借家というものがなく、私達が入居する直前に家具を入れたので、本当に最低限の家具があるだけで

した。まるで『駆け落ちした二人が始めた茶碗と鍋だけの新婚生活』みたいな何もない生活からの出発でした。どの家にも車が1~2台はある車社会で車がないのはウチくらいのものでしょうか。ここには1年しかいないので、何でも買うわけには行きません。それでも細かい日用品はどうしてもいります。机と飾り棚がどうしても必要で、近くの町まで買いに行き、バスに乗せてもって帰ったときは大変でした。また日用品や食料も毎日少ししか買えません。学校の帰りにいつも二人でコープに寄って、買い物のビニル袋を提げてテクテク帰るのです。

電子レンジもないので、妻は日本から持っていったステンレスの鍋ですべてをこなしています。食材もこちらのもので苦労しながらうまく調理してくれています。イギリス風日本料理というか日本風英国料理というか、現地の食材に日本の味付けをして、毎日おいしく戴いています。

いつかどこかの国へ行ってロングステイをしてみたいと思っていたのですが、全く予期せぬことからイギリスでロングステイをはじめることになったのです。南の会に入って、マレーシアのロングステイのお話を見聞きすることがたびたびあり、その優雅さにあこがれていましたが、ここにはそんな優雅さは全くありません。しかしどこかの南の国の優雅なロングステイにしても、住み始めはこんなことからかまれませんか。

◆ 予期せぬこと◆

先日住民税の納税通知書が郵送されてきました。税金まで払うとは聞いていませんでした。1ヶ月78ポンド、年間700ポンド(どういう訳か6月からの納税です)の納税額です。①収入がない、②永住ではない、③給料をもらっての活動ではない、の3点を理由に税金免除申請を出しました。2ヵ月半して「考慮の余地あり、ビザのコピーを送れ」という手紙が来て喜んだのもつかの間、あくる日に「3ヵ月分滞納しています。7日以内に納税してください。」という督促状が届きました。手違いには違いないと思いましたが放置するわけには行かず、遠くまで役所を探して行ってきました。窓口で事情を話すと別室に通されましたが、何とそこはテレビでおなじみの刑務所の面会所みたいところでした。パスポート

を見せて長い間待たされた後、結局「国による特別扱いの入国・滞在ではないので、税の減免は認められない」ということになってしまいました。この国の法律がどうなっているのかまだ良く分かりませんが、イギリスや他の国でロングステイする場合、税金はどうなるのでしょうか。

◆ イギリスの医療は無料? ◆

こちらに来てまもなく妻が風邪を引き、なかなか直らないので医者にかかることになりました。知らない国で医者にかかるのは不安です。システムが分からない上に言葉の壁があり一苦勞です。妻は医者に行き、登録を済ませ(この国では医者にかかる前に公的な登録が必要だと言うことです)、診察してもらって、薬は医薬分業なので薬局へ行って買ってきました。医療費ははじめ 20 ポンド(約 4000 円)だと言われたのが、50 ポンド紙幣でお釣りがなくて、結局無料になったと言うのです。一旦払って戻ってくるのが、簡略化されたのだと彼女は勝手に解釈していますが、システムはまだ分かりません。お蔭様で妻はよくなり、元気になりました。

数日後、今度は私が風邪を引きました。学校で張り切りすぎたせいだと妻にひやかされました。確かにオーバーヒートのエンストといったところですが、休日明けまで待っていると、もうほとんど治っていたのですが、またと無い経験だと思い、医者へ行きました。受付で簡単な届けをして、若い女医さんに看てもらったら、大丈夫ですと言われて、薬も必要ありませんとのことでした。受付に行くと、これでおしまいですとのこと、「費用は?」と聞くと、いらぬと言います。「奥さんもそうだったでしょう。」と。「でもこの国の保険に入っていないよ」と言うと、ちょっと戸惑った様子でしたが、「いいんですよ。」と言ってにっこり笑いました。私は「ありがとう」と言って帰りましたがどうも腑に落ちません。この国では保険に入らなければならない、そうすれば一般的には医療費は全額無料ですが、一年以内の外国人滞在者は保険に入ることができないということだと聞いています。私達は海外傷害保険に入っています。これは医者にかかれば全額支払い、日本に帰ってから保険で戻るシステムです。そのどちらでもない今回の措置はどう理解すればいいのでしょうか。

◆ イギリスの子供たち ◆

学校で子供たちと一緒にいると、子供がとても可愛くなってきます。自分がこんなに子供が好きだったとはここに来るまで知りませんでした。子供と接しているといろんなことがあります。ここではその中の一つを紹介しましょう。

(5/30) 10 人くらいのクラスは私が一番よく行くクラスです。今日も病気で担任の先生が休んでいて、臨時の先生が授業をするのを見学することにしました。子供たちは私が入ってきたので大喜び、こいのぼりをつくるのか? スライドを見せてくれるのかと大騒ぎでしたが、今日はしない、来月だと言うとがっかり。そのあと先生が配った用紙に家族の絵を描いて説明文をつけるという勉強に誰も熱が入りません。このクラスは前にもけんかで学級崩壊現象を起こしたところですが、私は一人一人のそばに行くとこれは誰だい? おかあさん? 男の兄弟は何人いるの? などと聞いて何とか描く気にさせようと思いました。

このクラスにエイミー(仮名)という小柄な女の子がいます。その子にも同じように聞いていると横から男の子がいじめるように「お母さんはいない。死んだ。」と言いました。エイミーは見る見る目に涙をためて泣きそうです。私はこの子がとてもかわいそうになって肩を抱いて、「よしよし」をしてやりましたがうまい言葉を知らない私は何も言ってやれませんでした。

その後、勝手に動き回る子、ちょっかいを出す子、ほかの事をやりだす子と騒がしくなってきました。その中である子が私に「ブッシュを日本語でどういうの?」と聞いたので、とっさに言葉が浮かばなかったのですが、「zassou(雑草)」と答えてやりました。そうすると子供たちがエイミーに向かって「zassou」「zassou」と言っただけです。エイミーはキッと椅子から立ち上がったので、私は慌ててエイミーの席へいき、「どうしてみんなは君の事をブッシュと言うの?」と聞くと、「私の髪の毛がブッシュみたいだって言うの。」と言いました。それで私は「君の髪はカッコいいよ」と言って、もう

ひとつ気持ちが伝わっていないように思ったので、「僕は君が好きだよ」というと、エイミーは「I like you too.」と言ってくれました。このときわたしは「ああ、これでこの子とは仲良しになれた。」と思いました。

(7月初旬) エイミーが一週間以上も休んでいます。どうも気になって同じクラスの仲良しの女の子に「エイミーはどうしたの?」と聞くと、「チキン・ポーク」だと言うのです。「鶏と豚肉??」怪訝な顔の私に彼女はitchと言って掻く真似をしました。その瞬間私の頭の中に毛をむしられた鶏のブツブツした肌と棒に串刺しになった豚の丸焼きの姿が浮かび、ギョッとしました。

数日後、エイミーのクラスに教えに行ったとき、まだエイミーが休んでいるので、担任の先生に尋ねるとまたしても「チキン・ポーク」だと言うのです。「????」という顔の私に、体中湿疹が出る病気で、子供が良くかかると言いました。そして子供たちに「これにかかった事のある子は手を挙げて」と言うほとんどの子が手を挙げました。私はハシカみたいなのだと了解しました。ところでどうして「鶏と豚肉」と言うのか知りたくて、手帳にスペルを書いてもらうと、chicken pox と書いてくれました。あとで辞書を引くと「水疱瘡」とありました。チキンのような鳥肌の湿疹が体中に出ると言うことでしょうか。それにしても豚の丸焼きのような肌にならなくて良かったと思いました。白人特有の肌の白い子でしたから。

(7/15) 前回の私の授業のとき彼女は休んでいたため七夕の短冊を作れなかったので、今日の授業の合間を縫って、願い事を書かせました。大体どの子も考える時間がかかるのに、エイミーはすぐに書き出しました。もう書くことを決めていたんだと思います。そして書いているのを横で読んでいて最後の文字が読みづらくて、これ何?と聞くと、彼女は声を出して”I wish I live with mum.”と読みました。隣の生徒に聞こえるのに私は声に出して読ませてしまっって悪いことをしたと思い、他の子供たちにはみんな

短冊の裏に名前を書かせるのですが、この子には名前を書きなさいといえなくて名前なしの短冊を笹に吊りました。名前は書かなかつたけれど、どうか、なにとぞ、天国のお母さんに届きますように。

メーリングリスト・ミニ情報

チェンマイ支部を仰せつかっている鈴木です。

会員の皆様の関心のある介護についてチェンマイにある介護の学校を訪門した際の報告をいたします。経営者でもある校長先生に色々と質問を交えてお話しを伺いました。学校の教育期間は9ヶ月で6ヶ月は介護を主に学習して3ヶ月は病院等で(看護)実習するそうです。就職率は100%だそうです、病院の看護婦の補助。ケアを必要とする人のケアヘルプ等です。校長先生は総合的にケアヘルプをしたい計画ですが、ヘルパーのみの派遣もOKです。

最小単位1ヶ月でも良いとの事です。関心のあるヘルパーの料金ですが1ヶ月(8-10時間)5000b t日本円で15000円とのことです、もし24時間の介護が必要であれば交代勤務が可能です。30000万円位との事です。

今後日本語も習わせて日常のケアに不都合の無いようにしたいと言っていました。大事な事はもし何か有った際学校の近くの病院と提携しているので心配ないと言っていました。

学校の方針は今後予想されるシルバーエイジ増加等積極的に受け入れ体制を進めたいと話していました。

メーリングリスト・ミニ情報

このほど、フィリピン退職庁(PLRA)は1年未満の滞在について所定の手続きをすると移民局の延長手続きを不要にし、永住ビザのような預金も必要ない措置を来月から始めるとした。条件としては(1)指定のリゾートホテル、コンドミニアムに滞在する。(2)1年未満(3)11歳以上で無犯罪

手続きは(1)退職庁にe-mailかファックスで氏名、パスポートナンバー、来比の航空便名、到着日を知らせる。(2)入管がその資料を保管し、入国の歳にカウンターでP500を徴収する。

上記の処理で1ヶ月間滞在可能になる。この間にホテル、コンドミニアムを決めて契約書を貰う。契約書の写しとP8500の払い込みで1年間滞在可能になる。 セブ/スズキ

南の会・伝言掲示板

1. 表紙の言葉

No. 96 宮澤 英光

今回の表紙は甲信越支部長の宮澤英光さんで、コタキナバルのギナバル山(4,100m)を描いたものです。登山も出来て植物や動物分布が熱帯から極地まで見られ、貴重な自然が存在しているようです。また雪溪で削られたカールが見られるとのこと。この絵はふもとのビューポイントからの印象を描いたものです。

なお、編集部では来年の春季号を目標に、表紙を一新すべく計画しております。絵ですとどうしても一部の方に負担がかかり過ぎますが、写真だと貴方でも表紙を飾れます。ご期待ください。

2. 図書案内

*狙われる日本人ーこれが海外犯罪の手口だ

著者：戸田智弘(当会会員) 発行社：NHK生活人新書 2002年9月発刊 定価：680円
日本のパスポートは高く売れる、日本人はお金持ちである、日本人は無防備である、日本人は他人を簡単に信じる、日本人はNOと言えない、日本人はうまい話に乗りやすい、など日本人が狙われる20の理由と、具体例を網羅した本。この本を読んで気をつけましょう。

*オセアニア&アジア 1500円の宿

著者：小林克己 発行者：日本ユースホステル協会 2002年8月発刊 定価：1,800円
オセアニアとアジアのユースホステルの情報を満載。掲載国は、オーストラリア、ニュージーランド、ニューカレドニア、韓国、香港、台湾、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、インドネシア、スリランカ、パキスタン、インド。

*南の島に暮らす日本人たち

著者：井形慶子 発行者：ミスターパートナー 2002年6月発刊 定価：1200円
サイパン、テニアン、ロタ、ヤップ、パラオ、について、そこに暮らす日本人、およびそこにロングステイしている日本人の様子を記事にしている。また各国の情報、ホテル、ツアー会社やダイビングスポットの情報を掲載。

*年金でもできる海外ふたり暮らし(タイ編)

著者：中村聡樹 発行者：中央公論社 2002年4月発刊 定価：1500円
タイのバンコク、ホアヒン、チェンマイ、の情報およびそこに住む日本人の例を紹介している。チェンマイの章では「南国暮らしの会」のチェンマイ支部長、鈴木宣夫さんが登場。

*アジアのツボ(東南アジア編、および中国、香港、台湾、韓国編)

著者：柳沢有紀夫 発行者：スリーエーネットワーク 2002年9月発刊 定価：各1500円
グルメ情報、各国の習慣など、雑学的内容が中心。アジア編にはベトナム、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシアが掲載されている。

支部・委員会からのご連絡

◆関東支部より 支部長 宮崎 哲郎

1. 関東支部14年度第2回情報交換会

9月7日(土)14年度第2回情報交換会が開催されました。今回事前のお知らせに多少問題があった割には62名のご出席を頂きました。

会報でお知らせしたように会場は定員160人の場所を用意したお陰で皆さん窮屈な思いはせずゆったりとお話を聞かれたようです、次回も同様の会場を用意する予定です。

講師は フィリピン大使館 横山様、国際コンサルタント 浅野様、オーストラリア・ゲートウェイ社 小川様、当会会員 平沢様、及びバリ島にて「生きがい作りと現地交流」の場を個人で立ち上げ中の小林様(臨時講師)。

以上の方々によるいずれも貴重なお話を頂きましたが、活発な質疑で時間が不足気味でした。

今回新しい試みとして、新入会員の出席者にはベテランの理事がマンツーマンで付き添いお世話することにしました。初めての参加は戸惑いと不安があるものです。それを少しでも和らげ早く「南の会」に馴染んでいただく事を期待いたします。

また、藤本理事より「434大野理事夫妻が元オニャンコクラブのメンバー国生さよりさんとテレビ朝日に出演するためビデオ撮りに近々パースへ行かれる」との報告と本人及び奥様よりユーモアたっぷりのご挨拶もあり、会場より大きな拍手が沸きました。

更に当日、JALの子会社のシニア世代向けホームページ「J-らいふでざいん」に当会を「愉快的仲間たち」として掲載するための取材(吉澤氏)が開始から懇親会まで行われました。このHPのアドレスは <http://www.jalux.com/ld/> です。現在見ることが出来ますのでアクセスしてください。大変素晴らしい「南の会」の紹介記事になっております。

なお素晴らしいことには取材をされた吉澤さんも我々南の会に入会「愉快的仲間」に加わら

れました。

2. サロン 「南の会」(毎月第2土曜日午後1時より、原則新高輪プリンスホテルで開催)

「夏季号 会報」以降のサロンは下記日時に開催致しました。

平成14年7月13日(プリンスホテル) 38名参加

平成14年8月10日(大崎) 41名参加

平成14年9月14日(プリンスホテル) 24名参加

ご覧のごとく大変多くの方が出席され、嬉しい限りですがホテルの場合部屋が手狭ですので、大崎労政会館を8月のサロンは試しに使ってみました。なかなか好評ですので、今後は大いにここを会場にしようとして計画しております。

毎回メーリングリスト「南国グループ」でご案内しますので、場所の確認をお願いします。

メーリングリスト未加入の方は下記にお問い合わせください。(メーリングリストは高澤理事までお申し込みください。64頁参照)

宮崎：電話&FAX 03-3472-9954

菊地：電話&FAX 047-463-5183

◆支部推進担当より 担当理事 宮崎 哲郎

1. 東海支部

東海支部の設立は春季号でお知らせしましたが、支部長も決まりいよいよ活動開始です。

現在支部は約23名の会員が居られます。支部長には会員 No. 487 の横井さんに決まりました。皆様のご支援をお願いします。新支部長のご挨拶をしていただきましたので下記致します。**東海支部長就任のご挨拶 横井保夫**

皆様始めまして、私はNO. 487の横井保夫でございます。先回7月20日の東海支部第2回の集まりで東海支部長に任せられてしまった訳ですが、さて何をやるのが支部長の責務であるのかさっぱり判りません。そこで、私が南の会に入るに到ったきっかけとか、私が何故南の国にこだわる様になったのかについて、簡単に述べてみようと思います。それで皆様が南の国に住む事に、よりいっそう興味を持っていただければ嬉しく思います。

今年の4月11日から26日まで私はタイの

チェンマイに約2週間滞在いたしました。タイはちょうどソンクラの水祭りで町を歩いておりますとバケツや水鉄砲で頭の前から足の先まで水をぶっ掛けられます。ニコニコ笑いながら水をかけてくれるのには怒るわけにもいかず、逃げ込んだあるレストランで寺前伊蔵さん(No.32)に出会いました。寺前さんは今年82歳といわれましたがとても82には見えません、誠にカクシャクとして一人で北タイを旅行して居られました。それから帰る日まで寺前さんと、チェンマイで永らく長期滞在用のホテルを経営しておられる大八木さんと、私の家内であちこち歩き回らせていただきました。(中でも4人で孤児院にお米を持っていった時の親のないそれでも笑顔の素敵なお子さんに出会った事は忘れられない出来事でした)話がそれてしまいましたが寺前さんから南の会なるものを紹介されました。以上が南の会に入ったきっかけです。

私は仕事の関係で、タイのバンコクに5年、インドのボンベイに4年、インドネシアのジャカルタに13年、合わせて22年南の国に住んだ事がありまして、昨年日本に帰ってきたわけです。しかし私自身南の国の人になってしまっていたわけで、日本での生活に現在はリハビリ中といったところです。冬は寒いし、夏は暑いし、物価・税金は高いし、といった感じです。

何よりも南の国の人達はおおらかで、陽気で、親切で、心優しいところが魅力です。確かにお金がない人達が多いのですが、心の中は日本よりもずっと豊かな人達。特に年上の人を大切に人達です。介護の心は誠に羨ましいぐらいで是非皆さまに現地で体験をされる事をお勧めします。タイ語で“マイペンライ”(気にしない)、インドネシア語で“ティダアパバ”(なんも無い)または(大丈夫)、インドで“ノープロブレム”(問題無し)は現地で日常良く使われますが、日本での意味(上記)とは微妙に違います。実は死ぬまで永久に続く息のながい深い意味があるように思われます。

なぜならこれらの言葉には反対語に当たる言

葉は現地の言葉ではありません。相手を思いやる心がこれらの言葉には含まれてそれがいつまでも途切れる事が無いという意味があると思います。南の国での体験談については面白くて楽しくてほろ苦い話が多々ありますが、また機会があるごとにあまり構えずにお話をさせてください。今後とも宜しくお付き合いの程お願い申し上げます。

2. 九州支部

今回故郷の九州を訪れる機会があったので竹村支部長にお願いし、有志の方々にお集まり頂き、会の最新情報や「南の会」の将来などお話しできる機会を得ました。皆さんさすがに九州男児一騎当千の士の集まりで大変有効なお話し合いが出来ました。(宮崎)

九州支部報告

竹村毅俊支部長

九州支部を活性化し、みんなで旅を楽しもう!

(宮崎副理事長を囲んで九州支部サロン会)

九州支部では所用で福岡に来られた宮崎副理事長を囲んで、8月27日ささやかなサロン会を開きました。急なことだったこともあって、支部の皆さん全員への連絡ができなかったため、出席は宮崎理事の他、稲延さん、岡村さん、そして竹村の3名でした。第一部喫茶店の部では宮崎さんから14年度総会と最近の「南の会」の動向など、詳しく報告してもらいました。第二部は居酒屋に場所を移して飲みながらの懇談会になりました。初めてお会いした岡村さんがフィリピンのダバオ生まれで、13歳まで現地で育った事が分かり、話は一気に南の島の話に飛びました。戦前のダバオの話、そして第二次世界大戦でのコレヒドール島やバターン半島での激戦など話題はどんどん広がっていきました。

ニュージーランドに3ヵ月、マルタ島に3ヶ月とホームステイを繰り返しながら英語研修と旅を楽しんできた九州支部の名物男、酋長こと稲延さんからは会報には載せられないような旅の裏話が次々と披露され、笑いに包まれました。

また宮崎さんからは今年行ったチェンマイな

どの珍しい話や現地に住む日本人シルバーの優雅な生活などがユーモアたっぷりに話され、私たち3人もチェンマイに大いに興味をそそられ、近いうちに支部の皆さんも誘って是非行きたいものだという話になりました。飲むほどに酔うほどに話はだんだん支離滅裂になり、この後は何を話したか定かではありませんので、九州支部の第一回サロン会の報告をこのへんで終了します。

宮崎 補足

皆さん酔眼朦朧の世界であったため、下戸の私だけが冷静に記憶しておりますが、月に一回この居酒屋で懇親会をやろうと、勢いに乗ってお決めになりました、月に1回はきついで2～3ヶ月1回ぐらいのペースをお勧めしたいです。では頑張ってください。



九州支部の面々

3. 甲信越支部会

支部のお招きにより素晴らしい安曇野の地での支部会に参加させて頂きました。

さすがに自然豊かなところにお住まいの方が多く日常生活の中に、山菜取り、きのこ狩り、熊との遭遇、狸や狐が出たりのお話があり感動いたしました。

いよいよチェンマイにロングステイされる宮沢支部長ご夫妻にエールを送ります。(宮崎)

甲信越支部報告 宮澤英光支部長

初秋の気配を感じるリゾート地”安曇野”で1泊し、盛大に開催されました。

期日：平成14年9月23日～24日(1泊2日)

開催場所：長野県安曇郡穂高町 「泉郷プラザホテル安曇野」

参加者：8名(宮崎副理事長、ペナン在住木村夫妻(山梨県)、橋本夫妻(山梨県)、関谷富三さん(新潟県)、宮澤夫婦(長野県))

午後3時より近況報告や情報交換に花が咲き、懇親会に続いて午後11時すぎまで時間の過ぎるのも忘れて楽しいまた有意義な時を過ごしました。LS先での生活ノウハウにとどまらず、日本の教育論にも話が転じ幅広く熱の籠もった会合となりました。翌朝それぞれ再会を約して散会しました。



楽しかった甲信越支部の集い

◆事務局総務担当より

担当理事：宮崎哲郎/菊地 功

1. 7月8日、三好聡監事がなくなりました(8月17日奥様から事務局に、薬石の効無く永眠された旨の連絡を受けました)。改めて三好監事のご逝去を悼み、故人の生前の功績を讃え、謹んでお悔やみ申し上げます。故人は非営利法人の経理業務に大変造詣が深く、本会の経理規程の原案を作成して頂くほか、本会の監事としてご活躍戴きました。心からご冥福をお祈り申し上げます。
2. 今回実施された会議および打ち合わせは以下の通りです。

7月21日：平成14年度第1回理事会

8月15日：正副理事長会議

8月25日：会案内書編集委員会ならびに企画委員会

9月14日：会案内書編集委員会(2)

9月23日：平成14年度第二回理事会

3. 今回は毎月のサロンに於いて活発な情報交換が行われたこともあり、ミニ情報交換会は行われませんでした。

4. 会案内書編集委員会を2回開催し、入会案内書の大幅改訂作業実施中、ただし改訂版発行は予定より幾分遅れる見込みです。
5. 次回会報で会員意識調査委員会にて検討したアンケートを実施します。また当「南の会」で企画する旅行会のご案内をする予定ですのでご期待下さい。

◆**会員担当より 担当理事：酒匂景輝/鈴木剛**

1. 平成14年9月23日現在 会員数340名
みなさまのお手元には、6月16日現在の名簿が送達されています。
今回6月16日以降の入会者の追加分名簿を会報に同封し送付いたしますのでお手元の名簿に綴じてご利用ください。
2. タイロングステイビザの取得について
タイにロングステイ中の五十嵐様（会員番号189）からタイのロングステイビザ取得の体験談と同氏がタイ大使館で入手したビザ取得の手続き案内を今回会報に同封してあります。貴重な情報ですので「南の会必携」に綴じて保存してください。

◆**インターネット委員会**

担当理事：高澤 弘晃

メーリングリスト登録のお願い

メーリングリストを皆さん、ご存知ですか、何度か会報で呼びかけておりますが、今だご存知のない方がおられるようです。特に地方にお住まいで会員の方との連絡が不自由な方にお勧めです。今流行りの電子メールを通して会員同士の情報交換の場です、毎日、会員の方が10通ほどのメールのやり取りがあります、自分の不明な点を聞いてみたい、一緒にロングステイする仲間を募りたい、なんでも結構です、是非、参加下さい。即 会員の仲間から回答があります。現在 150名ほどの方が登録済みです。 申し込みは

fwjcs5962@nifty.com

高沢宛にメールを下さい。

自分のメールアドレスと会員番号を書いて送ってください、勿論 携帯電話のアドレスでも構いません。

◆**編集担当より**

担当理事 小川護雄/小沢務/大野隆司

平澤信さんの東南アジア諸国見聞録はますます筆も冴え、貴重な情報を提供してくださっています。マイナーな国にも是非行ってみたいですね。

岩瀬さんが80才でパソコンをマスター(?)されたとのこと、負けてはいられません。せめてEメールくらい打てるようになりたいですね。

皆様のご協力で原稿の集まりも良くなっております。引き続き自発的に投稿いただけるよう、お願いいたします。

◆**広報担当**

担当理事：高澤 弘晃

東海地区が発足致しました。中日新聞社が以下の講演会を開催し、高橋昭氏(会員No.94)が講演をします。ご参加ください。

「タイで生活を楽しむためのセミナー」

日時：10月22日(火) 17:30開場 18:00開演

場所：名古屋市芸術創造センター

プログラム：

タイ伝統舞踊

講演 ～「微笑みの国」タイの魅力～ 中部大学 小倉先生

遊びの達人 体験談(高橋さんはこちらです)

長期滞在生活 AtoZ

お楽しみ抽選会 など計3時間

主催は 中日新聞社、後援 タイ政府観光庁、タイ国際航空、近畿日本ツーリスト

出席者は 600名を予定しております。

セミナーの申し込み方法は

往復はがきで、〒住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、〒460-8511 中日新聞社 広告1部「タイロングステイ」係まで。

ファクスでも受け付けます。FAX052-201-9752

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)
「南国暮らしの会」

理事長 池田 徳三郎
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-15-2-809
TEL/FAX 03-3947-8977

記事の無断転載、複製を禁じます